



始



大正十四年度

復興局技術試驗所報告

第一部(技術調查報告) 第三篇





本試験所ニ於テ施行セル調査實驗報告ハ之レヲ二  
 部ニ別シ第一部ニ於テ主ニ復興事業ニ關スル技  
 術試験並ニ之レニ關聯セル調査研究報告ヲ第  
 二於テハ主ニ材料並ニ製作物ノ試験成績ヲ編輯  
 報告スルモノトス

復興局技術試験所



發行所寄贈本



14.5-219

復興局技術試驗所報告目次

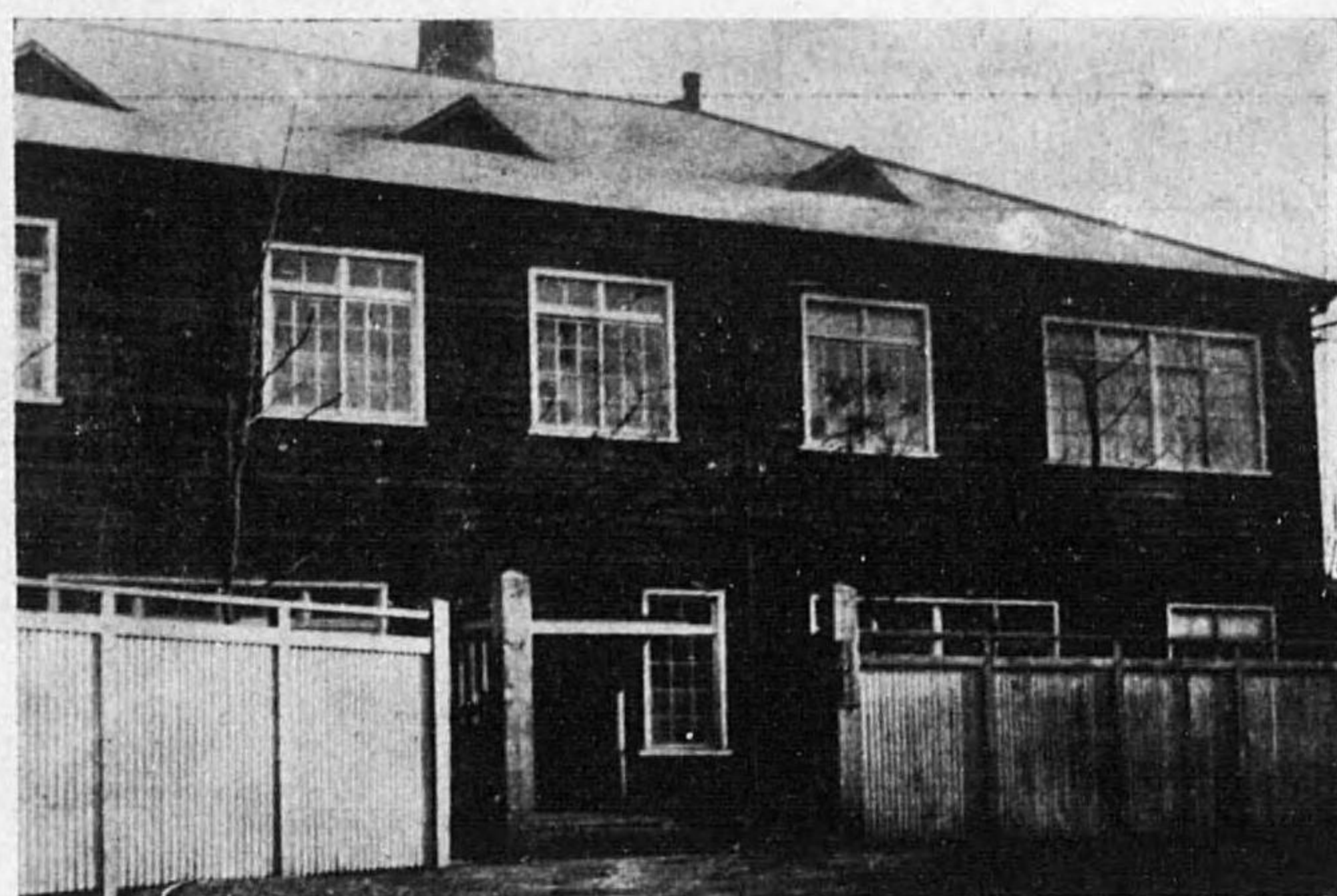
一、材料試驗裝置一覽

一、復興事業用鋪木ニ就キテ……………一

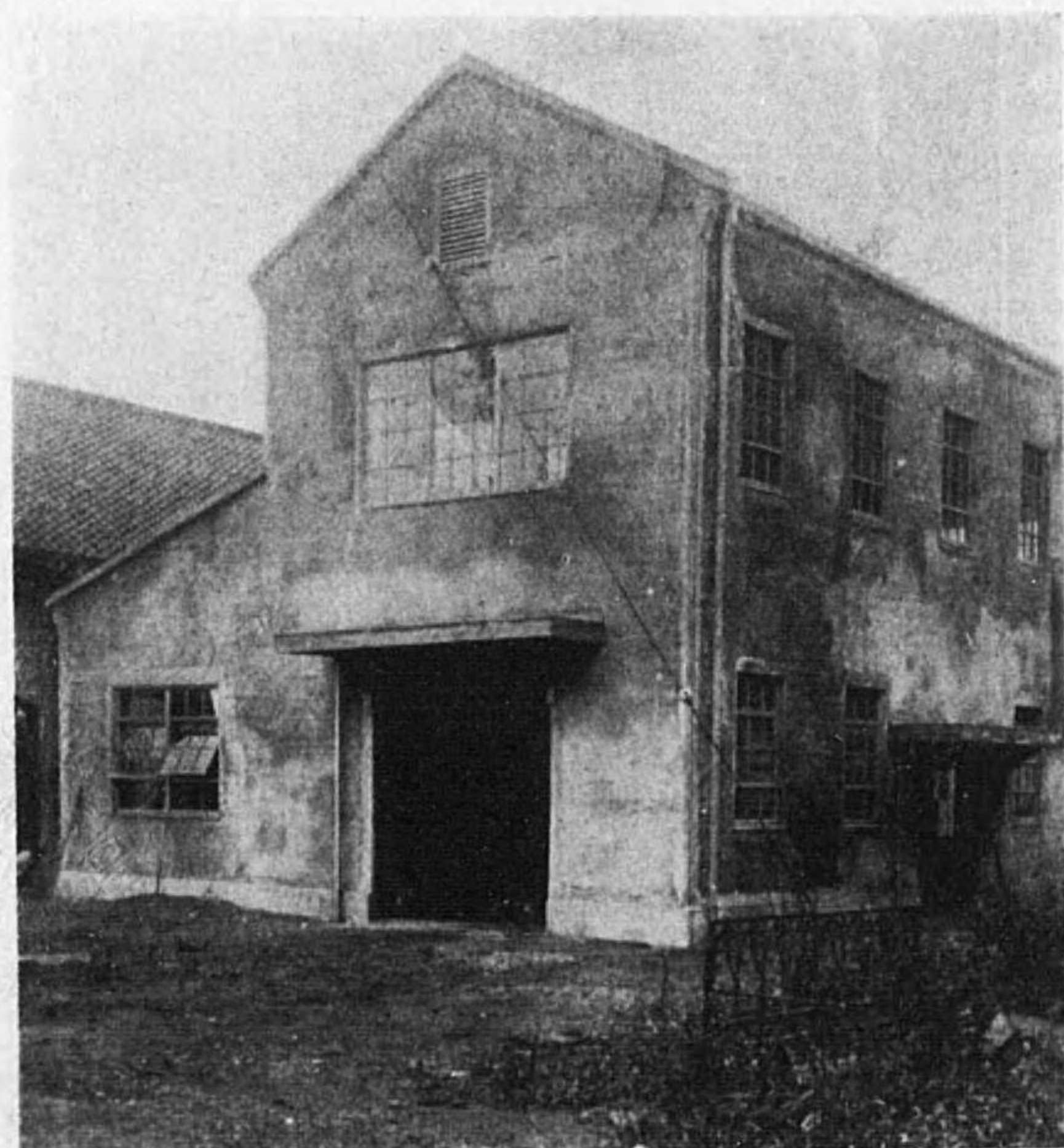
一、工事用重要石材產地調査事項……………一五

復興局圖書印本





復興局技術試験所

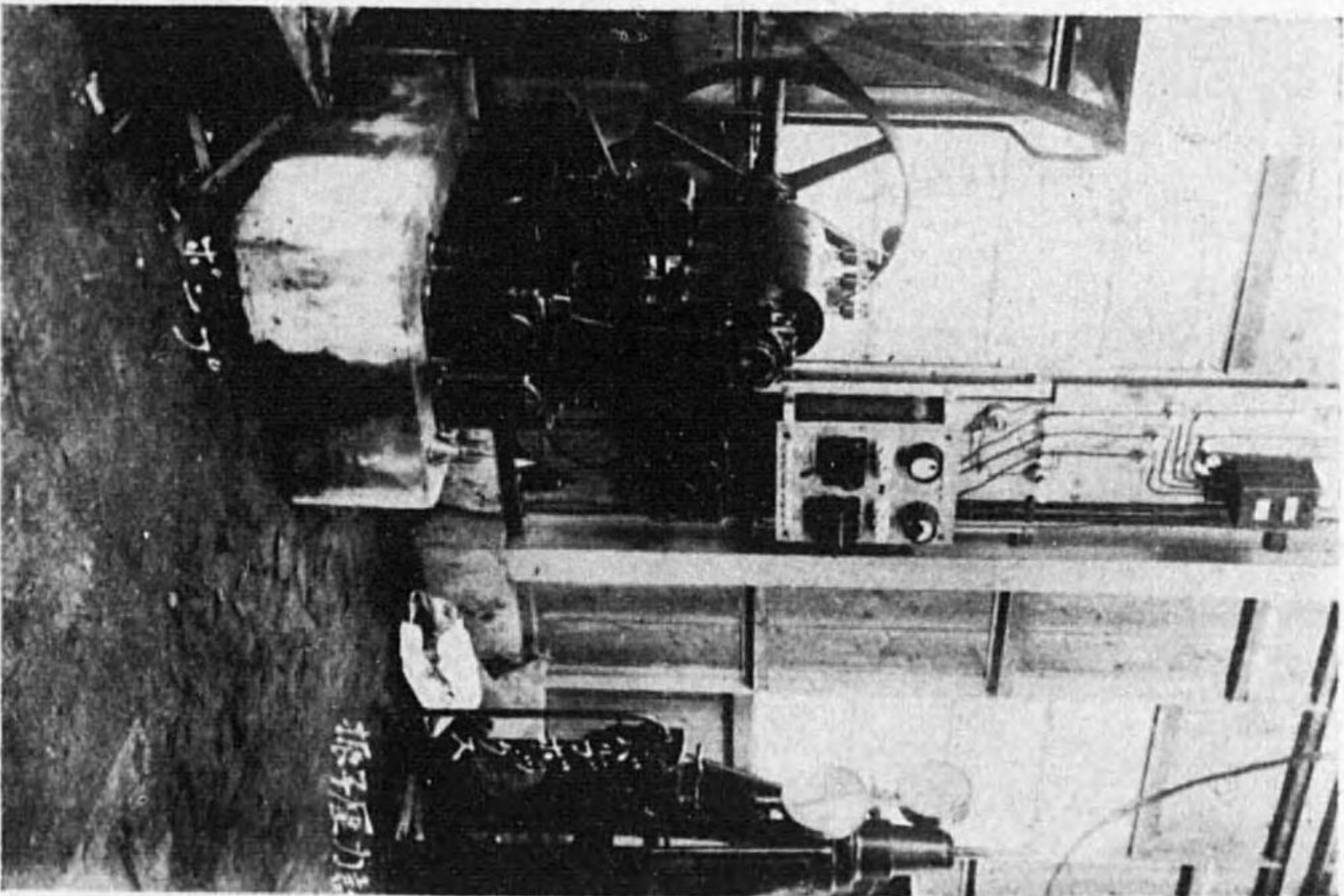


復興局技術試験所分室 (東京帝國大學工學部構内試験室)

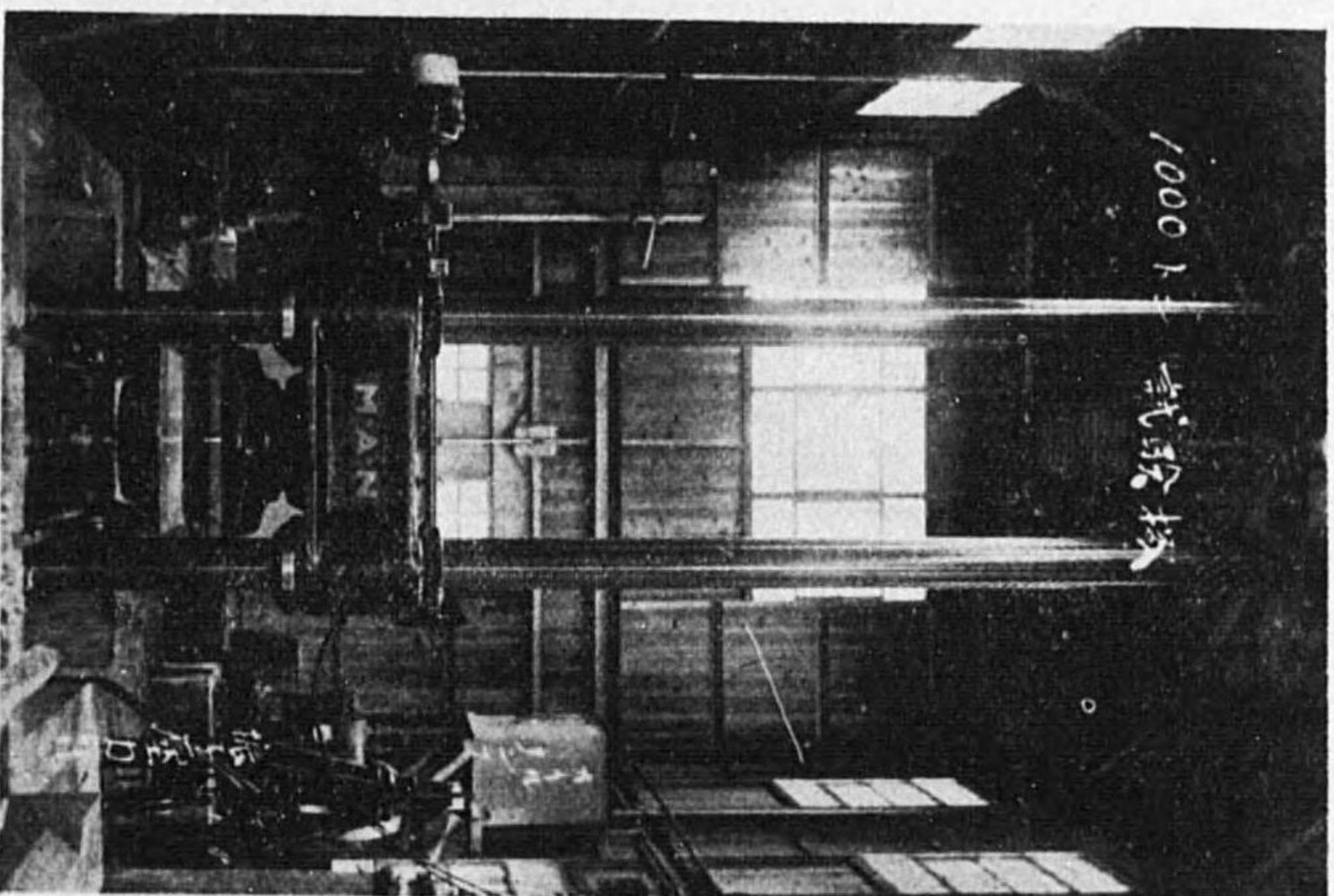
七六六六	五五	四四四	三二一	一一一	頁
二八五三	九四	九八六	三四九	四三二	
一一一	一	一	一	一	行
二八〇〇	三六	七二四	七一六	四四九	
廉露馬	隅萩萩	切里停	秋十	區	防
岸	用	軍落間	會又	利	腐
沼島軍	石川島	島	貨場	別	材
鹿靈馬	隅萩萩	切運停	秋十	區	防
岸	田	車葉數	層又	別	腐
沼島車	石川島	島	貨場	別	劑

第一部 第三篇 正誤表





ポンプ及壓力計



試験機

## 千噸試驗機大要

東京帝國大學工學部構内復興局技術試驗所分室ニ据エケタ最大能力約千噸迄壓縮シ得ル材料試驗機ノ大要ヲ報告スル  
(圖面及寫眞參照)

### 最大能力

(第一圖參照)

大ナル「ビストン」ヲ用フル場合ニハ  
小ナル「ビストン」ヲ用フル場合ニハ

一〇〇〇噸  
一〇〇噸

### 試驗材長サ

最長 四、五メートル

迄ノ試驗材ノ壓縮試驗ヲスルコトガ出來ル。

### 加壓方法

壓力ヲ出ス方法ハ水壓式 (Hydraulic Press Type) デ液体ニハ機械油 (Machine Oil) ヲ用ヒテ居ル。  
「ポンプ」ニヨリ加壓サレタ油ガ「シリンダー」ノ下方A又ハBカラ入り來ルト大ナル「ビストン」又ハ小ナル「ビストン」ハ押し上ゲラレ

ビストン斷面積X液体壓力  
丈ケノ力ヲ出ス事ニナル。

### シリンダー

第一圖ニ示ス様ニ「シリンダー」ハ二重ニナツテ居リ大ナル「ビストン」ノ中ニ又小ナル「シリンダー」ヲ具ヘテ居リ  
ノ中ニ小ナル「ビストン」ガ嵌ツテ居ル。「バルブ」ノ開ケ方ニヨリAヲ通ジテ大ナル「シリンダー」ニ油ヲ送ル事モ抜ク  
事モ出來レバ又別ノ「バルブ」ノ明ケ方ニヨリ小ナル「シリンダー」Bヲ通シテ油ヲ出シ來ル様ニナツテ居ル。  
大ナル「シリンダー」ト小ナル「シリンダー」ノ斷面積ノ比ガ約一〇デアアルカラ從ツテ壓力モ一〇〇噸ト一〇〇噸ノ割  
合ニナツテ來ル。精密度モ比ニナル。

### 壓縮臺

上下ニ壓縮臺ガアリ此ノ間ニ試驗体ヲ挟ンデ下カラ「ビストン」デ押し上ゲル様ニナツテ居ル。試驗体ニ一樣ニ壓力ヲ加  
ヘンガ爲ニ壓縮臺ハ「ルーデロフ」式球承 (Rudloff Ball Joint Link Type) ニヨツテ支ヘラレ何レノ方向ニモ廻轉出來ル  
様ニナツテ居ル。  
下ノ壓縮臺ノ四隅ニハ車輪ガ付イテ居テ「ビストン」ガ下ツテ居ル時ハ「レール」ノ上ヲ外迄引キ出ス事ガ出來ル様ニナ  
ツテ居テ重イ試驗体ヲ載セルニ便ニシテアル。



クロスヘッド (Cross Head)

上ノ壓縮臺ハ「クロスヘッド」ニ取り付ケラレテアル。此ノ「クロスヘッド」ハ「ブラケット」ノ上ニアルニ馬力  
ノ「モーター」ニヨリ「スクリューシャフト」ヲ上下スル様ニナツテ居ル。試験体ノ長サニヨリ「クロスヘッド」ヲ適  
當ナ高サニ上ゲル。「モーター」ハ「レバーシブル」デアルカラ「スギツチ」ノ切り様デ上下何レ共任意ニ出來ル。

ボ

加壓スルニハ五馬力ノ三「プランジャーポンプ」(3 Plunger Press Pump)ヲ用ヒ回轉數一分間ニ一五〇回、能力(Delivery)  
ハ一分間ニ五「リットル」デアル。

壓力測定(第二圖参照)

壓力ノ測定ハ振子式壓力計 (Pendulum Pressure Gauge) ヲ用フル加壓サレタ液体ガ「バルブ」ヲ通ツテGカラ入り來ル  
ト「シャフト」Dヲ押シ下ゲ鋼鐵帶ニヨツテ連結サレタ振子ヲ傾カセル。此ノ傾斜ノ度ヲ「ダイヤアルゲージ」ニ表ハス。  
振子ノ重錘ハ鑄鐵ノ圓板二〇枚デ成ツテ居リ各々取り外シガ出來ル。  
「ダイヤアルゲージ」ノ讀ミヲ成ル可ク精密ニスル爲メ從ツテ振子ヲ成ル可ク多ク傾カセル爲ニ試験ノ度毎ニ必要ナ圓板丈ケ  
シカ取付ケナイ事ニシテアル。

調

整「バルブ」

振子壓力計ニ附屬シテ「バルブボックス」ガアリ之レニ五ツノ「コントロールギヤ」(Control gear)ガ取り付ケテアル。  
即大ナル「シリンドー」ヘノ液体ノ入口及出口、小ナル「シリンドー」ヘノ液体ノ入口及出口「バイパス」(By-Pass)  
都合五ツノ「バルブ」ガアル。

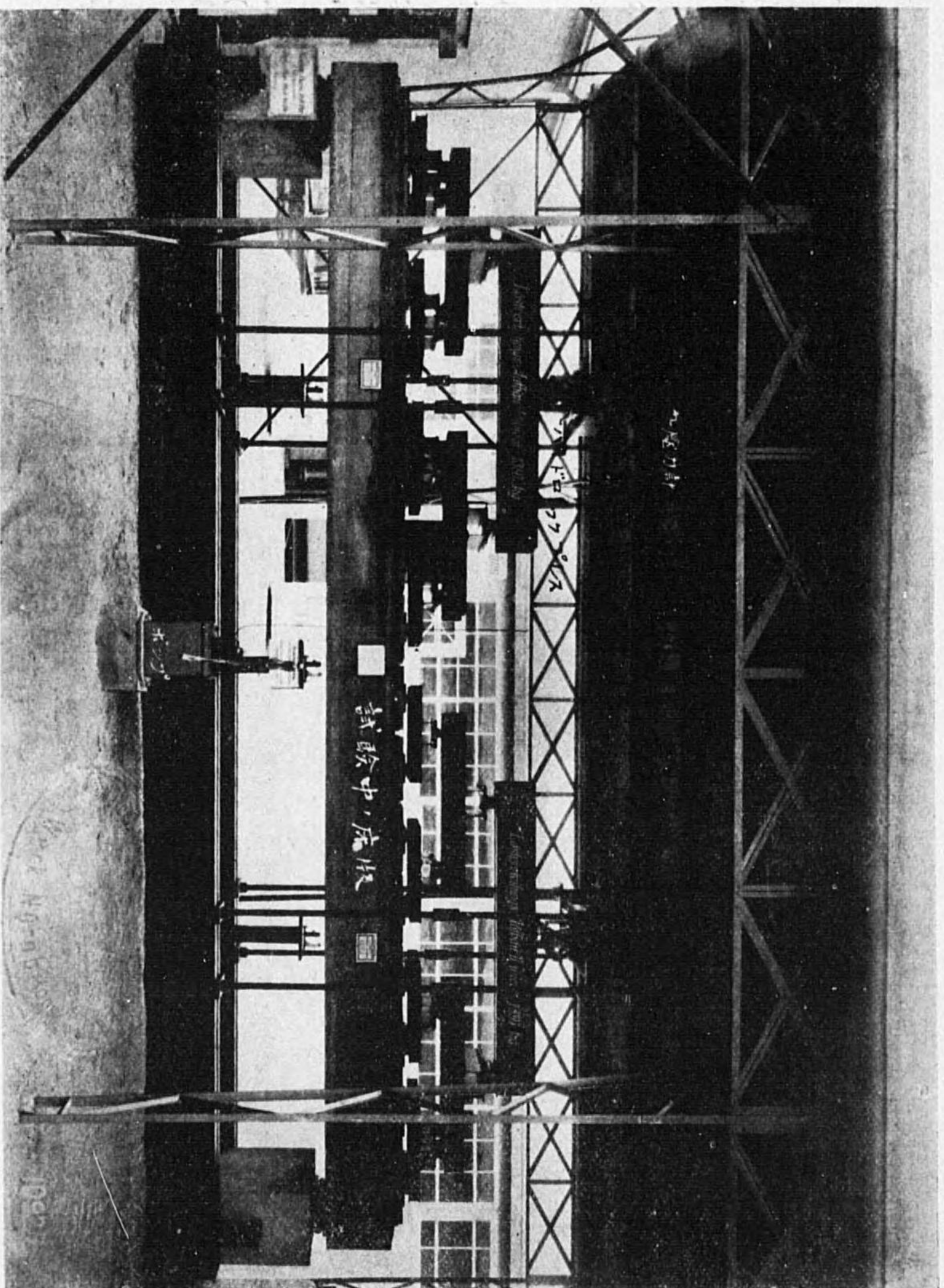
附

屬 裝 置

現在ノ處デハ此ノ試験機デハ壓縮及偏壓縮及長九〇「センチメートル」以下ノ彎曲ノ試験ガ出來ルノミデアル。  
張力及大ナル材料ノ彎曲試験モ出來ル様ニ附屬裝置ヲ作ル計畫デアル。

試験機檢定 (Calibration)

製作所ガ獨逸「バイエル」ノ工業試験所ニ依頼シテ「カリブレーション」ヲシタノニ基イテ種々試験ノ結果ヲ算出シテ居  
ル次第デアアルガ本試験所ニ於テモ「カリブレーション」ヲ爲サンガ爲目下準備中デアアル。



組立式床版試験機



## 組立式床版試験機大要

本試験所備品ノ一ナル組立式床版試験機大要ヲ報告スル(寫眞及圖面參照)

### 試験機用途

本試験機ハ組立式ナル故主ナル目的ハ現場ニ持ッテ行ッテ實際ノ構造物(橋梁、建築等)ノ床版(Detent)ノ荷重試験ヲナスニアル。ケレ共圖面ニ明ナル如ク試験ノ目的ニヨリ適當ノ様式ニ組立テアルノデアルカラ此ノ外ニ桁ノ彎曲試験(特ニ等布荷重ノ場合ニ適當)各種形狀ノモノ、耐壓試験モナス事ガ出來ル。

### 能力 (Capacity)

「ハイドロリックプレス」(Hydraulic Press)一ツノ能力ハ約七十噸 デアルカラ

「プレス」ヲ二ツ用フル場合ニハ 一四〇噸

「プレス」ヲ一ツ用フル場合ニハ 七〇噸

### 荷重ノ巾及長サ

ノ壓力ヲ出ス事ガ出來ル。

### 等布荷重ノ場合ニ

巾 一メートル

長 六メートル

### 組立

ノ廣サニ亙ッテ一様ニ壓力ヲ加ヘルコトガ出來ル。

### 加圧方法

試験セントスル床版ノ上ニ砂ヲ厚約五「センチメートル」ニ敷キ其ノ上ニ各部ヲ圖ノ如ク組立テル。砂ハ荷重ノ爲ニ床版ガ變形セル後モ壓力ヲ一様ニ保タシメンガ爲デアアル。

### 壓力ヲ出スニハ

水壓器 (Hydraulic Press) ヲ用フル。液体ニハ機械油ヲ用フル。「ハンドポンプ」(Hand Pump) ニヨリ加

### 壓力ヲ出スニハ

「バイブ」ヲ通ッテ「ハイドロリックプレス」ノ中ニ入ルト「プレス」ノ「ラム」ハ押シ下ゲラレ壓力ヲ出スノデアアル。「プレス」ヨリノ壓力ハ工形桁ト「ローラー」ニヨリ下方ニ行クニ從ッテ漸次擴ガリ試験体ニ壓力ヲ加

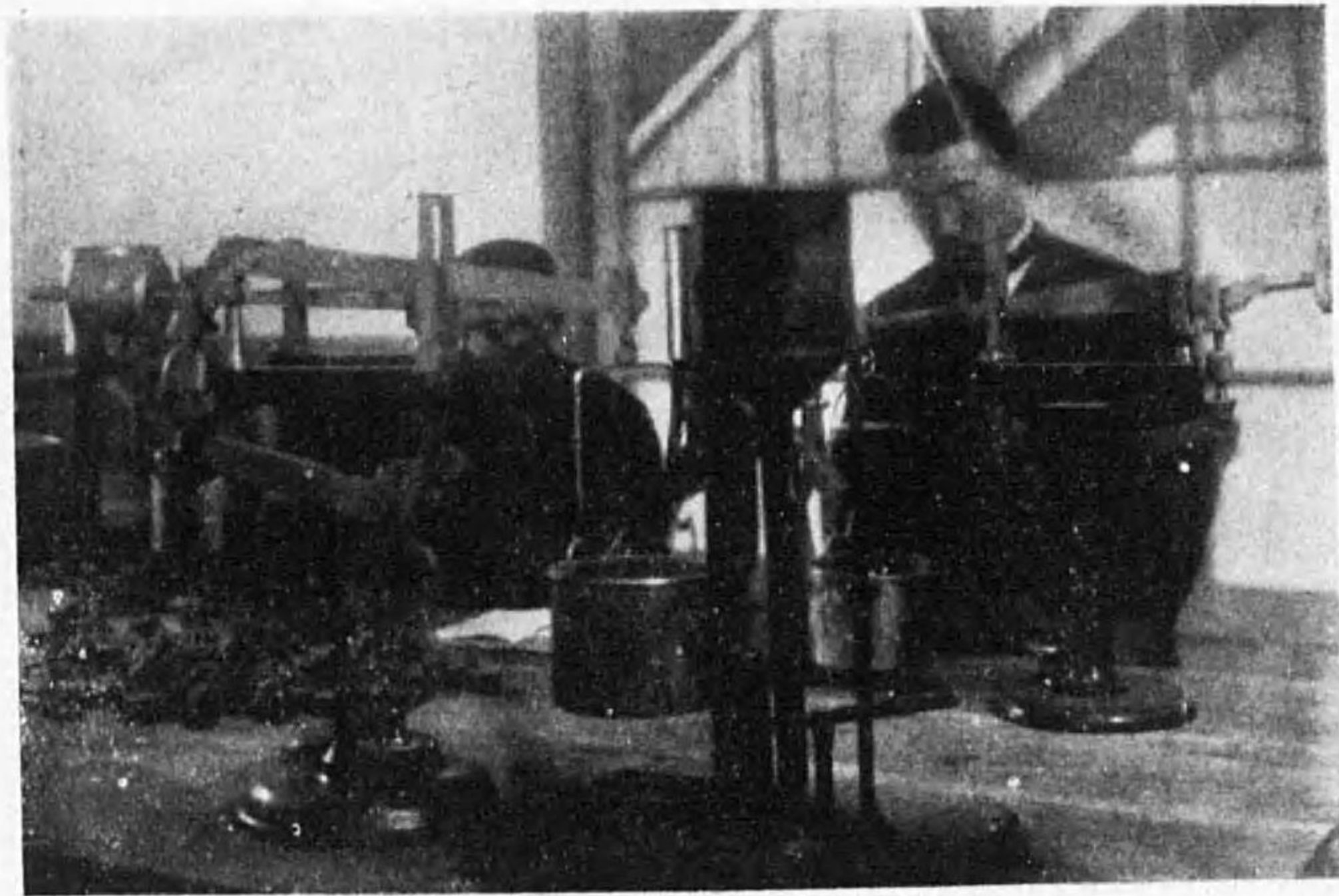
### フル事ニナル。

### 壓力測定

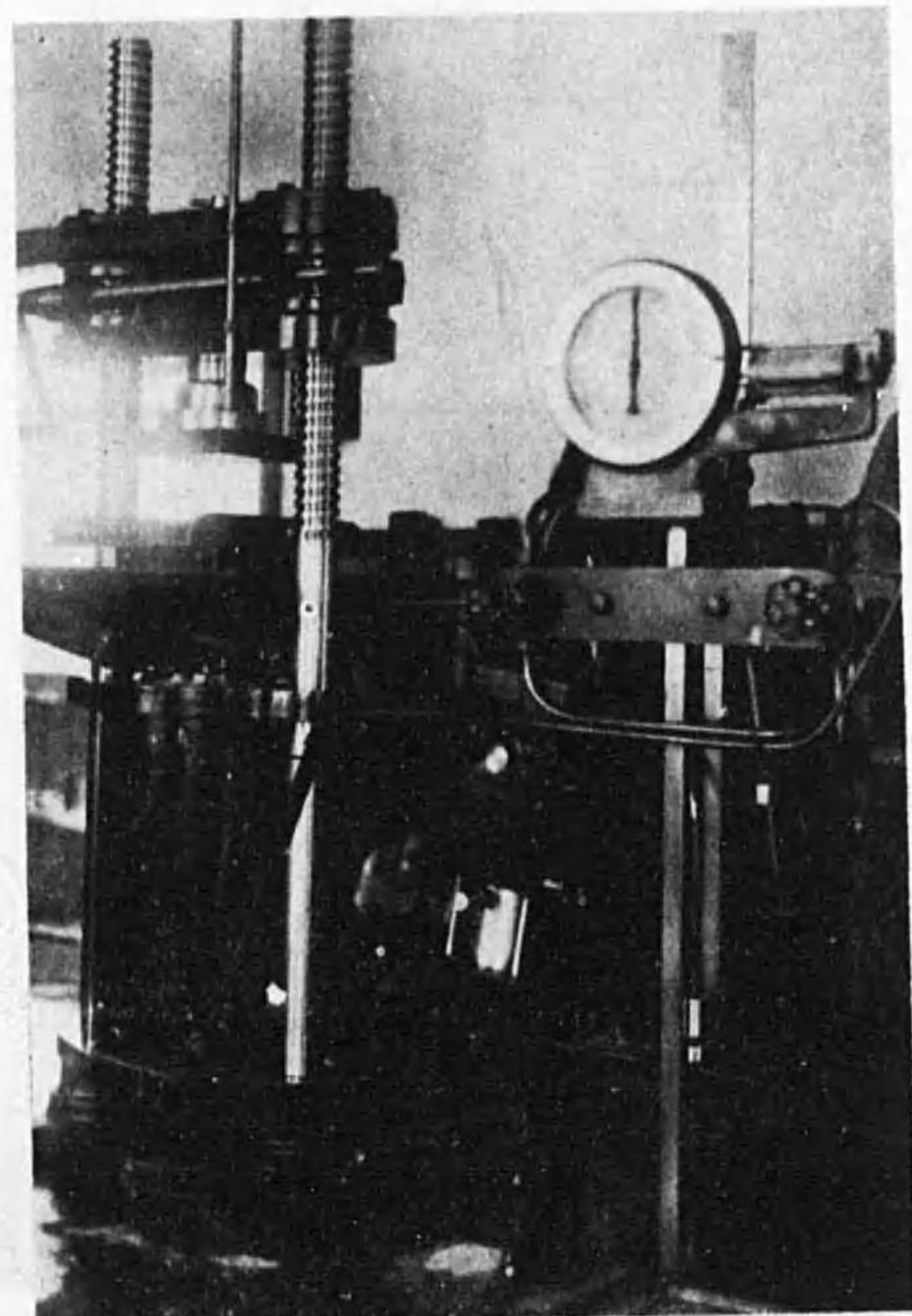
壓力ノ測定ニハ壓力計 (Hydraulic Pressure Gauge) ヲ用ヒテ居ル。

### 試験機檢定 (Calibration)

製作所ニ於テ檢定シタ結果ヲ正シイトシテ用ヒテ居ルガ本試験所ニ於テモ「カリブレーション」ヲ行フ豫定デアアル。

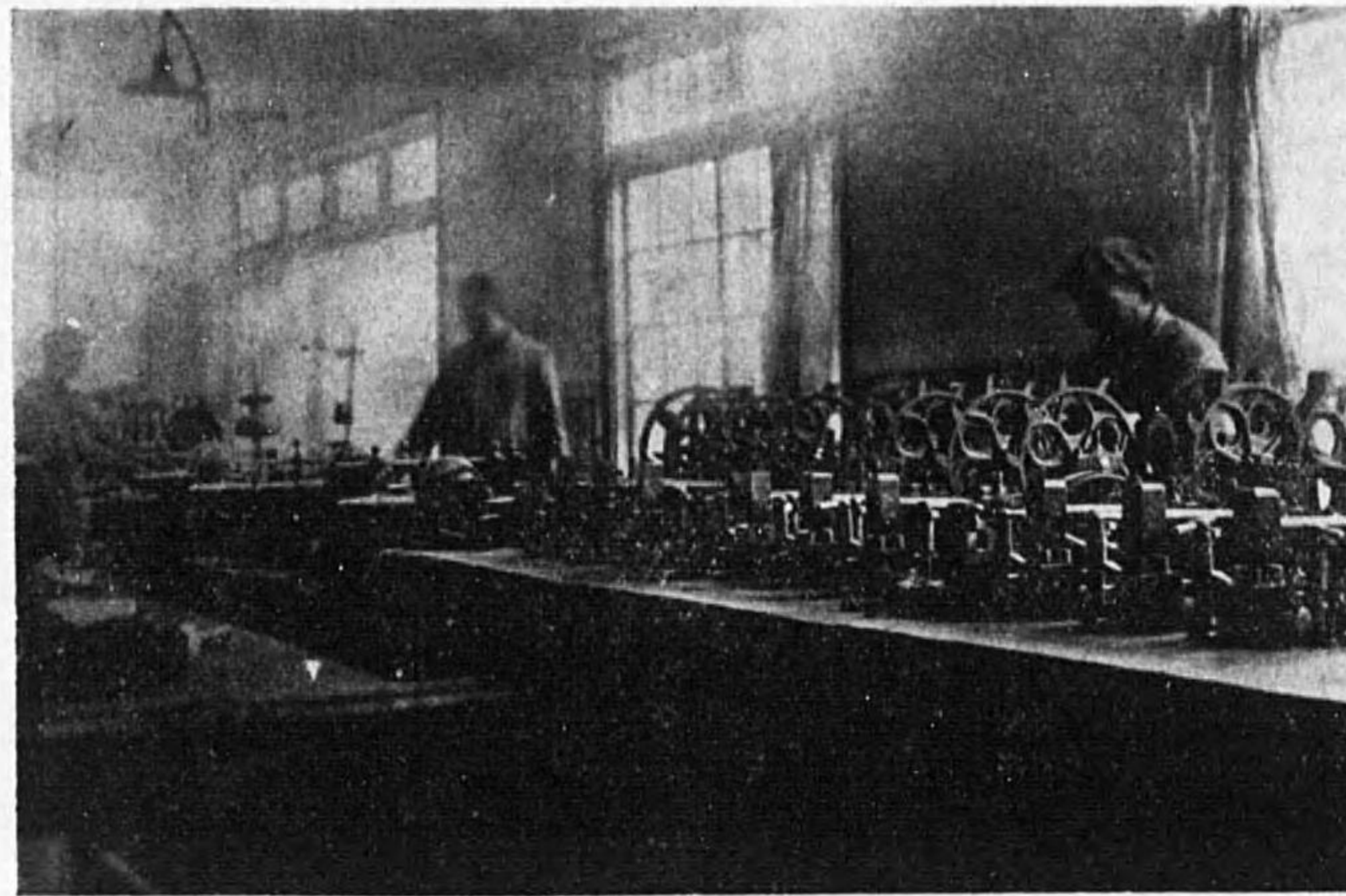


セメント物理的試験 (ミハイルス耐伸強試験)

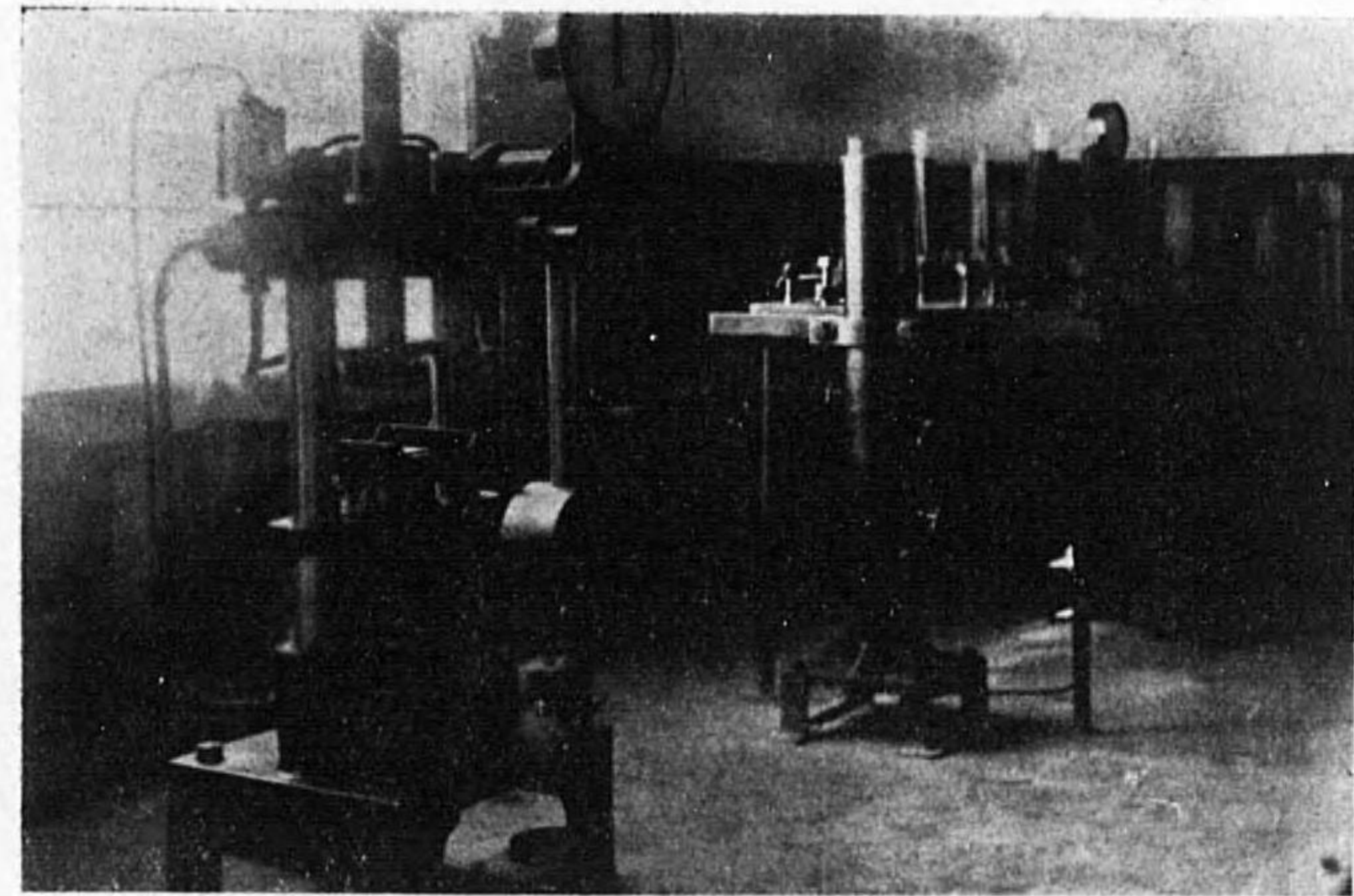


百噸耐壓試験機 (彎曲試験用)

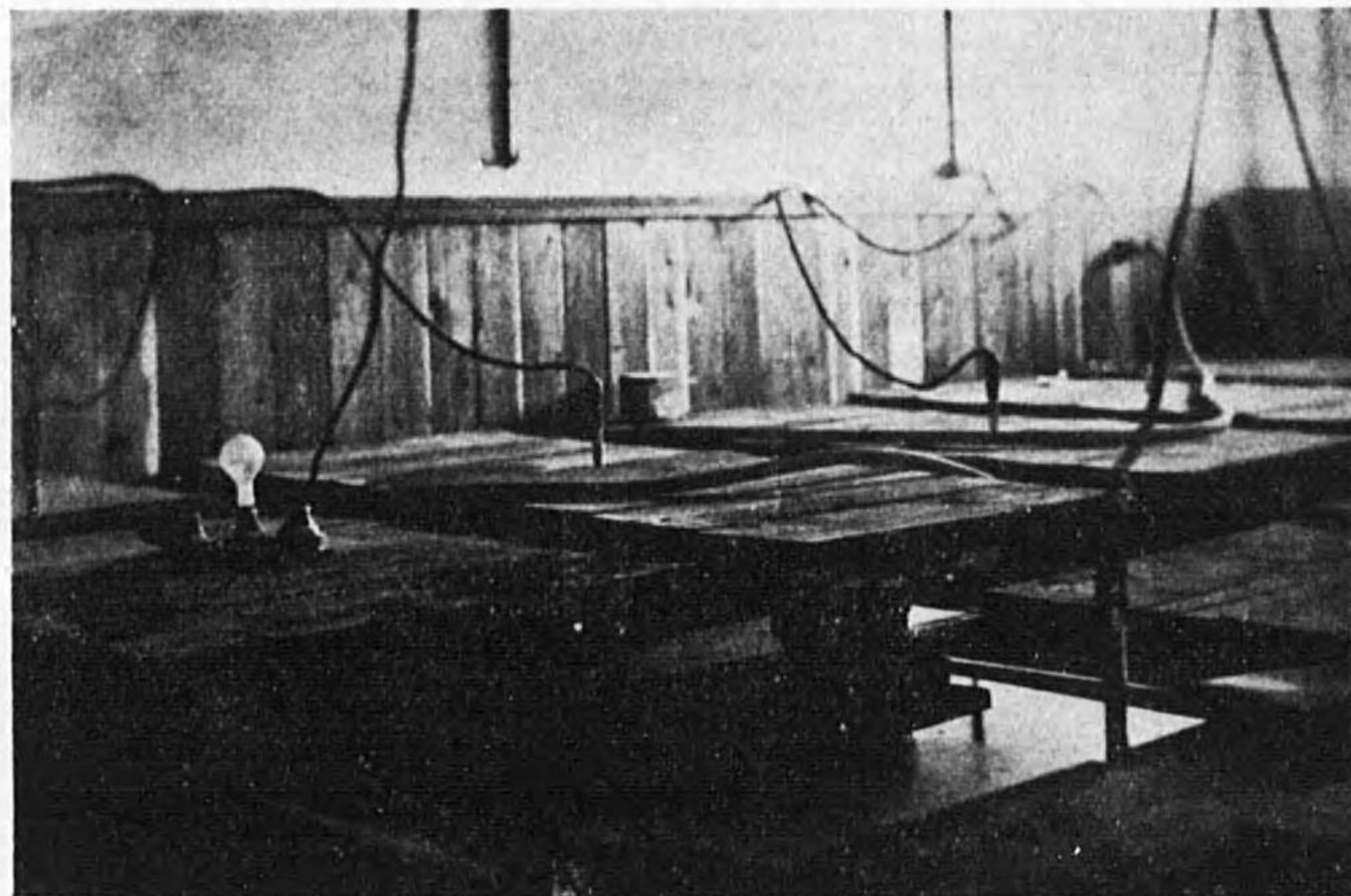




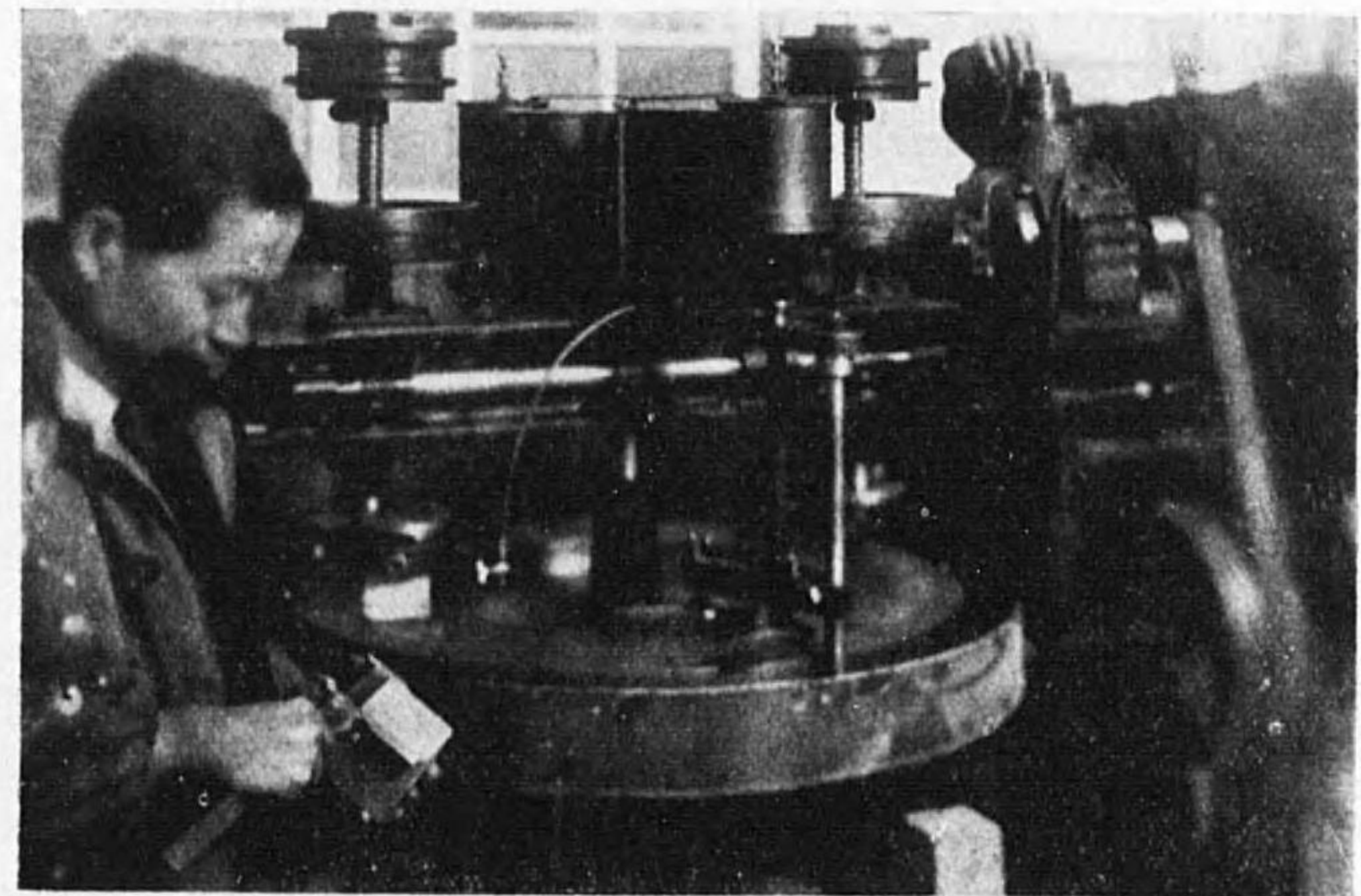
セメント物理的試験 (耐伸、耐圧強試體成型室)



三十噸耐壓試験 透水試験機

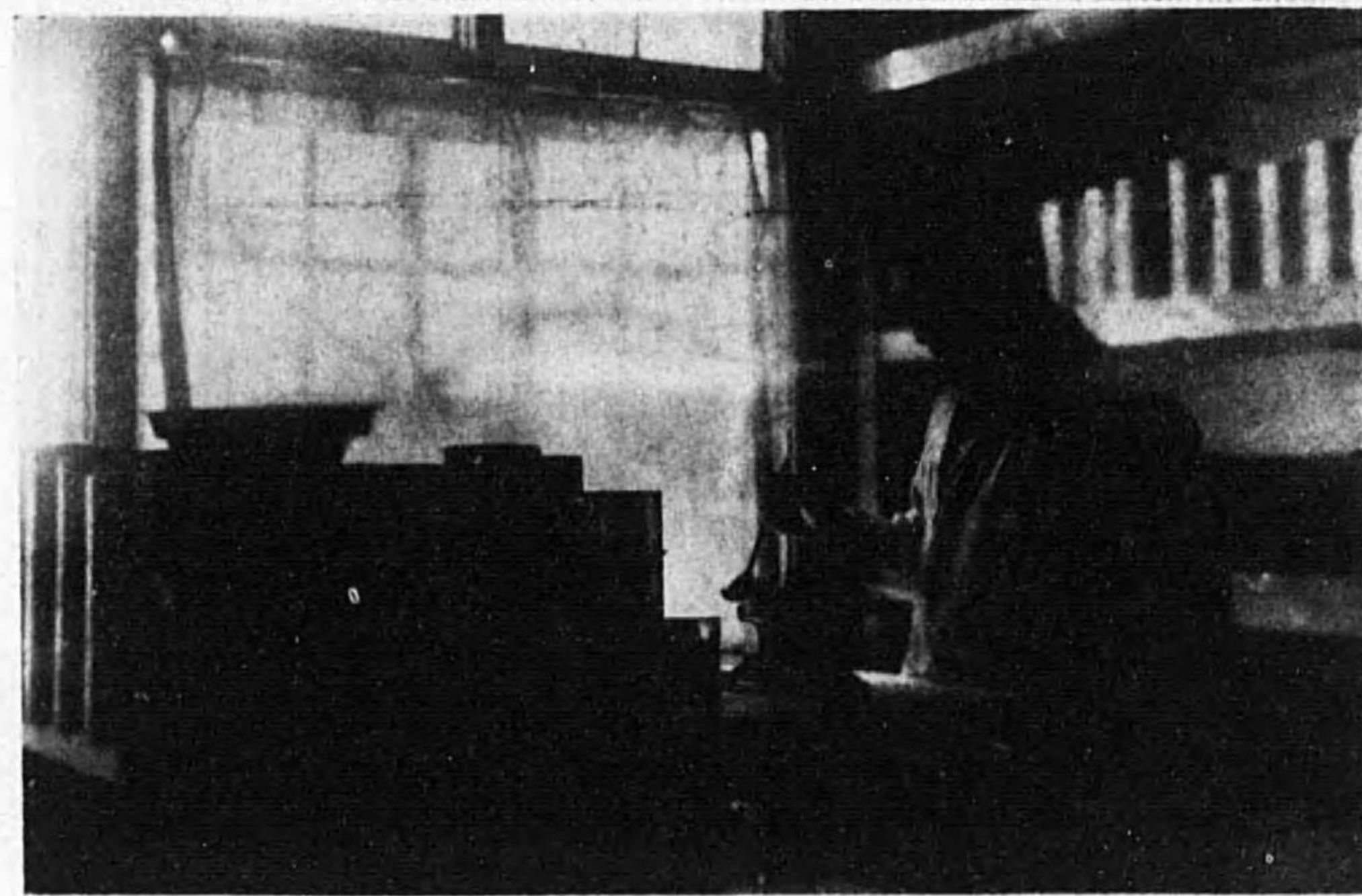


セメント物理的試験 (耐伸、耐圧強試體水槽室ノ一部)

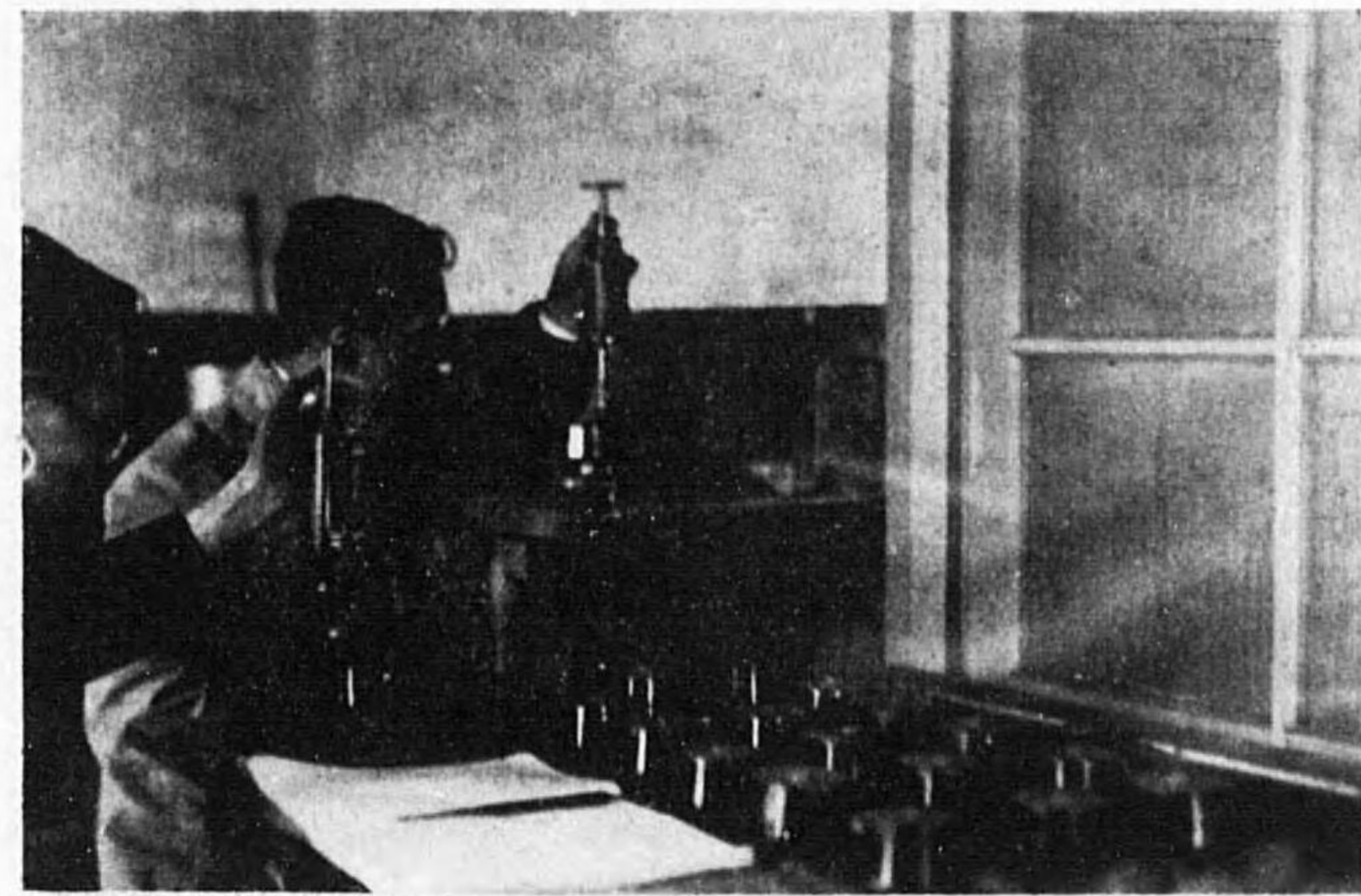


セメント物理的試験 (耐磨試験)

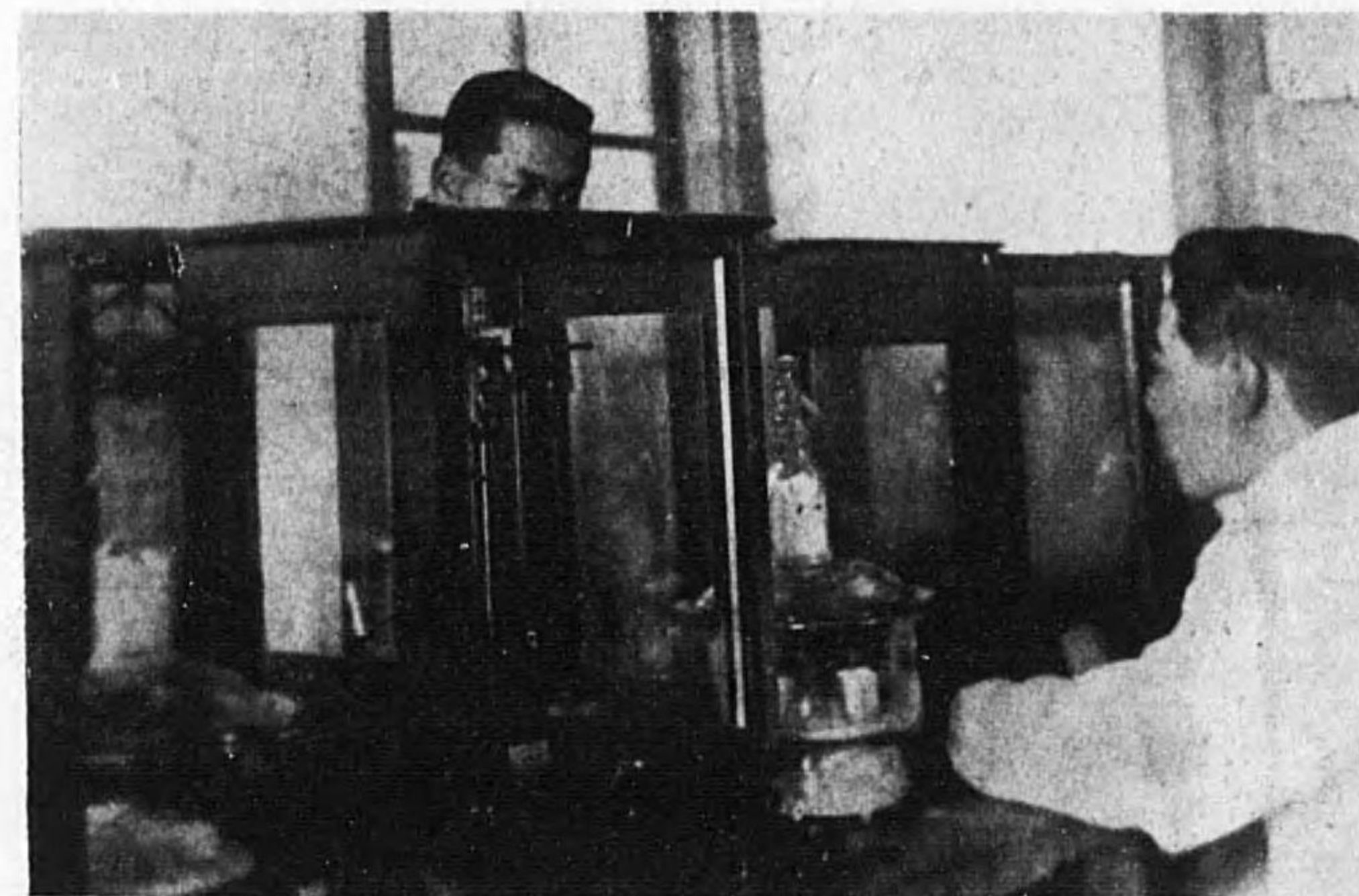




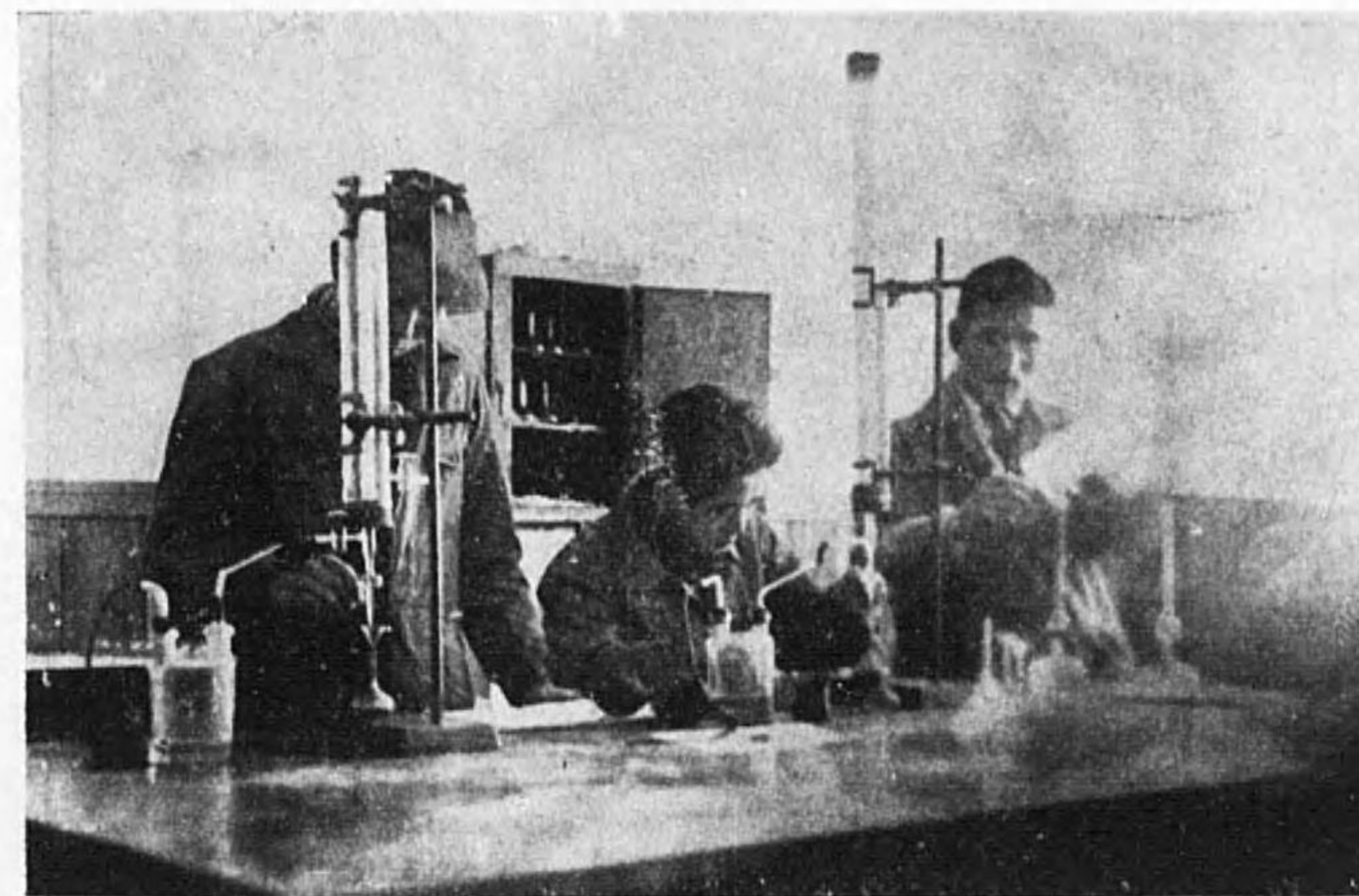
セメント物理的試験 (粉末試験)



セメント物理的試験 (凝結試験)

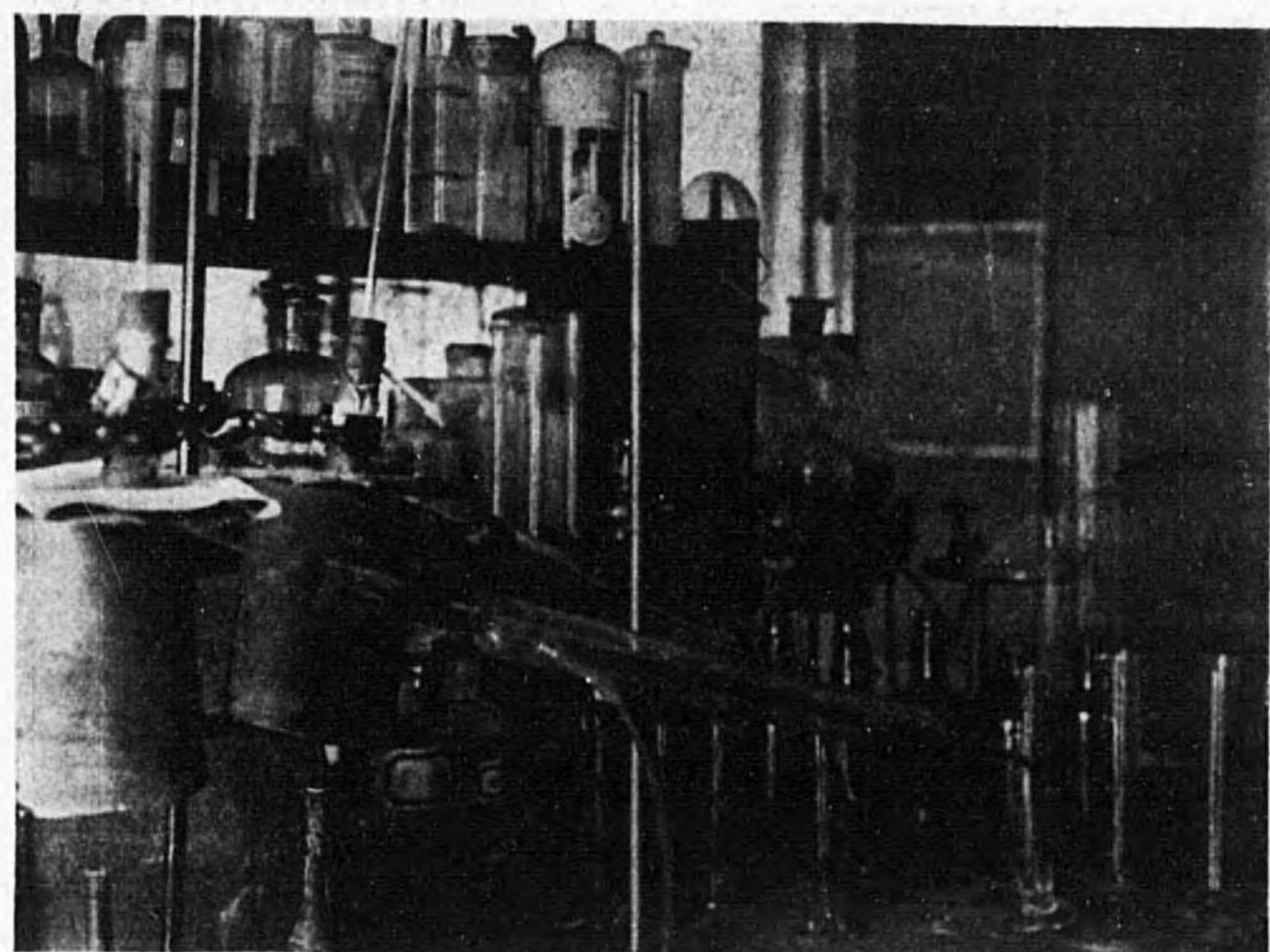


セメント化学分析天秤室

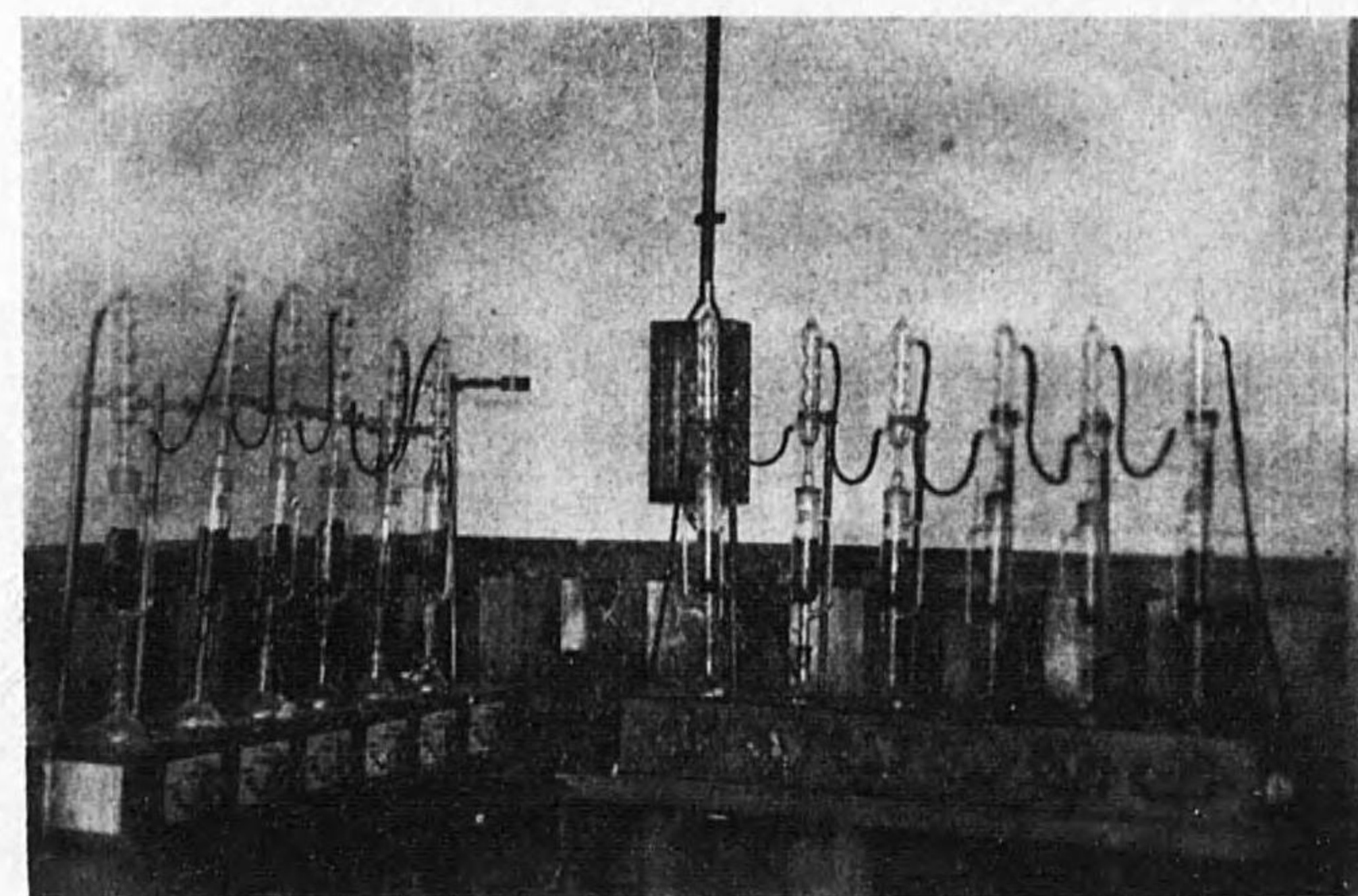


セメント物理的試験 (比重測定)





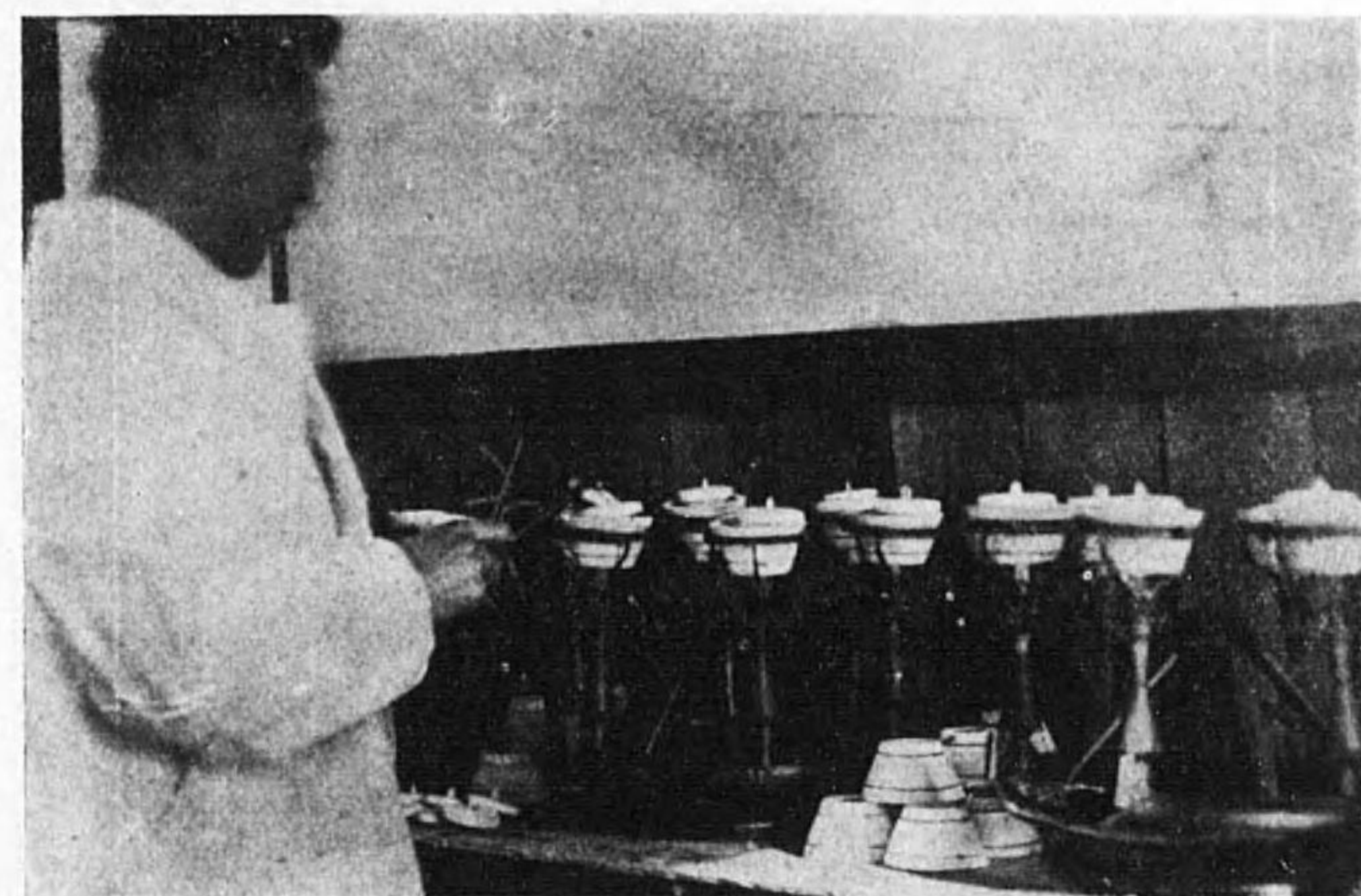
油類分餾装置



油分抽出装置



セメント化学分析室ノ一部

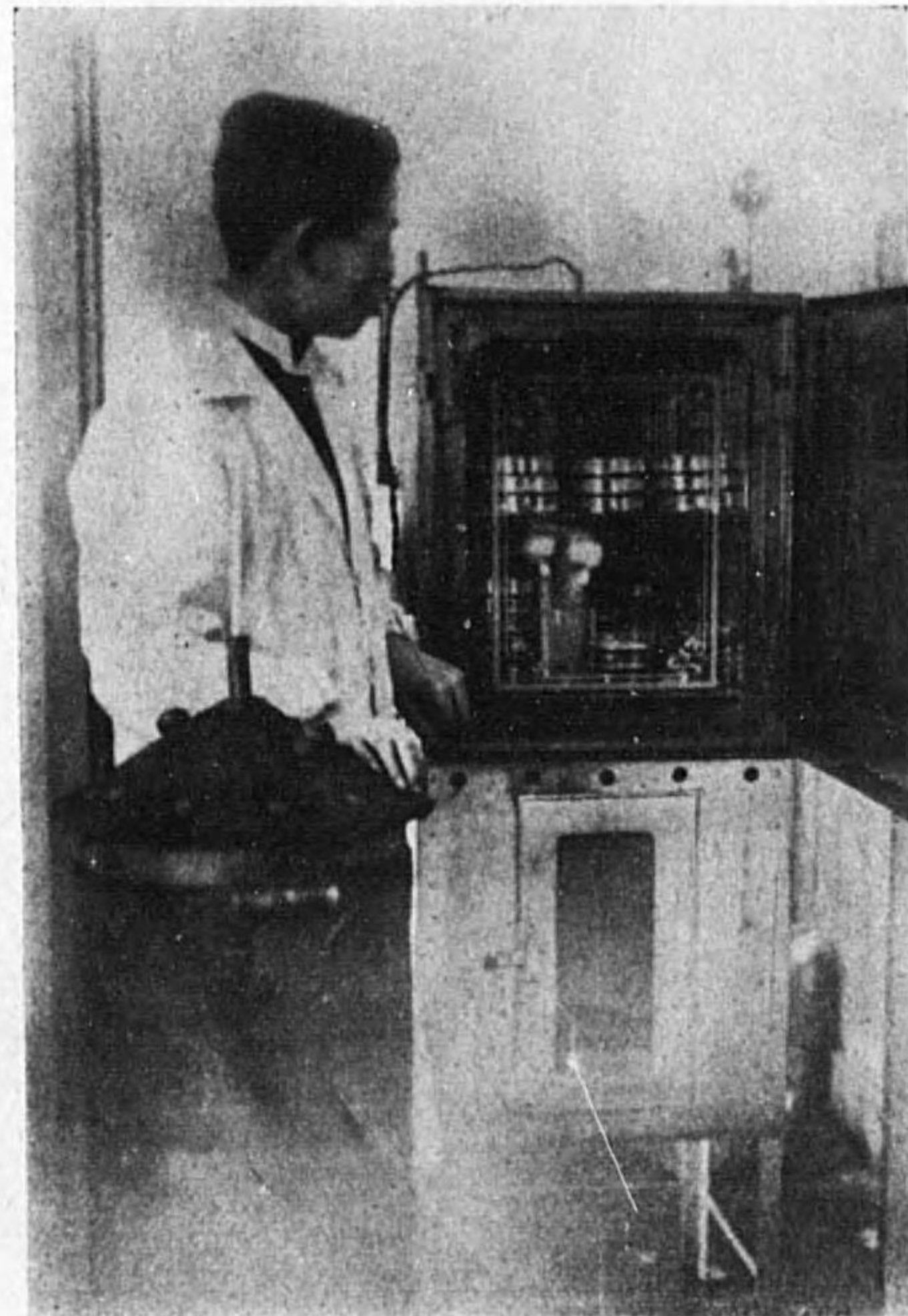


セメント化学分析沈澱ノ灼熱





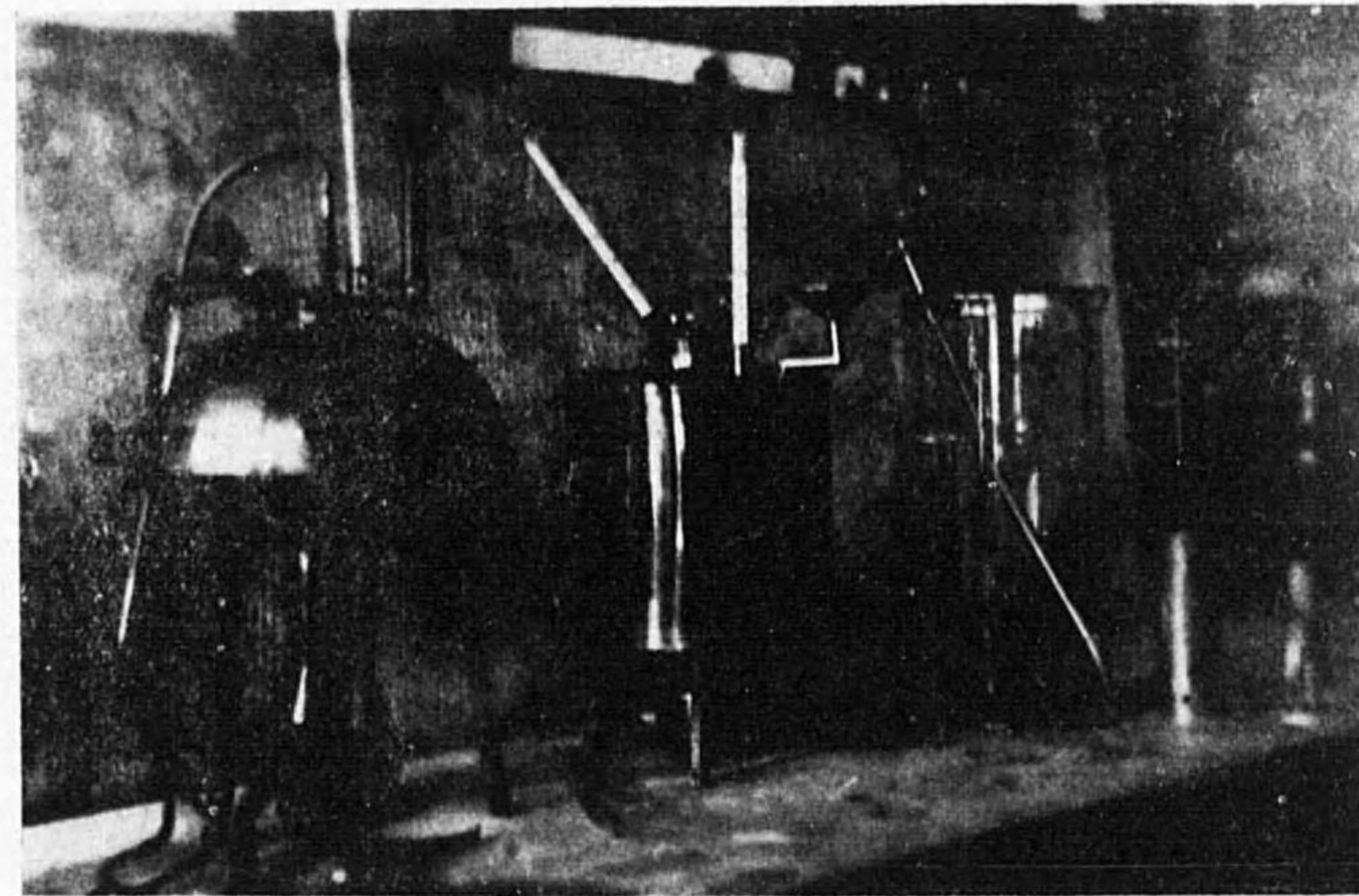
ペイント試験ノ一部



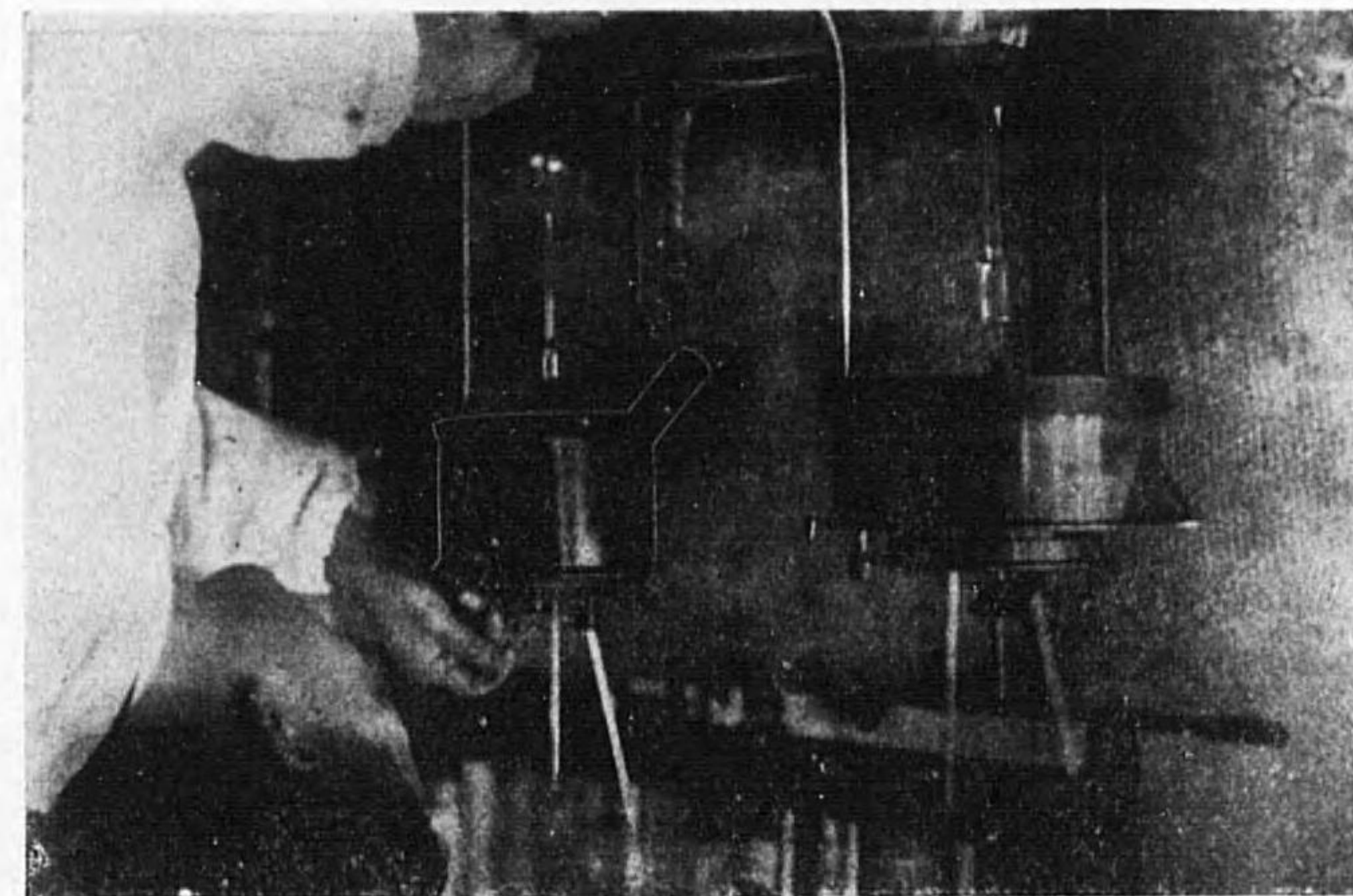
細菌培養装置

コッホ氏滅菌器

城石式孵卵器



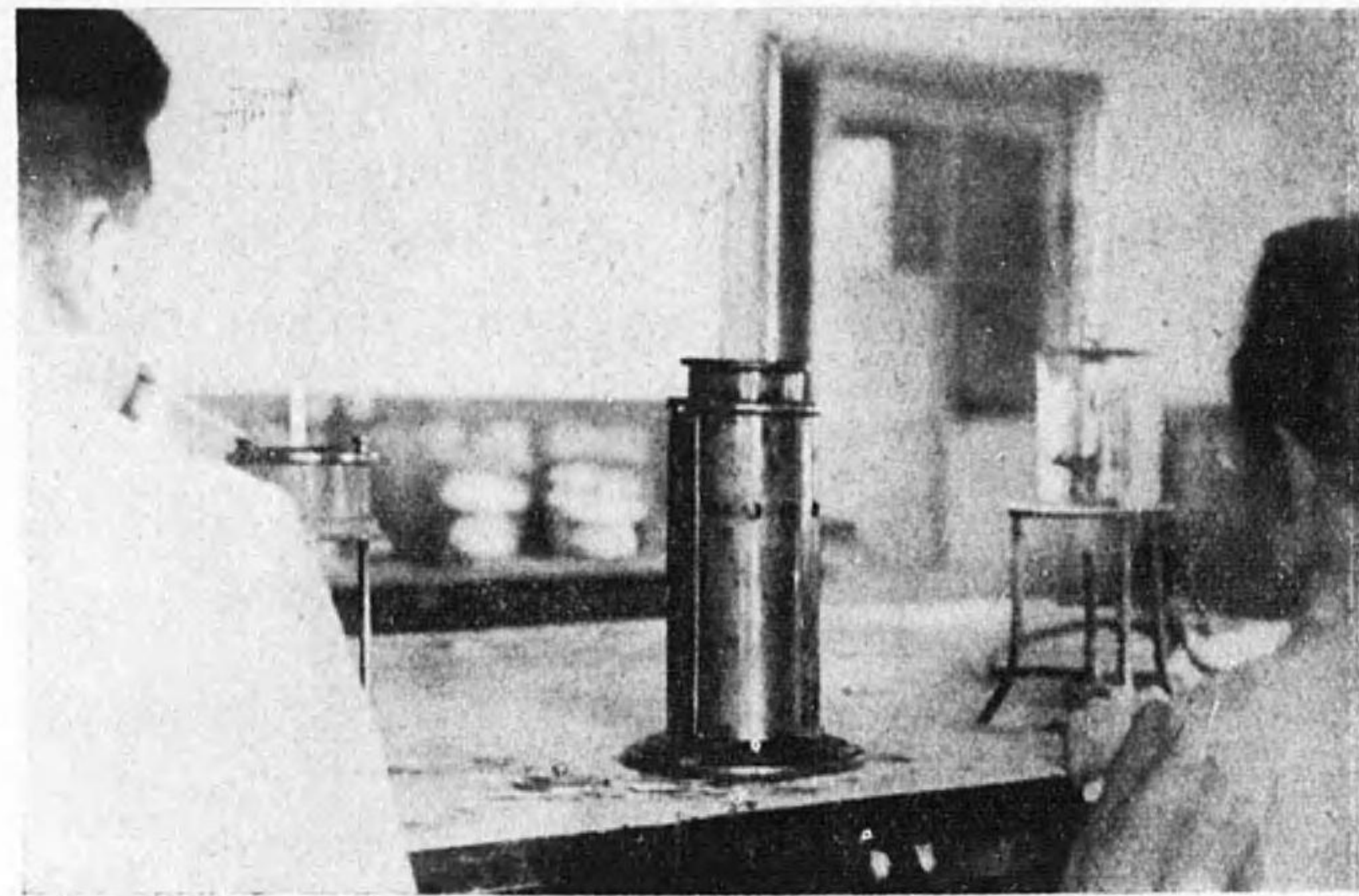
(イ) ハンスキー、マルテン引火點試験器 (ロ) アーハル引火點試験器  
(ハ) トムソン熱量計



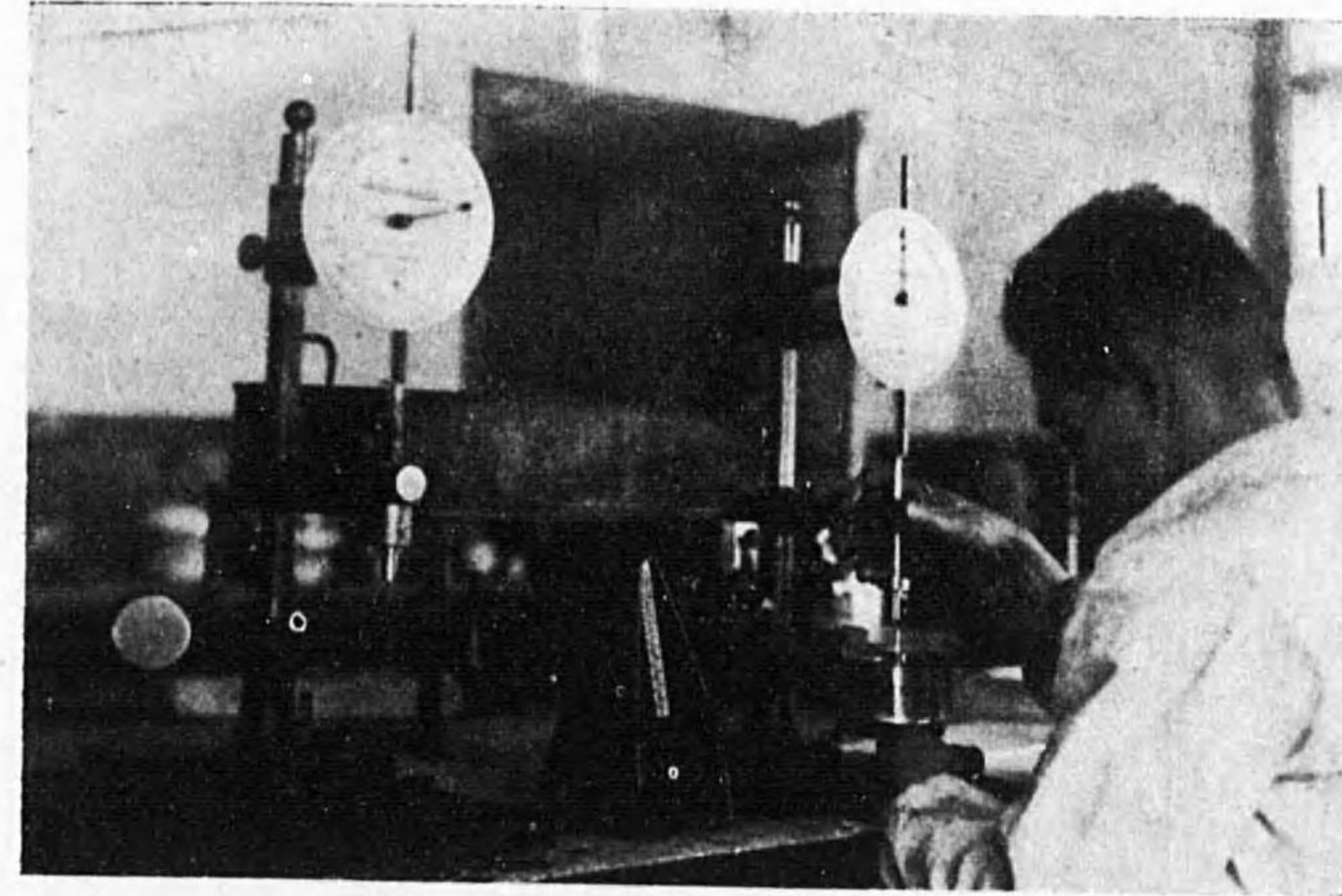
エンゲラー粘度計

レッドウッド粘度計

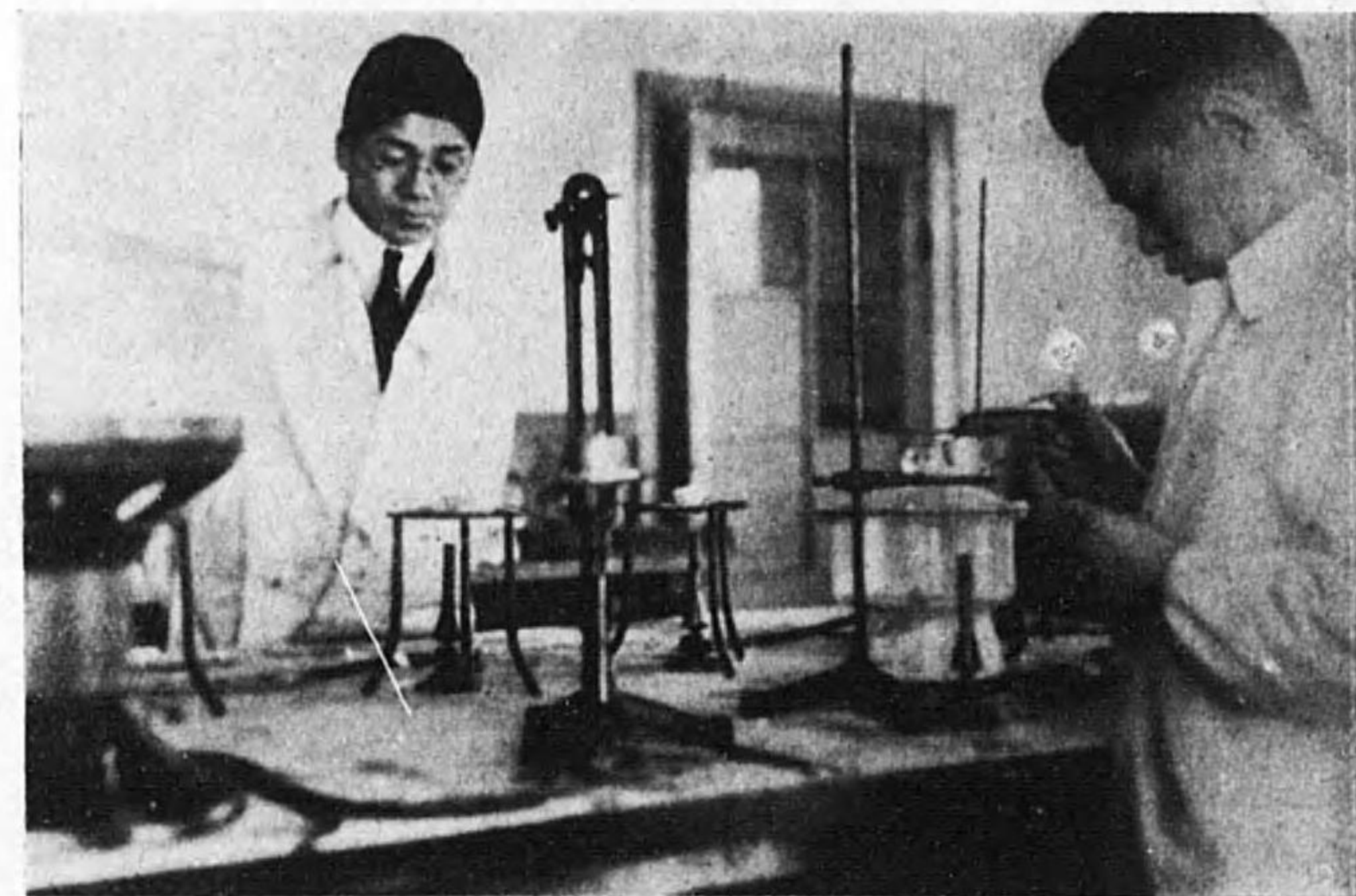




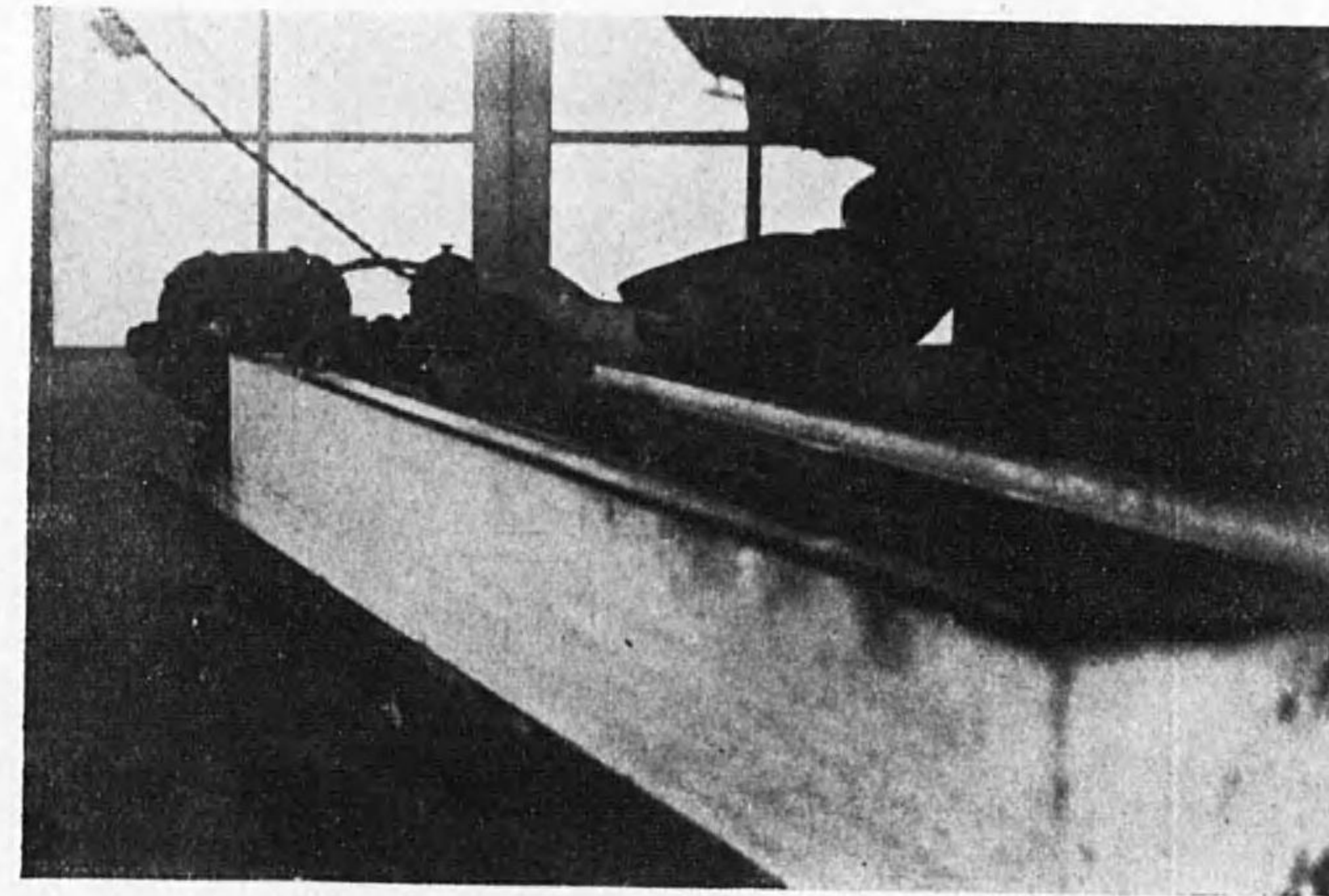
1. 閉蓋式引火點測定機      2. 閉蓋式引火點測定機  
3. 熔融點測定機(ホルアンドリング法)



アスファルト針入度測定機

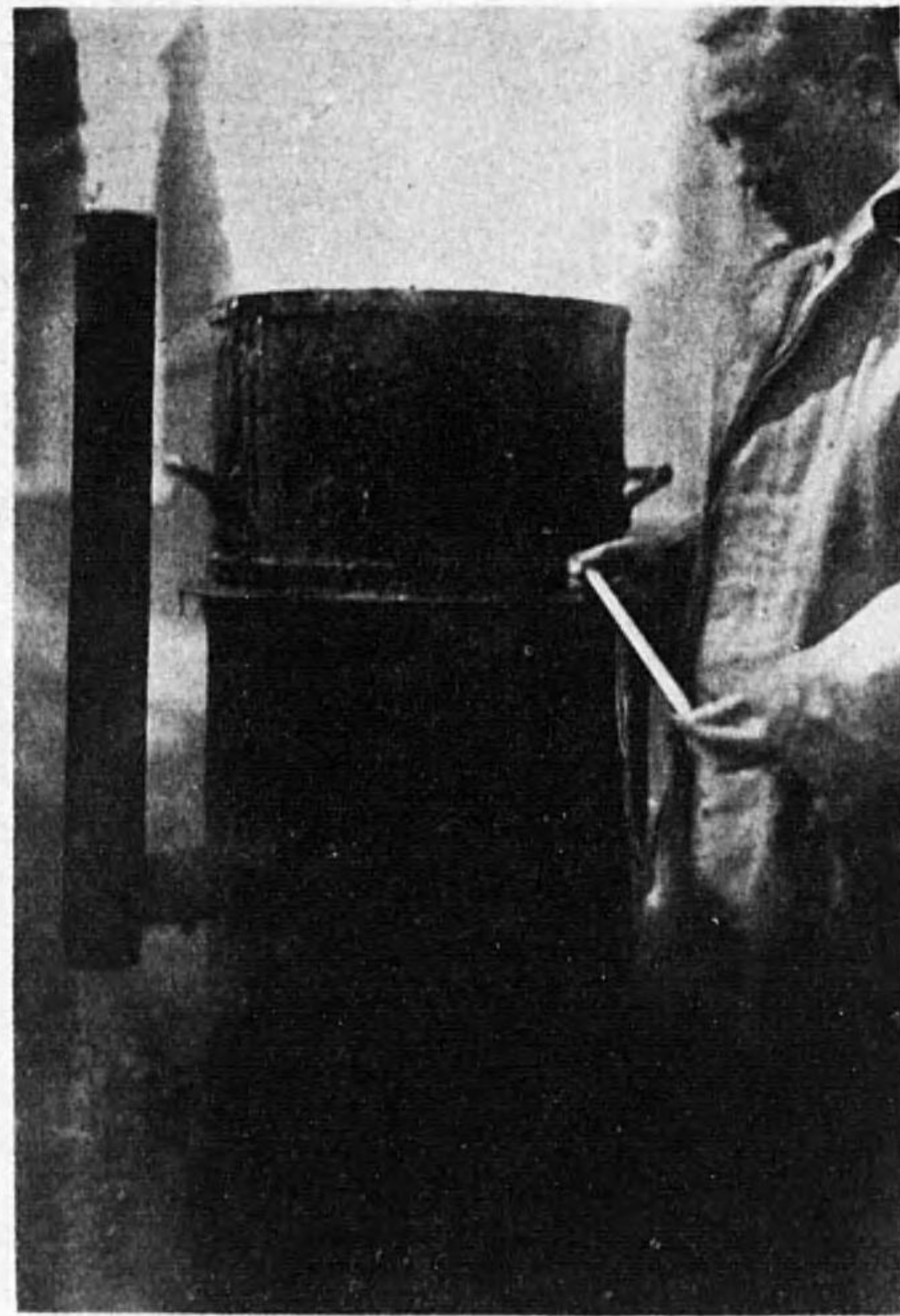


1. 固定炭素測定      2. 灰分測定

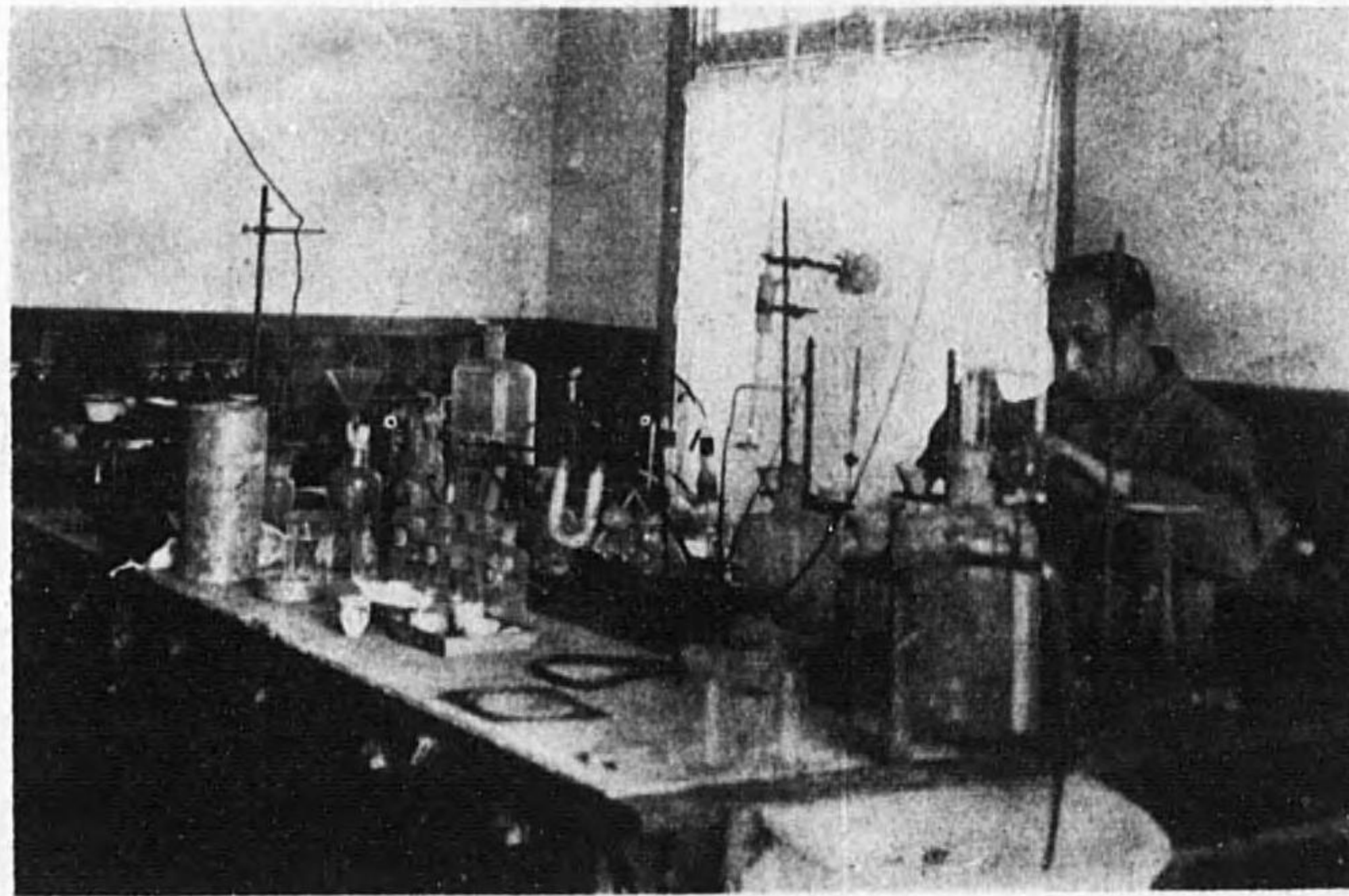


「ダウ・スミス」アスファルト伸張測定機

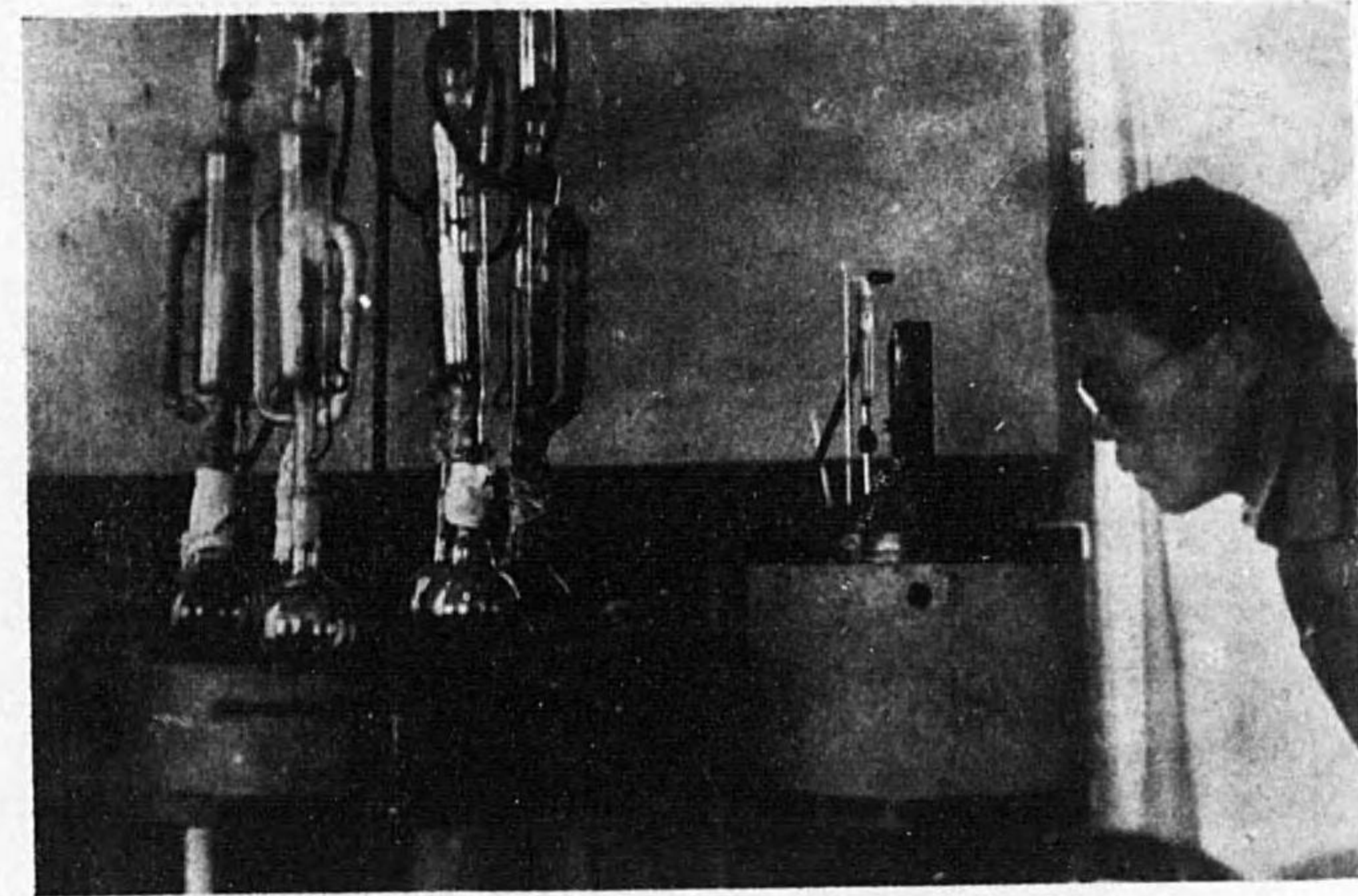




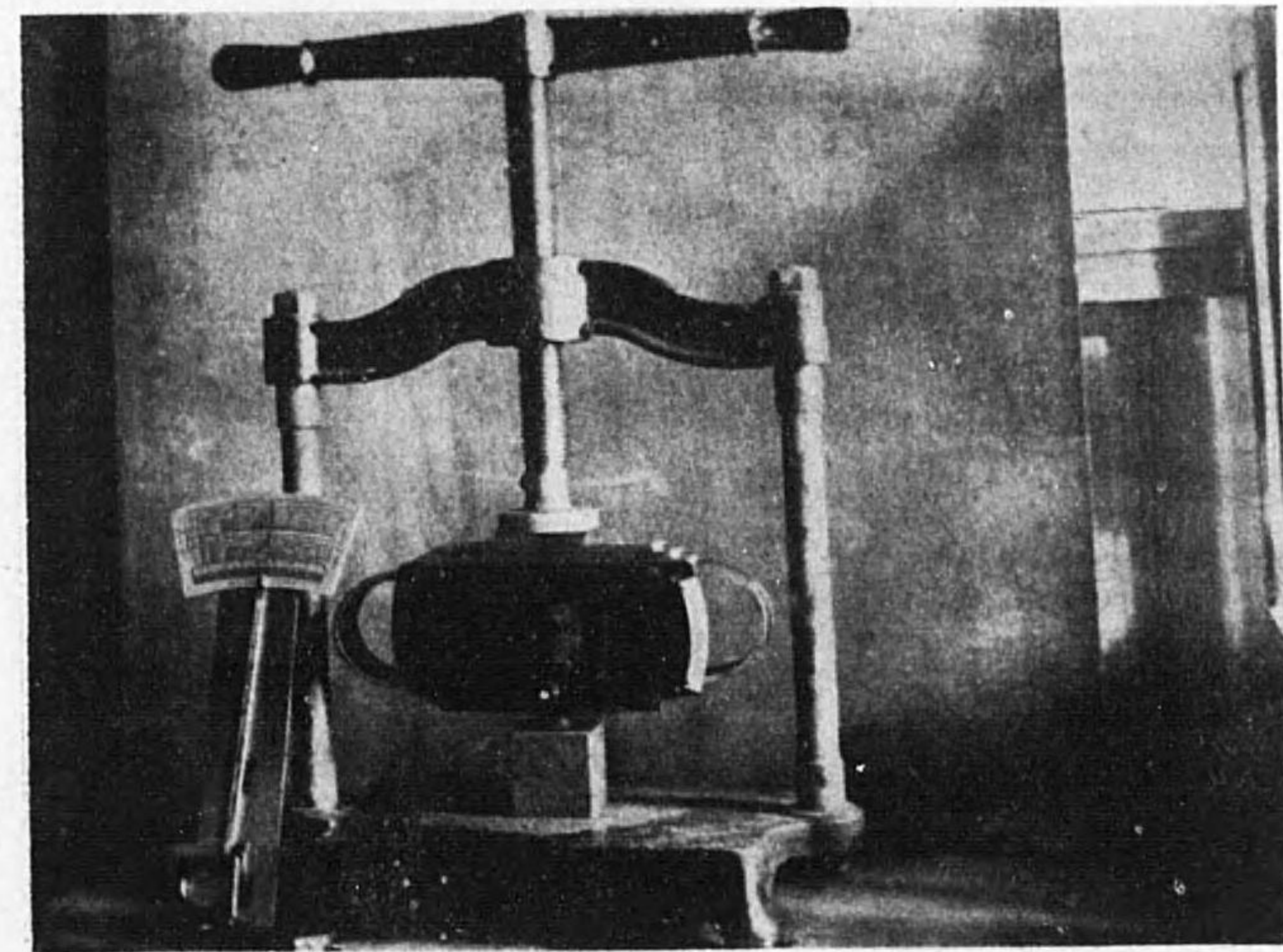
「オーブタンク」法木材防腐剤注入試験装置



鐵材分析室

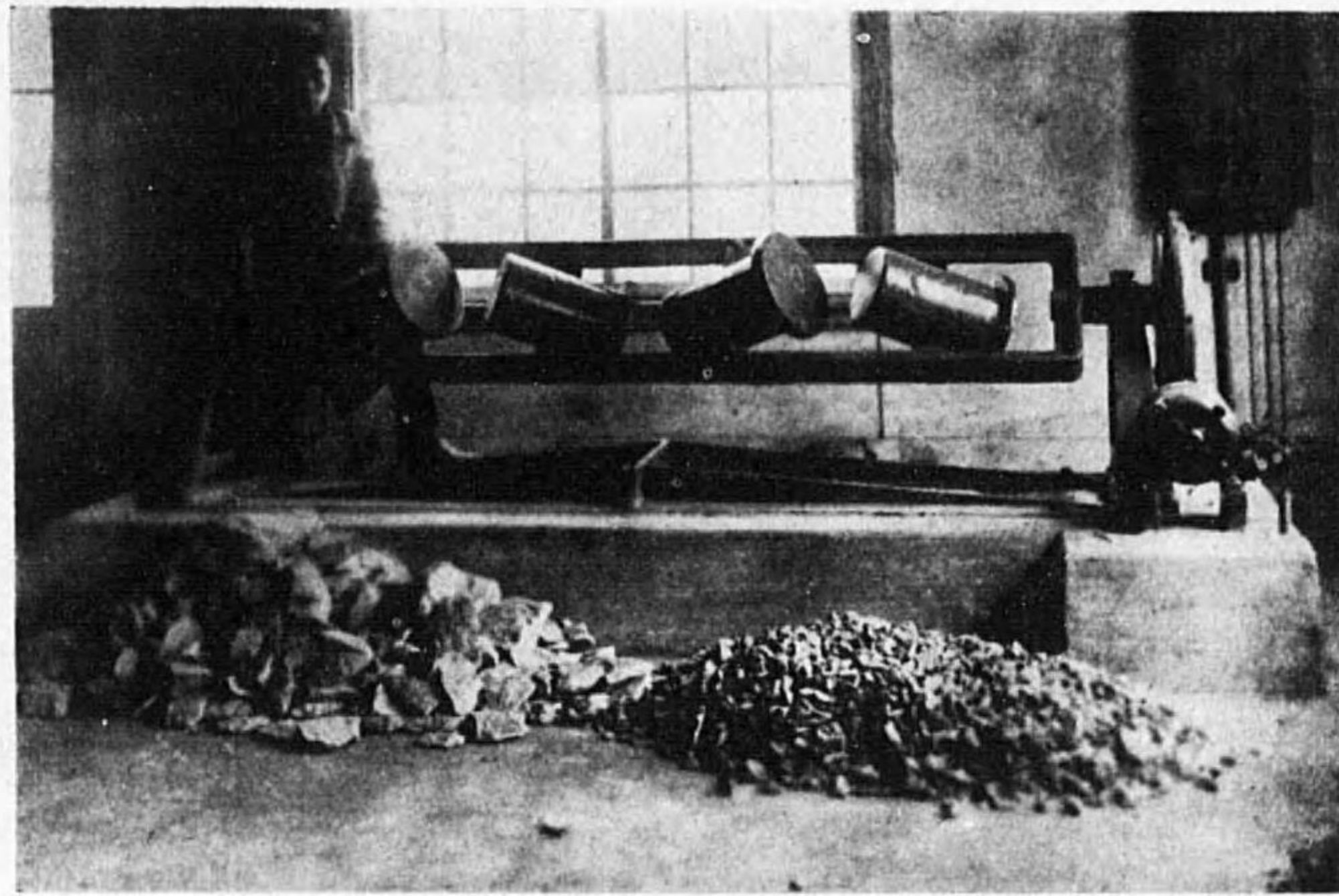


(1) ソックスレー瀝青抽出機 (2) 蒸發減量試験機

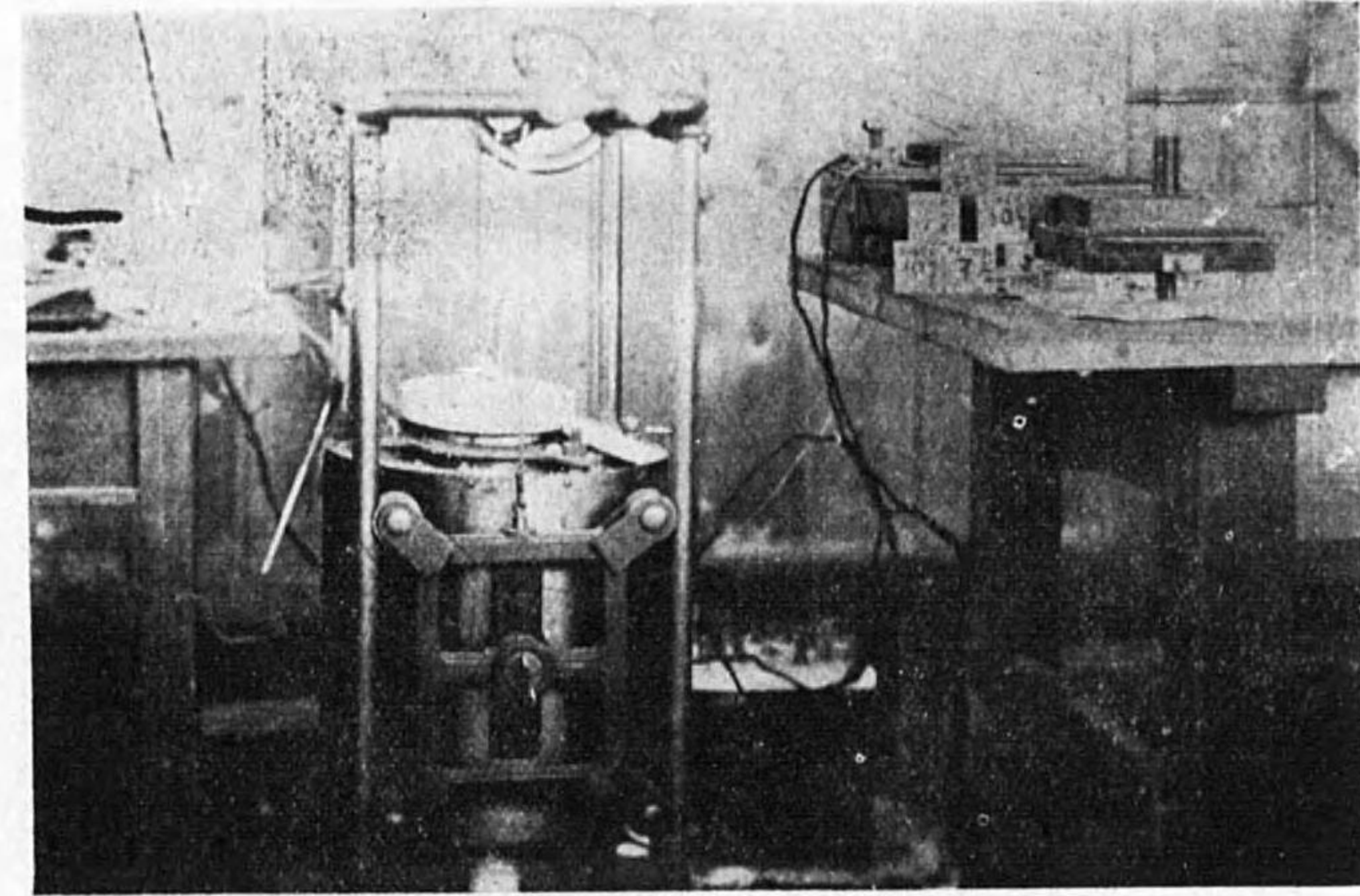


セク硬度試験器及扉大鏡附直接讀取硬度計

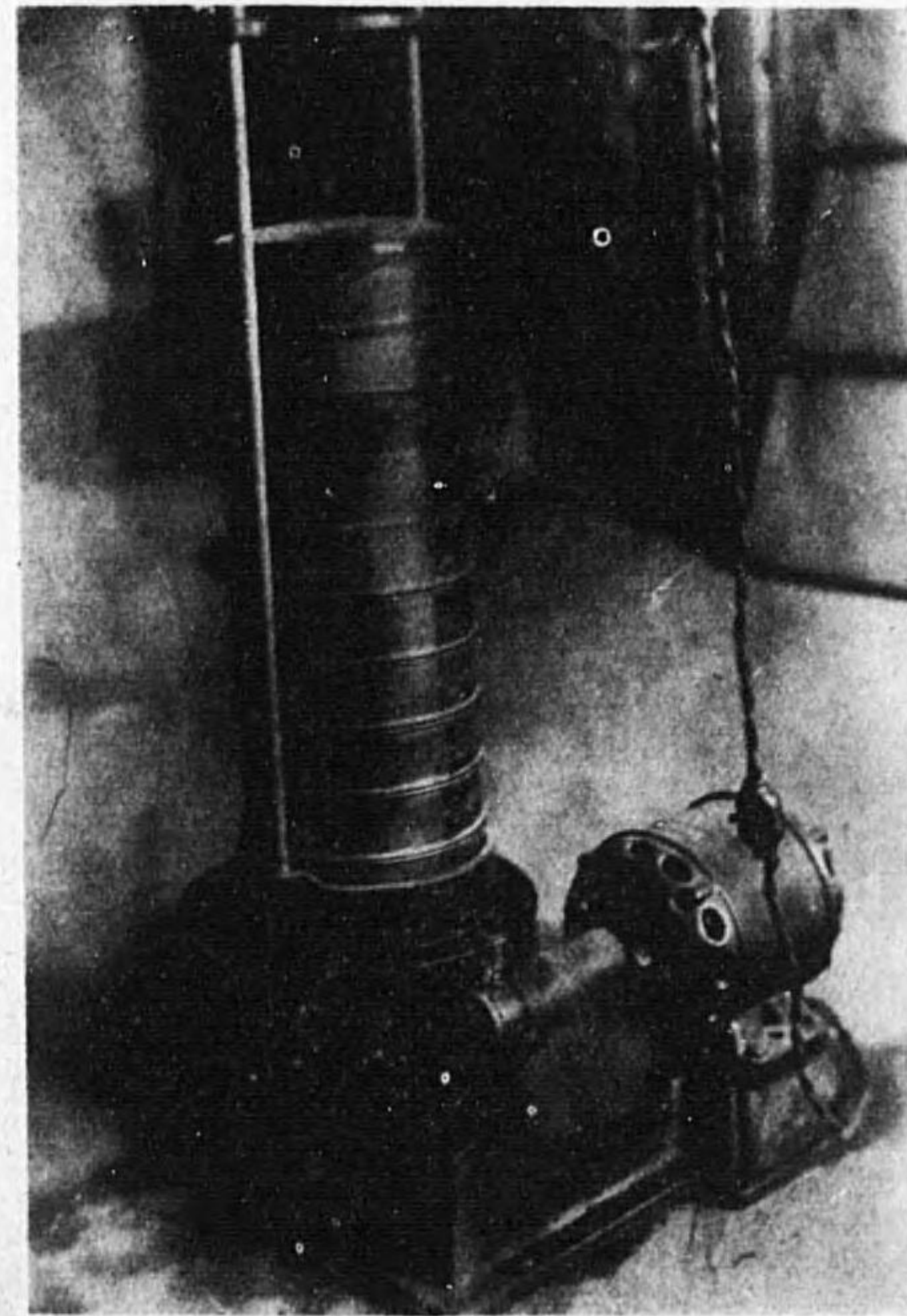




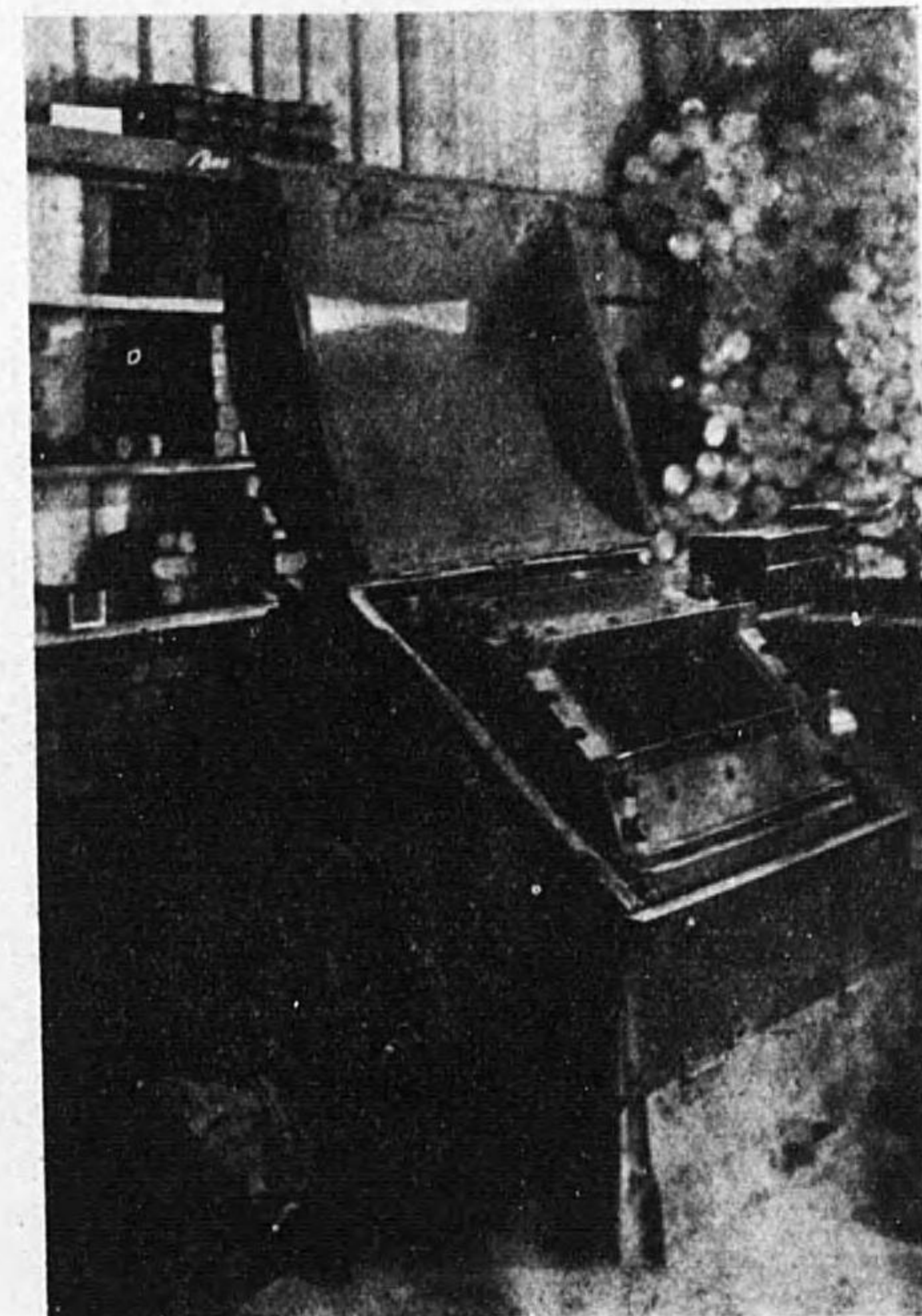
ドヴァール磨滅試験機



石材耐火試験装置



篩別器



ラトラー煉瓦磨損機



復興事業用鋪木ニ就キテ

復興局技師 田 中 勝 吉

緒 言



余大正十三年十月復興事業用鋪木ノ製作並防腐劑注入監督官ヲ命ゼラレ爾來一年有餘ヲ閱シテ漸ク其ノ任務ヲ完了シタルヲ以テ茲ニ其ノ經過ヲ報告シ且私見ノ一二ヲ加ヘテ工事關係者ノ參考ニ資セントス。

鋪 木 材 料

鋪木材料ハ曩キニ帝都復興院時代加奈陀及「アメリカ」合衆國ヨリ復興建築材料トシテ購入シタル米松(オレゴンパイン)及米榭(ウエスターンヘムロック)ノ中主トシテ板子材ヲ資材トシタリ從ツテ其ノ寸法區々ニシテ之レヲ使用上ノ見地ヨリ道路材料トナスノ可否ニ就テハ當時頗ル疑問トセラレ余モ亦採取ス可キ鋪木ノ形狀寸法ニ就キ不尠頭ヲ惱シタリ然ルニ道路材料ハ他ノ建築橋梁材料ト異ナリ外觀ノ美ハ寧ロ附屬ノ要求ニ屬シ實用上ノ價值ヲ以テ主要目的トスル見地ヨリセバ其ノ形狀ニ多少ノ異同アルモ施工上甚シキ不都合アル可シトモ思ハレズ且當時該材ハ當初ノ豫想ニ副ハズ其ノ利用ノ途稍停滯ノ状態ニアリシヲ以テ僅少ニテモ寧ロ鋪木ニ利用スルノ賢ナルニ如カズトナシ當時倉庫課長山田技師、小笠原囑託及道路課勤務中島技師ト合議ノ上可及的利用率ヲ高メツ、實地使用上支障ヲ來サル限度ニ於テ各種寸法ノ鋪木ヲ採取スルニ協定シタリ又止ムヲ得ザル處ナリトス。

製 作 方 法

製材ハ民間製材所ニ請負ハセ本局所定ノ仕様書ニ基キ之レガ製作ヲナサシメタリ委託セル製材所左ノ如シ。

名 稱

場 所



東京製材所 府下砂町字平井  
 早瀬株式会社 芝區月見町二丁目  
 帝國木材工業所 府下寺島町字寺島  
 日本木煉瓦株式会社 深川區東平井町  
 吉村木工所 京橋區月島西河岸通り

前記製材工場へハ本局監督助手一名検査人夫數名宛出張シ毎個ニ付其ノ寸法形狀材質等ヲ檢シ合格品ハ之レヲ直チニ結束シ  
 タリ、合格數及不合格數ハ毎日請負者ト立會ノ下ニ計算シタル上檢收官柴田技手ノ檢收ヲ受ケタリ。  
 検査功程ハ鋪木寸法ニヨリ相異アルモ平均一日約一五、〇〇—二〇、〇〇〇個ナリ検査成績ハ契約毎ニ且工場ヲ異ニスル毎  
 ニ多少ノ相異アルモ平均不合格率ハ検査數量ノ八、四七%ニシテ成績最良ノ場合ハ五、九二%最劣ノ場合ハ一〇、六八%ナリ。  
 各製材所毎ニ其ノ成績ヲ掲記セバ左表ノ如シ。

### 鋪木製作検査成績表

請負者	契約番號	不合格率
東京製材所	復拂契第四二號	九、九三%
"	"	七、五七%
"	"	九、六七%
早瀬株式会社	"	八、九〇%
"	"	八、三〇%

名 稱	場 所	防 腐 劑 注 入 方 法
帝國木材工業所	深川區千田町	五〇"
日本木煉瓦株式会社	府下砂町字中田	六一"
吉村木工所	府下寺島町字寺島	六二"

防腐劑注入方法  
 防腐劑注入モ製材ト全様民間防腐會社ニ注入ヲ委托セリ委托セル防腐會社ハ左ノ如シ

名 稱	場 所	防 腐 劑 注 入 方 法
東洋木材防腐株式会社	深川區東平井町	六、八〇"
株式会社富士山商店	府下砂町字中田	一〇、六八"
帝國木材工業所	府下寺島町字寺島	五、九二"
日本木煉瓦株式会社	深川區東平井町	

前記防腐工場へ本局監督助手一名宛出張シ仕様書ニ準據シ其ノ注入方法及注入量ヲ検査ス防腐劑ハ其ノ混合ニ當リ其ノ都度  
 余或ハ庄司技手立會ヲナシ其ノ中ヨリ必要量ノ試料ヲ採取シ技術試験所ニ於テ庄司技手主トシテ之レガ試験ヲ行ヒ合格ノ際ハ  
 直チニ通知シ注入ニ着手セシメタリ試験ノ結果不合格ノ場合ハ更ニ混合液ヲ調製セシメ再ビ試験ヲ行ヘリ各防腐會社ニ就キ防  
 腐劑検査成績ヲ見ルニ次ノ如シ。

防腐會社名	再試験ヲ行ヘル回数
東洋木材防腐會社	ナ
株式会社富士山商店	ナ
帝國木材工業所	五



日本木煉瓦株式会社

五 回

四

一日ノ注入個數ハ防腐工場並鋪木ノ寸法ヲ異ニスル毎ニ相異アルモ平均約四萬個内外ナリ注入量ノ検査ニ於テハ注入量不足ノ場合ハ之レヲ全然不合格トシテ擯却セズ更ニ規定量ニ達スル迄反覆注入セシムルノ方法ヲ取レリ注入済ミノ上検査官ノ検査ヲ受ケタリ。

各防腐會社ニ就キ注入量ノ成績ヲ掲ゲバ左表ノ如シ。

防腐會社名	契約番號	平均立方尺當リ 注入量(貫)	規定注入量
東洋木材防腐株式會社	復拂契 第五六號	一、九六〇	一、六〇〇
株式會社富士山商店	第六六號	一、八八七	
帝國木材工業所	第四二號	一、八二四	
	第五五號	一、七〇二	
	第六八號	一、八五五	
日本木煉瓦株式會社	第六七號	一、八六一	
		一、七四六	

仕 樣 書

本局指定ノ仕様書ヲ掲記セバ次ノ如シ。

鋪木仕様書

第一條 鋪木ハ局所有ノ左記寸法ノ原木ヨリ造材スルモノトス。

厚	巾	長	復拂契番號
三吋	三〇八吋	一一一三〇呎	復拂契第四二號
六	六	一一一三〇	
六	三〇八	一〇一三〇	
三	二八六	八一三二	復拂契第五〇號
六	二八六	六一四〇	
四	二八六	八一四〇	復拂契第五一號
三	一〇	八一三二	復拂契第五二號
六	一〇	六一四〇	
四、二分ノ一	二〇八六	一一一三二	復拂契第五九號

五



第二條 上記原木ヨリ各左記寸法ノ鋪木ヲ製作スルモノトス。

厚(幹軸ノ向キ)	巾	長	備考
四	二〇八六	六四〇	復拂契第六〇號
四、二分ノ一	二〇六	八三三	
三	二六	六三三	復拂契第六一號
六	二六	六四〇	
三	〇八	六三三	
六	〇八	八四〇	復拂契第六二號
三、五八	二、八分ノ六	七、八分ノ七	
"	"	五、八分ノ六	
"	"	四、八分ノ六	
三、五八	二、八分ノ六	七、八分ノ七	

三、五八	二、八分ノ六	五、八分ノ六
"	"	四、八分ノ六
"	"	四、八分ノ三
"	"	七、八分ノ七
"	三、八分ノ六	五、八分ノ六
"	"	四、八分ノ六

但シ厚サ及巾ニ於テ五厘長サニ於テ一分ノ差異ハ特ニ之レヲ許スコトアルベシ。

第三條 鋪木ハ半徑ノ方向一寸ニ付年輪七個以上ヲ有シ最大幅ノモノト雖モ一分五厘ヲ超ユベカラズ。

第四條 鋪木ハ腐朽、穴、蟲喰、割目、乾裂ノ大ナルモノ、死節、拔節、大節、其ノ他有害ト認ムル瑕疵ナキモノタルベシ。

但シ節ハ直徑(或ハ巾)六分ヲ以テ大小ノ限界トシ各縁部ヨリ五分ノ隔リニ於ケル大節一個ハ之ヲ許スコトアルベク又小節ハ縁部ヨリ五分ノ隔リニ於テハ二個ヲ超エザルモノトス。

巾六分以下ノ節ト雖モ長徑一寸ヲ超ユルモノハ大節ト見做ス。

第六條 鋪木ハ檢收濟ノ上寸法別ニ左記ノ如ク堅固ニ結束スルモノトス。

一、長	時
一、	七、八分ノ七ノモノ
一、	五、八分ノ六ノモノ
一、	四、八分ノ六ノモノ
一、	四、八分ノ三ノモノ

鋪木防腐劑注入仕様書



## 一、防腐劑

防腐劑ハ石炭「タール」約四割及石炭「タール」ヨリ精製セラレタル「クレオソート」油約六割ノ混合物ニシテ左記各項ニ適合スルモノタルベシ。

一、比 重 攝氏十五度ニ於テ一、〇六〇以上一、一〇七以下タルコト。

二、蒸 餾 試 驗 蒸餾試験ノ結果容量割合左ノ如クナルコト。

攝氏百五拾度迄ノ餾出量 四 %以下

攝氏貳百參拾五度迄ノ餾出量 二五 %以下

攝氏參百拾五度迄ノ餾出量 六〇、五%以上

残 滓 三九、五%以下

三、「タール」酸 蒸餾試験ノ結果攝氏參百拾五度迄ノ餾出物ニ攝氏拾五度ニ於テ比重一、一五ノ苛性曹達ノ等量ヲ

加ヘ能ク混和セシメ靜置シテ二層ニ分離シタルトキ容量ニ於テ七、四%以上ノ減量ヲ有スルコト。

四、游 離 炭 素 重量ニ於テ四%以下

五、防腐劑ハ注入前本局ノ検査ヲ受クルコトヲ要ス。

## 二、注 入 量

一、防腐劑注入量ハ木材壹立方尺ニ付壹貫六百匁以上トス。

二、防腐劑注入量ハ注入前後ノ差重(一車毎ニ)ヲ以テ計算スルモノトス。

## 三、注 入 法

防腐劑注入ハ充滿細胞法ニ依リ行ヒ左記操作ヲナスモノトス。

一、前排氣ハ減壓度貳拾五吋ニシテ三十分以上繼續スルコト。

二、藥液ノ加壓ハ徐々ニ之レヲ行ヒ百封度以上ニ上昇後約壹時間繼續スルモノトス。

三、藥液加熱溫度ハ攝氏八十度以上トス。

四、後排氣ハ減壓度貳拾吋ニシテ約三十分間繼續スルコト。

次ニ各製材所及防腐會社ニ委託セル製材費並防腐劑注入費及契約數量等ヲ總括スレバ左表ノ如シ。















結論

鋪木寸法

鋪木寸法ハ歐米先進國ニ於テモ各市各様ニシテ必ズシモ一定セズ一八三五年鋪木道創設以來約九十年間幾多ノ變遷ヲ經テ現今歐米濠ニ於テ最モ普通ニ採用サル、寸法ハ左記ノ如クニシテ今之レヲ本邦ニ於ケル鋪木寸法ト比較スルニ次表ノ如シ。

各國鋪木寸法

都市名	寸法 (寸)		
	長	巾	厚
倫敦市	六、六〇—七、八五	二、四八—二、九〇	三、九九—四、九五
巴里市	二、七六—七、五九	二、六四	三、九六—四、九五
獨逸都市	四、九五—七、五九	二、六四—三、三〇	三、三〇—四、二九
米國都市	四、二〇—八、四〇	二、五二—三、三六	二、九四—三、三六
シドニー市	四、九五—七、四三	二、六四	四、一三—四、九五
東京市(市役所)	五、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
東京市(復興局)	三、六七—五、六一—五	二、三二—三、一五〇	三、〇〇

即チ寸法ハ各市ニヨリテ多少差異アルモ我國ノモノト歐米濠ノモノト比較スルニ巾ニ於テハ殆ンド相等シケレドモ長手、及厚サニ於テ小ナルヲ認ム可ク殊ニ厚サニ於テ著シク小ナルハ注目ニ値スベシ彼ノ鋪木道ノ理想的成功ヲ收メタル倫敦市ニ於テ鋪木浮上リノ防止策ノ一トシテ厚サノ大ナルヲ採レルハ大イニ參考トナスヲ得可ク之レ纖維ノ方向ニ於ケル木材ノ



膨脹ハ殆ンド考慮ノ要ナキヲ以テ厚サノ大ナル程安定ナルハ自明ノ理トス從來吾人ハ鋪木ノ寸法トシ云ヘバ常ニ東京市ノ現在採用セル五寸×三寸×三寸ノ鋪木ヲ聯想スルモ該寸法ハ必ズシモ理想的ナリト云フ可カラズ未ダ研究ノ餘地存スルハ明カナリ。

### 防腐劑及其ノ注入量

鋪木ノ防腐劑ニ關シ各國ノ例ヲ見ルニ或ハ鹽化水銀、硫酸銅、鹽化亞鉛等ヲ使用シ來ルモ何レモ缺點多ク鹽化亞鉛ヲ除外其ノ使用ハ限定セラレ結局骸炭並石炭瓦斯製造ノ副産物タル「タール」或ハ「クレオソート」ヲ最モ多量ニ使用スルニ至レリ倫敦ニ於テハ「クレオソート」ノミヲ使用シ米國ニ於テハ「クレオソート」或ハ「タール」トノ混合液ヲ使用セリ「タール」及「クレオソート」ハ何レモ一種ノ強烈ナル臭氣ヲ有シ之レガ注入ヲ施シタル鋪木ハ鋪設後一年間ハ街路樹木ノ嫩葉ヲ侵シ抵抗力弱キ樹種ハ時ニ枯損スル場合アリ又路面ヲ不淨ナラシメ取扱上嫌忌サル、等ノ缺點アルニ拘ラズ最モ多量ニ使用サル、所以ノモノハ其ノ生産容易ニシテ防腐力ニ富ミ且價格比較的低廉ナルニ因ルモノト謂フ可ク現今是レニ匹敵シ得ル防腐劑ハ未ダ發見サル、ニ至ラズ。

本邦ニ於テハ從來木材防腐材トシテハ主トシテ「クレオソート」ノミヲ使用シ「タール」ハ單ニ簡易ナル塗附用防腐劑トシテ杭、板塀等ニ使用スルニ過ギザルヲ以テ鋪木防腐劑トシテモ「クレオソート」ヲ專用シ來レルハ傳統的觀念ニ因ハレタル點無シトセズ木材ノ一般防腐ニ就キテハ暫ラク措キ鋪木ニ「クレオソート」ノミヲ注入スルハ從來ノ經驗上幾多ノ短所ヲ曝露セルハ余ノ屢々唱導セル處ナリ茲ニ鑑ミ本局ニ於テハ「タール」四〇%ヲ混合シテ「クレオソート」單用ニ因スル缺點ヲ可及的輕減セント力メタリ歐米ニ於テハ「クレオソート」ヲ單用スル場合ト雖其ノ比重ハ攝氏十五度ニ於テ一、〇八八以上時ニ一、一二ニ達スルコトアリテ本邦ニ於ケル「クレオソート」ノ一、〇四内外ナルニ比スレバ輕油分ノ如

何ニ少量ナルカヲ窺知スルヲ得可シ。

次ニ防腐劑注入法ニ就キテ一言セン從來本邦ニ於ケル防腐劑注入ニ於テ其ノ注入操作法ノ明記セラレタル仕様書アルヲ聞カズ之レ大ナル缺點ニシテ本局ニ於テハ特ニ操作法ヲ明記シ注入ノ完全ヲ期セントセリ即チ防腐劑注入ノ三大要素タル排氣、藥液加壓、藥液溫度ニ付一定ノ標準ヲ設ケタリ今是等ニ付更ニ説明ヲ試ミン。

由來防腐劑注入法ハ加壓法、開槽法及生理的滲潤法ニ三大別スルヲ得可キモ廣ク工業的ニ應用サレタルハ前二法ニシテ第三法ノ如キハ未ダ試驗時代ニアリテ其ノ實用的價值ハ疑問ニ屬ス前二法中開槽法ハ方法簡單ナルト設備費ニ多額ヲ要セザルガ爲メ頗ル便法ナルモ其ノ注入力弱キガ爲メ唯特種ノ樹種ニ限定サル、ノ缺點アリテ廣ク用ヒラル、ニ至ラズ現今ハ世界各地ニ於テハ専ラ加壓法ヲ採用スルニ至レリ本法ニモ亦種々アリ其ノ原理ハ大同小異ニシテ代表的ノモノハ「ベセル」法及「リウピング」法ノ二種トス本邦ニ於ケル方法ハ全テ「ベセル」法ニ準據セルモ歐米ニ於ケル該法ハ其ノ藥液加壓力平方吋ニ付一〇〇封度以上一五〇封度最高二〇〇封度ニシテ繼續時間又長ク到底我國現行ノ低壓短時間ナルニ比ス可クモアラズ從來本邦ニ於ケル各防腐會社ノ注入法ハ其ノ壓力多クハ百封度内外ニシテ米松鋪木ニ對シテハ百封度ニ達スルト同時ニ加壓ヲ停止セルノ状態ナリ余ハ本邦ニ於ケル各防腐工場ノ設備ノ實際ニ鑑ミ實行可能ノ範圍ニ於テ歐米法ニ準ジ壓力一〇〇封度以上トシ更ニ之レヲ一時間繼續ス可キモノトセリ。

次ニ藥液加壓操作ニ於テ考慮ス可キハ其ノ速度ニシテ速度大ナル程防腐劑ノ滲入不均一ナルヲ以テ徐々ニ長時間繼續スルハ必要ニシテ特ニ是ノ點ニモ留意シタリ。

次ニ排氣ニ付テハ歐米ニ於テハ特ニ之レヲ力説セザルガ如キ感アルモ鋪木ノ如キ形狀小ニシテ木口面積比較的大ナルモノニアリテハ防腐劑注入上排氣最モ有効ナリ歐米ニ於テ普通二五吋(水銀柱計)高サニシテ負數ナリ)内外ナルモ余ハ更ニ減壓ノ要アルヲ認ム更ニ必要ナルハ藥液ノ注入罐内ヲ充滿スル迄排氣ヲ繼續スルコトナルモ本邦ニ於テハ未ダ是ノ方法ヲ實



行シ得ル注入罐ノ設備ナク僅カニ不完全ナガラ實行シ得ルハ富士山商店ニ於ケルモノ、ミトス故ニ余ハ仕様書ニ該操作ヲ規定スルコトヲ得ザリシモ排氣時間ヲ長カラシメテ僅カニ其ノ欲ヲ補ハントセリ。

最近深川區豊住町ニ開業セル志賀式防火防腐工場ノ設備ハ從來ノ缺點ヲ改良シ完全ナル注入罐ヲ裝置セリ。

次ニ必要ナルハ防腐劑ノ溫度ニシテ殊ニ本局所定ノ防腐劑ノ如ク「タール」ヲ混合セルモノニアリテハ一層重要視セザル可カラズ防腐劑注入ノ難易ハ其ノ粘度ト密接ノ關係アルヲ以テ粘度最小ノ溫度迄加熱スルヲ要ス可ク即チ本局所定ノ防腐劑ニアリテハ攝氏八五度ニ於テ最小粘度三五秒ヲ示セルヲ以テ加熱溫度ハ少ク共全溫度ニ達セシメザル可カラズ然ルニ本局仕様書ニ於テハ加熱溫度ヲ攝氏八〇度以上トセルモ未ダ少シク低溫ノ嫌アリ。

防腐劑ノ注入量ハ各國各市ニヨリテ多少相異アリ歐州ニ於テハ鋪木ニ對シテ立方呎當リ一〇封度乃至一二封度ニシテ米國都市ニ於テハ稍多ク一六封度ヲ注入セリ。

元來コノ注入量モ幾許ヲ以テ適量トスルヤハ防腐劑ノ種類、樹種使用目的、使用場所等ニヨリテ異リ之レガ決定ハ凡ユル條件ヲ考慮セザル可カラザルヲ以テ頗ル困難ナリ本局ニ於テモ歐米ノ例ヲ採リ立方尺當リ一三、三封度（立方尺當リ一、六〇〇匆）以上トセリ即チ比重一、〇六〇トシテ體積ノ二〇、三四%ニ當ル可シ。

最後ニ防腐劑注入費ニ就キ附言ス可シ本局ニ於ケル注入費ハ（運賃ヲ含ム）前表ノ示スガ如ク立方尺當リ平均〇、八六五ニシテ之ヲ東京市ニ於テ最近購入セル鋪木ノ注入費ニ比較スルニ（東京市ノ購入セル鋪木ハ内地産松及掬ニシテ立方尺當リ前者ハ三升後者ハ四升トス）全市ニアリテハ立方尺當リ一、二二二ニシテ其ノ間〇、三五七ノ開キアリ之レヲ總鋪木個數ノ實材積五八、五二四石ニ乗ズレバ二〇八、九三〇圓トナリ其ノ差額ノ莫大ナル實ニ驚クノ外ナシ元ヨリ本局及東京市ニ於ケル契約當時ノ商況ハ其ノ間自ラ相異アリシヲ以テ漫然兩者ヲ比較スルハ妥當ナラズト雖モ「タール」四〇%ノ混合ニヨリ注入費ニ於テ相當ノ節約ヲナシ得タルハ明カナル事實ナリトス。

### 工事用重要石材產地調査事項

技手 近 藤 鐵 郎

本調査事項ハ大正十三年九月十七日同日ヨリ十月六日迄ノ廿日間ニ亘リテ千葉、茨城、福島、栃木、群馬、長野、新潟、静岡及ビ神奈川ノ九縣ニ於ケル工事用重要石材產地ノ調査ヲ命セラレタルニ依リ此ノ極メテ短日月中ニ東京近縣ノ重要石材產地ト思惟セルモノヲ可及的多數ヲ調査セルモノナリ。右ノ理由ニ依リ且ツ天候ノ調査行動ヲハムモノアリテ本調査事項ハ或ハ極メテ粗漏ナルノ難ヲ免レ得ズトスルモ既ニ著者ガ本所報告第二部第四及五篇ニテ本邦産建築石材ノ耐火度ニ就イテノ研究上ノ參考事實ヲ得テ本研究ガ帝都ノ復興事業ト餘リニ無關係ノ結果トナルヲ避ケントシ且ツ耐火度ニ關スル研究モ漸ク重要ノ域ニ入ラントスル所ナルヲ以テ一應ソノ試料ノ説明的意味ニ於テモ報告ノ要アリ、又本報告ヲ單ナル復命書トシテノミナラズ本試験所報告第一部ノ業務トシテ其發表ヲ促サレシヲ以テ専門外ノ著者トシテソノ不敏ヲモ顧ミス聊カ參考事實トセントシテ報告セルモノナリ。尙復興事業ノ漸ク進捗ヲ見ルト同時ニ石材ノ需要モ急激ニ増加スベキハ極メテ當然ノ結果ニシテ之等ノ事實ハ引イテ石材產地ニ比較的大ナル變動ヲ來サシムルコト明カナリ。例ヘバ茨城縣眞壁郡各地ノ所謂小「ミカゲ」及糠「ミカゲ」ノ產地ニ既ニ小變動ヲ來セシヤニ仄聞セルガ如キ之ナリ。又震災ノ影響最モ甚大ナリシ所謂相州堅石ノ產地ノ如キ昔日ヨリ京濱ニ密接ナル需要供給ノ關係アリシ所ハ調査當時迄ハ材料蒐集ニサヘ困難ヲ極メタリト雖モソノ事業復興ハ帝都ノ復興ト平行シテ極メテ迅速ナルベキハ想像ニ難カラズ。尙復興事業ヲ目的トシテ各地ヨリ新ニ需要ノ擡頭セル石材ニシテ重要ナルモノ多々アルベシ。

是等ニ對スル完全ナル調査ハ到底本報告ノ能ク盡ス所ニアラズ。尙本調査ハ理學士江畑弘毅氏ト共ニ行ヒタルモノニシテ同



氏ノ専門の見地ヨリシテ更ニ科學的ノ調査報告ニヨリテ產地ノ真相ヲ詳述セラレ本報告ノ短ヲ補ヒ且ツ又誤謬ヲ訂正セラレンコトヲ切望セルモ同氏偶々入管ノ義務ニ服セラレテ氏ノ研究發表ハ遅延ヲ餘儀ナクセラレタリ著者ガ本報告ヲ草スルハ勿論同氏ヨリ得タル所多シ茲ニ厚ク謝意ヲ表ス。

本報告中調査經營者トアルハ時間ノ都合上全般ノ調査不可能ナリシヲ以テ該地當業者中最モ大規模ニ經營スルモノ一二ヲエラビンノ經營狀態ヲ調査シタルコトヲ意味セルモノナリ。然シテ最后ニ同地ニ於ケル他ノ經營者ノ名前ヲ列記シテ參考ニ資セリ。京濱地方トノ關係事項ノ下ニ京濱ノ石材商ヲ列記セルハソノ產地ト京濱地方トノ販賣關係ノ一端ヲ示サントセルモノニシテ粗石價格ノ項ハ時ノ經濟狀態ニ大ナル關係アリテ之ヲ以テ直チニ石材ノ價格ヲ論ズルハ稍妥當ヲ缺キタルモノト言フベシ。然レドモ調査時日ガ殆ド同時ニ行ハレタルヲ以テ調査當時ノ價格ノ比較ニ於テハ稍々有意義ノモノト思惟スル點アリ。尙誤謬ノ點及ビ盡サバル點等ハ讀者諸氏ノ考慮ヲ煩ハシ叱正ヲ乞ハントスルモノナリ。  
(大正十四年十二月四日記)

### 茨城縣眞壁郡眞壁町(小ミカゲ)

一、調査年月日 大正十三年九月十八日

一、調査經營者 茨城石材合資會社眞壁出張所

支配人 柴 田 米 吉

一、丁場ノ位置及數 眞壁町ノ東方約十八町、天目山ノ中腹ニ二丁場、外ニ藤權現ニ一丁場アリ、採掘全面積十町歩、眞壁町ハ權穗村及雨引村ト並ビテ小「ミカゲ」ヲ産出シ、前記二ヶ所ハ眞壁町ニテ最モ大キク、大正廿年迄採掘契約アリト、目下作業中。

一、丁場附近ノ地理 所謂小「ミカゲ」ノ産出丁場ハ筑波山及加波山間ノ峰續キノ西方中腹一体ニ散在シ、ソノ數實ニ數十

ヶ所ニ上ル。ソノ北部ハ即雨引村ニシテ南部ハ眞壁町ナリ。而シテ權穗村ハソノ中間ニ位シ、三ヶ所中最モ多量ニ産出スト稱ス。雨引村ノ北方水戸線ノ通ズル谿谷ヲ距テ、北方ハ即チ稻田「ミカゲ」ノ產地ニシテ眞壁町ノ南方ハ粗粒ノ小田「ミカゲ」ノ產地小田村ナリ。加波山及筑波山間ノ連峰ニ平行シテソノ山麓ヨリ十町内外ノ所ニハ筑波鐵道、岩瀬町土浦町間ニ敷設セラレ石材ノ搬出ニ至便ナリ。連峰ノ東方ハ新治郡戀瀨村ニシテ石量極メテ豊富ナリト雖モ搬出至難ナリ。

一、石 質 石質中ニ白雲母ヲ混ズルコトアリ。又黒「ボサ」ヲ所々ニ散見スレドモ鑄ヲ生ズルコト稀ナリ。質極メテ堅硬ニシテ施工從ツテ難ナルモ、琢磨效果ヨク顯ハレ裝飾用材、細工物ニハ適當ノ石質ナリ、風化ニ對スル抵抗大ニシテ採掘場モ亦風化ノ程度少ク風化生成物タル「ミカゲ」砂ヲ以テ蔽ハル、事稀ナリ。

一、最大採石寸法 角材八十切、長材二十尺。

一、採石種類 角材ヲ主トスレドモ屑石ヲ以テ間知ヲ作ル。目下鋪道用「ブロック」ト稱シ、約三寸立方ノモノ三萬七千箇ノ製造略完了セリ。尙會社ハ十五馬力ノ碎石機械(ジョークラッシュヤ)一臺ヲ設置シ「ソリヂチット」用碎石ヲ製造セリ。一日碎石能力三十噸乃至十五噸(篩目ノ大サニヨリ異ル)篩目ハ八分目及六分目ヲ普通トス。

一、販路 東京附近ヲ主トシ千葉縣、埼玉縣ニモ幾分販賣ス。  
一、用途 土木用材トシテハ道路鋪裝材料、橋臺及橋脚、「ソリヂチット」原料、間知等ニシテ、裝飾用トシテハ燈爐、墓石等。

一、山出方法 眞壁驛(筑波鐵道)ヨリ山麓迄長サ約八町ノ軌道ヲ敷設シ、「トロ」七臺ヲ使用ス。一臺ノ載積能力約廿切ナリ。軌道ノ終點ト丁場間ハ土車ヲ以テ約十町ノ急坂ヲ下ス。(一切ノ重量平均廿二貫、稻田「ミカゲ」ハ廿一貫)  
一、石工及人夫 石工ハ天目山ノ二丁場ニ合計六名、切當リ採掘賃三十錢。  
但シ特別ノ注文ノ時ハ四十錢ナリ。一人一日ノ採掘能力十切。



人夫一日二圓五十錢。

- 一、粗石價格 普通切石、東京レール渡 一圓五十錢。
- 一、產出量 眞壁驛ノ積出量ヲ以テセバ眞壁町ノ產出全量一ヶ月約九、〇〇〇切ナリ
- 一、他ノ經營者 花崗石材株式會社（岡田藤太）

岡田 石材店

一、小「ミカゲ」產出丁場經營者ハ一般ニソノ石質及經營上稻田「ミカゲ」ニ對抗スベク努力スル所アレドモ施工困難ナル事、建築用材トスルニハソノ加工程度稻田「ミカゲ」ノ粗ナルニ比シ、精ナルヲ要スル事。從ツテ加工賃ノ高價ナル事等ノ缺點ハソノ石質良好ナルヲ以テシテモ到底稻田「ミカゲ」ニ及バザル所ナリトス。

### 茨城縣眞壁郡權穗村（小ミカゲ又ハ樺穂ミカゲ）

一、調査年月日 大正十三年九月十八日及十九日

一、調査經營者 權穗驛前 出川 石材店

同 山中 石材店

一、丁場ノ位置及數 丁場ハ何レモ東方加波山ノ中腹ニ多數相接近シテ開カレ、出川石材店ノ丁場ハ組倉山、茅場及中禪寺等合計七丁場ヲ有シ、何レモ權穗驛迄廿四五町内外ナリ。山中石材店ハ出川石材店ニ隣接シ大字長岡藤峰ニ一號ヨリ五號迄ノ五丁場ヲ有ス、更ニ新丁場ヲ開キ軌道延長敷設ノ計畫アリ。

一、地理及沿革 眞壁町及雨引村ノ採石場ノ中間ニ位シ、大正十一年五月筑波鐵道ノ眞壁驛ノ竣成スル時迄ハ丁場ヨリ一里ヲ馬車ヲ以テ眞壁驛迄搬出セルモノニシテ爾後鐵道並ビニ軌道ノ便ニヨリテ產出量モ眞壁町及雨引村ヲ凌グニ至レ

リ。既ニ現在ノ產出量ハ眞壁町月九千切、權穗村一萬二千切、雨引村六千切ナリ。

一、石質 眞壁町產出小「ミカゲ」ト全ク同一ニシテ地表ニ近キ所ヨリ採石セシモノハ含鐵成分解ノタメ稍々錆ヲ生ズレドモンノ他ハ錆ノ恐レ殆ント無シ。黒「ボサ」ノ缺點モ眞壁町產出ノモノト同一ナリ。小「ミカゲ」ニハ稍々黒味ヲ帶ブルト白味ノ勝チタル二種アリ。空氣濕潤ノ日ソノ區別著シ選擇上注意スベキ所ナルベシ。

一、最大採石 長材三十尺 角石方十六尺。

一、採石種類 角材及長材ノ產出多キモ、調査當時ハ板石ヲ主トシ驛前ニテ加工シツ、アリ。板石ハ厚サ三寸乃至三寸五分長一尺乃至二尺、巾一尺二寸ヲ普通トス。

一、販路 東京附近ヲ主トシ、千葉、埼玉縣等ニモ幾分販路アリ。

一、用途 橋梁用材、石燈籠、鳥居等ノ裝飾用材、土木用敷石等ナリ。昌平橋、柳原橋、築地橋用材トシテ使用ノ例アリ。

一、山出方法及運賃 丁場ヨリ土樋ヲ以テ山麓ニ運ビテ後、權穗興業株式會社ノ經營ニナル長サ廿町乃至廿四丁ノ輕便軌道ニヨリテ權穗驛ニ搬出ス。又石材ハ粗材ニシテ加工ハ權穗驛頭ニ於テ荒仕上ゲノ後汽車積トス。停車場迄ノ運賃即チ山出シ及軌道運賃採石費一切ヲ加ヘテ切當廿九錢トス。

一、石工人數及賃金 出川石材店總計十六人、山中石材店總計十三人。權穗驛前ノ加工師ノ一日ノ賃銀 二圓五拾錢乃至三圓ナリ。以前ハ丁場ニテ採石後直ニ加工ヲ行ヒタレドモ軌道敷設後ハ粗材ノマ、ニテ運出シテ加工スル方ヲ經濟ナリトス。粗材一噸ノ切數ハ九切半ニ相當ス。

一、粗石價格 角材五切以下切當リ一圓五十錢（權穗驛渡シ）  
板石、坪當リ 二十四圓（東京各驛レール渡シ）  
二十四圓五十錢（權穗驛渡シ）



但シ板石ハ厚サ三寸乃至三寸五分、長二尺、巾一尺二寸ノモノ。

一、他ノ經營者 鈴木儀一郎(二丁場)

古橋高之助(二丁場)

岡田政行(三丁場)

一、東京トノ關係 稻田地方ノ經營者ハ東京ニ支店又ハ出張所ヲ置キ生産及販路ヲ一手ニ行フニ反シ、樺穂村經營者ハ間接ニ問屋又ハ土木請負業者ノ手ヲ經テ販賣スルヲ多シトス。

出川石材店ノ主ナル取引店

新宿驛前

大貫石材店

本所區相生町

大野詮吉

京橋區元南町

加藤文次郎

山中石材店ノ主ナル取引店

京橋區元南町

加藤文次郎

麴町區飯田町

加藤萬之助

千住地方橋場

大島石材店

### 茨城縣眞壁郡雨引村(小ミカゲ)

一、調査年月日 大正十三年九月十九日

一、調査經營者 雨引驛前 飯島健四郎

一、丁場ノ位置及數並ニ地理 加波山ヨリ北延シタル西方山麓ニアリテ雨引山ノ雨引觀音ノ西南ノ所ニ至ル各所ニ開カル。

雨引驛ヨリ東方凡ソ半里ナリ。ソノ中重ナルモノハ瀧庭一丁場、東山二丁場ナリ。本村ハ茨城縣下花園岩採掘事業ノ嚆矢

ニシテ以前採石ハ軌道ニヨリテ岩瀨驛ニ搬出セルモノナリ。石質ハ粗粒ノ稻田「ミカゲ」ノ採掘地稻田驛ニモ近キヲ以テ

稍々組織荒ク、東山丁場ノ採石ハ瀧庭丁場ニ比シテ中粒「ミカゲ」ニ近シ。又施工ハ眞壁、樺穂産ニ比シテ容易ナリ。

一、大採石寸法 長材二十尺。

一、採石種類 主トシテ角材ヲ産出シ、ソノ量全産出量ノ八割ヲ占ム。二割ハ板石及間知裝飾用材ニシテ間知ノ産出

量眞壁樺穂ヲ遙ニ凌グ。

一、販路 角材ノ全産出量ノ七割ハ東京附近ニ供給サレ、三割ハ千葉、埼玉縣等ノ地方ニ送ラル。又庭石等裝飾

用材及間知ハ各地ニ販賣サル

一、用途 建築、土木、裝飾用材ナリ。ソノ使用實例ハ

中央電信局、九段坂尼港遭難記念碑、横濱正金銀行、日本銀行等ナリ。但シ一般ニ黒「ボサ」ノ缺點多キヲ以テ外部用材

トシテハ推稱スベカラズ。

一、山出方法及運賃 現在十切積馬車一臺、一日三往復ヲナシ、丁場ヨリ雨引驛迄平均三十錢ヲ要シ雨引驛ヨリ各地へ輸送

ス。

一、石工人數 三丁場合計八人 切當リ三十錢

一人一日十四五切ノ採石能力ナリ。

一、産出量 飯島健四郎ノ産出量一ヶ月約二百切ニシテ雨引驛總積出シ量ノ三分ノ一ナリ。

一、粗石價格 角材五切以下

切一圓六十錢



五切以上十切以下 切一回七十五錢  
 板石一坪ニツキ 十七回五十錢

但シ連賃(鐵道ノ)石材店負擔トシテ雨引驛渡シ値段ナリ。

一、東京トノ關係

支店	池袋驛前	齋藤石材店
問屋	澁谷驛前	石宮石材店
	新宿驛前	萩島茂留
	惠比壽驛前	岩崎彌吉
	四谷區永住町	歌川六藏
	中野驛前	渡邊石材店
一、他ノ經營者	大塚常次郎	飯塚宗次郎
	深谷茂太郎	石彦石材店
	松野仙之助	吉田組
	吉田組	等。

茨城縣西茨城郡岩瀨町(普通ミカゲ)

- 一、調査年月日 大正十三年九月十九日
- 一、調査經營者 稻川高之助

一、丁場ノ位置及數 岩瀨驛ヨリ西北約一里、白山山村ニ三丁場ヲ開ク。此地方ハ稻田ノ西部ニ位シ、地質學上接觸地帯ニ接近スト稱セラレ鐵氣ニ富ミ鎔ノ缺點多ク、黒「ボサ」モ亦多ク石質稻田「ミカゲ」ニ遙ニ劣リ建築用材トシテハ不向キニシテ土木用板石ニ適スベシ。

- 一、最大採石寸法 長材三十二尺 角材二尺五寸角、
- 一、販路 埼玉縣及栃木縣下ヲ主トシ、岩瀨驛渡シニテ販賣ス。
- 一、用途 角材ハ土木及建築用材ナリ。
- 一、價格 五切以下 切當リ 一回二十錢  
 五切以上 一回三十錢  
 十切以下 一回八十錢  
 廿切以上

- 一、石工 十五人、一日一人ノ採掘能力二十切以下
  - 一、山出方法 一噸半積ミ馬車五六臺ヲ以テ一日三往復ヲナシ、一噸ノ運搬賃二回、採掘費 切二十五錢。
  - 一、產出量 一ヶ月 二百噸
- 東京及横濱地方ノ需要供給關係重大ナラズト認ム。

茨城縣西茨城郡西山内村字稻田(稻田ミカゲ)

- 一、調査年月日 大正十三年九月廿日
  - 一、調査營業者 高田石材合資會社(代表者 高田一)  
 土屋康二出張所( ) 淺倉大助( )  
 中野石材店
- 通常稻田三丁場ノ稱アリ



關東地方ニテ花崗岩ノ產地トシテ汎ク知ラル、茨城縣西茨城郡、眞壁郡、新治郡、筑波郡ノ四郡中最モ有名ニシテ多量ニ  
産出スルハ西茨城郡ナリ。而シテ西山内村稻田澤ノ産額ハ實ニ本邦中ノ首位ニ位シ北那珂村之ニ亞グ。從ツテ此地方産出  
花崗岩ヲ一般ニ稻田「ミカゲ」ト稱スルニ至レリ稻田驛ニ於ケル石材採掘業者中前記三名及佐々木佐治兵衛ノ四名ハソノ  
最モ代表的ノモノニシテ稻田澤全産出量ノ四分ノ三以上ハ前記四名ノ産出ニ因ルモノナリ。  
調査經營者ノ經營丁場ヲアグレバ

高田石材合資會社

- 堂 峰 (二丁場) 岩 倉 (六丁場) 西 澤 (六丁場)
- 小 西 澤 (二丁場) 入 道 (三丁場)
- 土屋康二出張所
- 大 廣 (二丁場) 茅 場 (四丁場) 狛 窪 (二丁場)
- 杉 久 保 (二丁場) 日 蔭 山 (二丁場)
- 中野石材店
- 奥 山 (五丁場) 前 山 (三丁場) 堂 峰 (三丁場)
- 大 郷 戸 (六丁場)

一、丁場附近ノ地理 堂峰、岩倉、西澤、小西澤、入道、奥山等ノ丁場ハ稻田澤北部ノ山腹ニ略東西ニ並ビ、西延シテ日ノ入  
丁場ニテ終ル。又日蔭山、茅場、狛窪、杉久保等ノ丁場ハ稻田驛南部ノ山腹ニ開カレ、堂峰、西澤等ト相向ヒテ存在ス。  
稻田澤ハ西茨城郡役所所在地笠間町ノ西南方一里半、稻田驛ヨリ數町ノ所ナリ。

一、坑區内部ノ状態 目下採掘スルハ多ク玉石ヨリ採掘ス。從ツテ表面ノ風化甚ダシ。然レドモ前山、西澤丁場ハ岩盤ニ相

當接近シ「二番」ヨリ採石ス、ソノ採掘セル儘ノ大ナルモノニ至リテハ高サ二十數尺ヨリ四十尺ニ及ビ、之レヲ小割加工  
シテ後搬出ス。一般ニ稻田澤北部ノ丁場ノ産石ハ風化ノ程度モ比較的少ク、錳ノ恐レ少ク、良質ナリ。次ニ茅場、杉久保  
丁場ノ如キ稻田澤南部ノ丁場ハ末ダ玉石ノミニヨリ採石ス。從ツテ風化ノ甚シキ「一番」ヲ稼行ス。且ツ鐵氣稍々含マル  
ヲ以テ採石上石質ノ撰擇ニ相當ノ注意ヲ拂ヒ居レリ。丸ノ内三菱銀行ノ花崗岩ハ稻田「ミカゲ」ニシテ鐵氣ヲ嫌ヒテ主ト  
シテ前山、西澤、小西澤等北部ノ丁場ヨリ採掘シ、南部ノ丁場ノ採石ハ鐵氣ニ對スル検査ヲ特ニ嚴重ニセリト。

尙西澤丁場ハ壓搾空氣ニヨル鑿岩機ヲ使用シツ、アリ。

- 一、施工ノ難易 施工容易ナリ。組織中粒ニシテ細密ナル彫刻ニハ適セズシテ一般ニ荒仕上ゲノ儘ニテ外觀ニ差シタル  
缺點ナク。是レ他ノ點ヲ論ゼズ眞壁地方ノ小「ミカゲ」ニ比シテ最モ有利ナル一性質ナリトス。
- 一、最大採石寸法 角材百五十切乃至二百五十切迄、長材三十尺乃至四十尺。
- 一、採石種類 板石、角材ヲ主トシ、産出量ノ七割ハ角材ナリ。之等ノ餘分ハ間知、延石ニ利用シ、間地ハ面一尺控  
ヘ一尺六寸ヲ主トス。

一、販 路 全産出量ノ六割ハ東京横濱地方ニ向ケ、ソノ他千葉群馬、埼玉縣ノ近縣ナリ。  
今稻田驛調査ニ依リ十二年ノ稻田「ミカゲ」送り先キ府縣及數量ヲ示セバ

東 京 府	一三、八二五噸
神 奈 川 縣	六、二六五 "
靜 岡 縣	五 五 五 "
群 馬 縣	一 六 五 "
栃 木 縣	九 五 〇 "



福島縣  
茨城縣  
千葉縣

一、六五五〃  
八、二〇〇〃  
四、七九五〃

一、用途

建築用及土木用トシテ廣ク用ヒラル、モソノ中建築用材ハ全產出量ノ約七八割ヲ占ムト云フ。

一、石工及人夫

土屋康次出張所	石工	七十人	人夫	八十人
中野石材店	石工	三十五人		
高田石材合資會社	石工	六十人		

石工ノ採石費 切二十一錢乃至四十錢迄

一、山出方法及賃銀

丁場ノ採石ハ以前土車ノミヲ以テ小出シヲ行ヒタレドモ目下其半數ハ土槓ヲ以テ換ヘ、一町乃至數町ノ急坂ヲ下シ次ニ約一哩ノ軌道ニヨリ傾斜ヲ利用シテ稻田驛ニ出ス。

(日ノ入丁場附近ハ羽黒驛ヘ軌道ニヨリ出ス。軌道ノ長サ三哩半)尙多數ノ經營者中ニハ丁場ノ位置其他ノ理由ニヨリテ軌道ニヨラズ搬出スルモノアリト雖モソノ數量殆ンド數フルニ足ラズ。

稻田驛ニ出ヅル軌道ハ三條ニシテ稻田三丁場ノ稱アル土屋康二出張所、中野石材店、高田石材合資會社三者各々一條宛經營敷設ス。

とろ運賃廿切未滿切ニ付キ五錢(但シ軌道經營費ヲ入ル、時ハ凡ソ二十錢ト稱ス)馬車ニヨル時ハ切ニ付二十錢。槓下シ 切ニ付キ平均六錢

從ツテ丁場ヨリ稻田驛迄ノ運賃二十六錢ヲ要ス。

とろハ廿五切ヲ積載シ一日三回乃至四回往復シ日下合計九臺ヲ使用ス。

一、東京トノ關係 運出ハ大部分稻田驛ヨリ行ヒ少量ハ羽黒驛ヨリ行フ

稻田驛、東京秋葉原間 七十四哩

ソノ販賣狀態ニ就キ經營者ノ陳ブル所ニヨレバ從來ハ東京ノ土木業者、石材商ノ手ヲ經テ販賣セルモノナリ。然レドモ所謂仲買人ノ手ヲ經ル時ハ採掘者並ビニ使用者間ノ需要供給關係ノ圓滑ヲ缺キ、且ツ採掘業者ノ利潤少ナキヲ以テ近來支店又ハ出張所ヲ東京ニ設ケ從來ノ不合理ヲ一掃スルニ務メツ、アリト。

前記稻田三丁場ト取引關係ヲ有スル石材商ヲ擧グレバ

中野 石材店——中野商店(京橋區本八丁堀二ノ廿二)

土屋康二出張所——土屋商店(日本橋區濱町二ノ十七)

土屋本 店(神奈川縣足柄下郡岩村)

高田石材合資會社——鍋島石材興業會社(九段坂下今川小路一)

柏 木 組(日本橋區北新堀)

半 田 忠 三(隅田川驛前)

一、粗石價格

一角材

稻田驛渡

五切未滿

切ニツキ

一圓七十五錢

五切以上五切ヲ増ス毎ニ

〃

約廿錢ヲ増ス

東京レール渡

〔前記價格ノ外停車場ノ位置ニヨリテ切當リ三十錢乃至三十五錢ヨリ六十錢乃至六十五錢ヲ要ス。〕

二、板石

稻田驛渡

一面坪ニツキ 十六圓ヨリ二十二圓

東京レール渡

〃 二圓五十錢ヲ増ス。



一、同業者 所謂稻田三丁場ノ外

佐々木 佐治兵衛 稻野 邊源治 古字田 三男三  
 三好 佐太郎 關東花崗石材株式會社  
 紫沼 佐太郎 宮内 忠吾 河内儀四郎  
 篠田 喜作 吉田 寅吉 等貳拾數名

一、產出量 稻田產出量全体ニテ月約五萬切、之レヲ内譯スレバ

土屋康二出張所	月	一萬切
高田石材合資會社	〃	一萬切
中野石材店	〃	七千切
ソノ他	〃	二萬三千切
尙稻田驛ノ輸出調査ニヨリ過去數年ノ趨勢ヲ知ラン。		
大正 四年		四一、三五八噸
〃 五年		四九、二四九〃
〃 六年		五五、三七四〃
〃 七年		四九、九七一〃
〃 八年		四九、五〇六〃
〃 九年		五一、三九四〃
〃 十年		五二、三三七〃

大正十一年 五四、三〇九〃  
 十二年(震災) 四〇、七六四〃

茨城縣西茨城郡西山内村稻田(碎石)

一、調査年月日 大正十三年九月廿日

一、調査經營者 常陸碎石株式會社(支配人 柴沼信義)

一、原料 花崗岩(稻田地方產出)

蛇紋岩(秩父地方產出)

大理石(茨城縣太田町產出)

一、設備 右ノ原料ヲ使用シテ碎石機(ジョークラツシヤ)ニカケ各種建築物ノ人造石又ハ「コンクリート」ノ原料ヲ製造ス目下稻田ニハ十五馬力、十馬力、七馬力、三馬力及水力ニヨル碎石機合計十臺ヲ据付ケアリ。ソノ中四臺ハ會社直營ニカ、リ他ノ三臺ハ主トシテ會社ノ依頼ニヨリ作業スト。碎石ハ「パラス」及粉石ノ二種ニシテ「パラス」ノ大サハ篩目一寸、八分、五分、二分ナリ。

粉石ノ篩目ハ二分二厘、一分、七厘、五厘ナリ。

碎石ハ二斗(重量約八十斤)ヲ一俵トシテ販賣シツノ價格

花崗岩	九十五錢
蛇紋岩	一圓四十錢
大理石	一圓五錢



ニシテ東京「レール」渡シハ一俵ニツキ十五錢ヲ増ス。

- 一、産出量 花崗岩 約三千五百俵(百四十噸)
- 蛇紋岩 千俵(四十噸)
- 大理石 千五百俵(六十噸)

但シ花崗岩ノミヲ碎石スルトキハソノ全能力年八千噸(約二百萬俵)ナリト。

稻田驛ヨリ輸出セル量ハ大正九年以前ハ極メテ微々タリシモ

- 大正十年 二、二八六噸
- 〃 十一年 四、九五四〃
- 〃 十二年 五、四九九〃

逐年ソノ價值認メラル、ヲ知ルベキカ。

一、東京トノ關係

- 三 枝 裕 助 日本橋區龜島町二ノ七
- 小 川 勘 助 京橋區東湊町一ノ二十二
- 高 木 利 右 衛 門 京橋區靈岸島町五
- 藪 原 鐵 五 郎 京橋區桶町三二

等ナリ。

一、備

考 人造石ノ各種工事ニ對スル應用ハ近來京阪地方ニ於テモ漸時隆盛ニ趣ク微アレドモ尙京阪地方ノ應用多キニ比スベカラズト稱セラル。然レドモ今日各種建築及土木石材トシテハ天然ノ石材ヲ使用スルハ經濟上、運搬上、ソ

ノ他ノ困難ヲ伴フ事アルベク、且ツ混凝工土事ノ漸ク勃興シツ、アル今日人造石材ノ使用ハ今後ニ對シテ相當ノ餘地アルヲ知ル。且ツ稻田ノミニ限ラズ、今回ノ調査中所々ニ碎石機ノ据エ置カル、ヲ見タリ。從ツテ碎石工場モ此意味ニ於テ將來ヲ有スルモノト稱スベキナリ。

茨城縣西茨城郡北那珂村(常陸ミカゲ又ハ稻田ミカゲ)

一、調査年月日 大正十三年九月廿日

一、調査經營者 大 貫 龜 吉

一、丁 場 水戸線羽黑驛ノ北方凡ソ一里、字池龜、池龜山ノ中腹ニ一號ヨリ四號マデノ四丁場ヲ有ス。丁場ノ一部ハ經營者ノ所有ニシテ一部ハ年期借リナリ。尙此外、平澤、山口及友部等ニモ數十ヶ所ノ丁場アリテ稻田驛ノ西部延長ト見做スベキ所ナレドモ、花崗岩産出地帯ノ縁邊ニ近キト、風化甚シキ玉石コリ採石スルモノ多キヲ以テ石質稍々稻田ニ劣ルノ觀アリ。鑄ノ出現シ易キハ止ムヲ得ズ。ソノ他石ノ組織ハ全ク稻田「ミカゲ」ト同一ニシテ通常常陸「ミカゲ」ト稱スレドモ稻田「ミカゲ」ト稱スルモ何等差支ナキモノナリ。

一、施工ノ難易 稻田ヨリ容易ナリ。

一、最大採石寸法 長材三十尺、角切三十切。

一、販 路 京濱地方ヲ主トシテ全産出量ノ九割ヲ占メ他ハ東北地方ニ向ケラル。

一、用 途 稻田「ミカゲ」ト全ク同シ。

一、石 工 合計四十人 切ニツキ三十一錢ノ採掘賃ナリ。

一、山出方法及運賃 二條ノ長サ三哩半ノ軌道ヲ敷設シテ羽黑驛ニ運出ス。更ニ一條ノ完成近日ニ在リ。とろ九臺ヲ使用シ



一日一回往復、一回ノ戴積量二噸乃至二噸半、軌道運賃及小出シ賃ヲ加フル時ハ切二十三錢ナルモ軌道保線及修繕費ヲ加算スルトキハ切二十五錢ナリ。

一、粗石價格 東京レール渡標準市價二圓ニシテ羽黒驛渡五切未滿切當リ一圓三十錢乃至一圓五十錢（友部經由東京羽黒間七十九哩）

板石ハ坪十三圓（羽黒驛渡）

一、產出量 月平均七千切、羽黒驛總積出量年三十五萬切ナリ

一、東京トノ關係 從來兎角稻田ニ壓倒サル、氣味ナリシト雖モ近來經營施設ヲ改良シ隆盛ニ向ヒツ、アリ。新宿角管一番地ニ支店ヲ置ク。

一、他ノ經營者 組合員十八名ヨリ成ル羽黒花崗石材企業組合アリ大貫龜吉ハ其中最モ大規模ナル經營者ナリ。

### 茨城縣久慈郡世矢村眞弓山（白寒水石）

一、調査年月日 大正十三年九月廿一日

一、調査經營者 茨城縣久慈郡太田町驛前

茨城大理石株式會社

一、丁場ノ位置及數 太田町ヨリ縣道ニ沿ヒ西南西約一哩小目村ニ至リ、同村ヨリ北方約一里ノ所ニ眞弓山國有林屏風岳ニ第一、第二ノ二丁場アリ。

本丁場ハ太平洋海岸線ニ平行シテ北々東ヨリ南々西ニ走ル多賀山脈ノ最南端ニ位ス。學說ニ依レバ多賀山脈ハ古生會ヨリ成リコノ層中ニ數多ノ石灰岩層介在シ、山脈ノ北部ニ露出セル花崗岩ノ爲メ白色乃至黝黑色ノ結晶質ニ變化シタリ。石灰

岩ハ上下二會ヨリナリ絹雲母片岩ニヨリテ隔テラルト。眞弓山ニ顯ル、ハ白色ナレドモ助川地方ニ産スルハ灰色ナリ。

一、最大採石寸法 長八尺巾三尺、厚一尺五寸 卅五切ナリ。

一、販路 京濱地方ヲ主トシ九州、關西、北海道等ニ販賣サル。

一、用途 裝飾用、建築用、配電板、浴室、羽目板、敷石等。

一、石工 第一丁場ニ職長以下十二人、第二丁場ハ二十六人ナルモ目下使用石工十人ニシテ會社支拂賃銀切一圓八十錢、根掘リ賃銀ハ場所ニヨリ一定セズ。

一、山出方法及運賃 土棧ニヨリ又ハ十間位ノ軌道ニヨリ更ニ馬車ニヨリテ太田町又ハ太薹驛ニ運出ス。ソノ運賃切七十錢乃至八十錢ナリ（但シ普通大ノモノ）

一、粗石價格（太田驛又ハ太薹驛渡シ） 三切迄ハ切當リ四圓ニシテ大材ニ至ルニ從ヒ切當リ價格ヲ増加シ廿五切ハ切當リ十圓二十錢。

又鼠竊、薄鼠ト稱シ、助川附近ノ大理石ハ助川驛渡價格白寒水石ヨリ稍々高シ。

二、產出量 全丁場ノ年產額五千切

一、東京トノ關係 白寒水石ハ古來有名ニシテ尙竊ノモノアリ。

東京方面ノ需要ハ主トシテ茨城大理石株式會社ヨリ供給サレ太田驛又ハ太薹驛ヨリ積出ス。東京ニ於ケル主ナル取引店ハ

淺草區北松山町 石田 大理石店

府下大崎町居木橋 常陸 銘石商會

等ナリ。

京阪地方ニ對シテハ岐阜縣不破郡赤坂町矢橋大理石店等ト連絡ヲトリ赤坂産、更紋石ト交換シテ販賣スト。



一、備考 附帶事業トシテ屑石ヲ以テ破砕機(常用馬力十馬カノモーター)ニテ人造石原料製造ヲ工場ニテ行フ。

### 福島縣石城郡赤井村大字西小川字田頭(櫻ミカゲ又ハ赤井ミカゲ)

一、調査年月日 大正十三年九月廿二日

一、調査經營者 福島縣石城郡四ツ倉町

白岩石材採掘販賣部 佐藤幸三郎

一、工場ノ位置及數 盤越東線赤井驛ヨリ縣道ニ沿ヒ約一里ノ所ヨリ更ニ約七町坂道ヲ登リタル所ニシテ養蠶神社ノ懸崖及

田頭山ノ谿道ノ右側ニアリ。

蠶神工場及田頭山工場全部合計四ヶ所。

一、石質及工場内部 桃色黒雲母花崗岩ト稱シ、俗ニ紅「ミカゲ」赤井「ミカゲ」等ト稱ス。濃紅色長石多ク色調住吉産本

御影ニモ比スベク、本御影ヨリ美觀ヲ呈ス。質極メテ堅硬ニシテ稻田「ミカゲ」ヨリ造ニ硬ク、施工困難ナリ。是レ主ト

シテ石英ニ富ム爲メナリ。坑區内部ハ地表ニ近キモノハ風化ヲ受ケ、ソノ色調赤色ニ汚レテ鮮明ナラズ。田頭山ハ蠶神丁

場ニ比シテ節理ノ間隔モ狭ク多數ヲ採掘シテ色調揃ハザルノ缺點アリ。蠶神工場ハ採掘開始後數年ナルモ節理ノ間隔大ニ

シテ風化モ甚ダシカラズ。良材ヲ得。

一、採石最大寸法 角材七十切、長材長サ八尺。

一、採石種類 角材ヲ主トシ目下二尺五寸角厚サ一尺位ノモノヲ採掘ス。屑石利用方法トシテ間知ヲトルモ數極メテ

少シ。

一、販路 盤越東線ノ鐵道工事ニ多ク使用セラレ尙需要地トシテ主ナルハ平町、湯本町、四ツ倉町等ニシテ東京

ニテ震災前ノ使用例ヲアグレバ東京第一銀行、上野小松宮銅像臺石、東宮御所ノ一部等ナリ。

一、用途 彫刻ニ適スルヲ以テ墓標及裝飾材トシテ適當ナリ。但シ傷多キ缺點アリ。商品トシテハ色調特ニサヘ

タルモノヲ一等品トシ、線狀ノ汚點アルモノヲ二等品トス。兵庫縣住吉村産本御影ニ比スベキ色調ナリ。

一、石工 目下六人、一日平均約一人約三切ノ採石能力ニシテ切八十錢ノ採掘賃ナリ。根掘作業ヲ要セズ。

一、山出方法 直チニ馬車ヲ以テ赤井驛又ハ小川郷驛ニ搬出ス。但シ工場ヨリ縣道ニ至ル七町ハ坂道ニシテ且ツ谿道

ナルヲ以テ搬出ニ稍々困難ナリ。馬車一臺ノ搬出能力七切、積出驛迄一日一往復、運賃切四十錢。

一、粗石價格 赤井驛レール渡 切上石(一等品) 二圓七十錢 乃至三圓

(二等品) 二圓二三十錢

一、産出量 事業盛ナル時モ一日十噸ヲ輸出シタルコトナシ。目下單ニ事業繼續ノ程度ニテ採石ス。大正十一年赤

井驛統計ニヨレバ七百三十六噸、小川郷驛ニテハ二千七百八十四噸ノ發送量アリ。

一、東京トノ關係 ソノ石質前記ノ如ク且ツ價格及産地等ノ點ヨリ見ル時ハ裝飾用ミカゲ石トシテ京濱地方ニテ使用スベ

キ種類ノモノトス。然レドモ目下ノ所、地表ニ近キ採掘ト大石尙得難キ缺點ヲ有スルモノナリ。鍋島石材興業株式會社ニ

テ取引ヲナス。

一、他ノ經營者 赤井村大字赤井字笹目田八

平町 田町

川 瀬 幸 治  
岡 本 良 平

### 福島縣田村郡大越村大字上越(石灰岩)

一、調査年月日 大正十三年九月二十二日



- 一、調査經營者 田村郡大越村 大瀧根石株式會社
- 一、丁場ノ位置及採掘狀態大越村宇大平及欠入各々一丁場  
石目不規則且ツ間隔小ニシテ大材ヲ得ベカラズ。表面ニ赤色ノ表土ヲ被リ石塊ノ高サ約二十尺ナリ。火藥ヲ以テ大塊ニ爆破シ後小割リス。
- 一、最大採石寸法 長四尺乃至三尺  
現在ノ採石種類ハ割栗大ノモノ、ミナリ。ソノ用途工業用原料ニ限ラル、ヲ以テナリ。
- 一、販路 神奈川縣、東京府及東北地方。
- 一、用途 本採石地ノ大理石ハソノ結晶形粗大ナルタメ建築及裝飾用トシテハ不向キナルヲ以テ從來専ラ砂糖製造用原料硝子原料及「セメント」原料等ノ工業原料トシテ採掘セラル。
- 一、山出方法及運賃 大平及欠入ノ丁場ハ小丘ノ兩側ニ開カル。採石ハ割栗大ニ小割セルモノヲ直チニとろニテ大越驛ニ搬出ス。軌道ノ長サ二哩、とろ數六臺、一日六往復ヲナス。一回ノ載積量一噸半。運賃及採石契約ハ軌道ノ保線修繕ヲ會社ノ負擔トシ驛前受取り一噸ニツキ一圓五十錢ナリト。而シテ之レヲ神奈川縣鶴見驛渡シトスレバ一噸六圓乃至七圓ニシテソノ半額ハ鐵道運賃ナリト。
- 一、產出數量 月產一千噸ニシテ一千二百噸ヲ最大採掘能力トス。
- 一、他ノ經營者 三春町 三春礦業株式會社  
東京市 磐城セメント株式會社
- 一、備老 三春礦業株式會社ニテハ所謂霞大理石ヲ產出シソノ最大採石寸法ハ角材八切、長材十尺以上ノモノアリト稱ス。販路及用途ハ寒水石ト同一ニシテ茨城大理石株式會社ト連絡ヲトリテ經營ス。然レドモ質粗粒ニ過ギ美觀ヲ損

フモノアリト。磐城セメント株式會社經營丁場ハ殆ンド「セメント」原料トシテ稼行ス。

### 福島縣西白河郡西郷村字柏野及字熊倉(米村石、白河石)

- 一、調査年月日 大正十三年九月二十三日
- 一、調査經營者 福島縣西白河郡白河町 東北石材會社 (代表人 石崎多一郎)
- 一、丁場ノ位置及數 白河町ヨリ東北約一里ノ字米村、字柏野並字熊倉一帶ニ亘リ四百七十米内外ノ連丘ノ到ル所ヨリ採掘シ會社所有丁場ハ七ヶ所也、採掘地ハ會社所有及年期借リノ二種トス通例米村石ト稱スルハ現今ハ殆ンド米村ヨリ採掘セザレドモ右丁場ヨリ運出スル石材ハ全部該村ヲ通過スルヲ以テ尙ソノ稱呼ヲ存ストイフ。
- 一、附近ノ地理 白河石ノ外信夫石、根田石ノ產地、白河町ノ近クニ在リテ何レモ安山岩ヲ產出ス。根田ハ白河町ヨリ一里、信夫ハ二里半位ナリ。然シテ目下根田石ノ採掘業稍々盛ナルモ信夫石ハソノ量極メテ少量ナリ。白河石ハ運搬ノ便ヨク軌道及ビ馬車ノ便アリ。
- 一、石質 白河產出丁場内部ハ飾理概ネ垂直ニシテソノ節理ノ間隔又餘リ大ナラス、從ツテ角材ノ大ナルモノハ望ムヲ得ズ。又白河石ニハ白、青、黒ノ三種ニ區別シテ採掘ス。丁場ハ上部ニ約三間ノ表土及捨石ノ部分アリソノ下層三間ハ稍々風化ノ進ミタル所ニシテ之ヨリ採ルモノヲ白ト稱ス。更ニソノ下層三間ハ青ノ部分ニ相當シ最下部ハ風化ノ最モ及バサル所ニシテ黒ノ部分ナリ。然シテ青ト稱スルモ青色ニ非ズシテ淡灰色ヲ呈ジ、黒モ濕氣ヲ含ム時ニ稍々黒色ニ見ユルモ乾燥スルニイタレバ灰色ヲ帶ブ。黒ハ石質最モ硬ク施工シ難ク、青ハ白ト黒トノ中間ニ位ス。地質學上子持質凝灰岩安山岩ニシテ石質中所々ニ他ノ岩片ヲ含有ス。茨城縣ノ花崗岩等ニ比スレバ施工モ容易ニテ趣キヲ異ニス。山水ヲ失ヘバ稍々硬化ス。



一、最大採石寸法 長材十八尺（一尺五寸角ノ斷面ヲ有ス）

角材五十切

一、採石種類 長三尺、而夫々五寸六寸、五寸八寸、五寸七寸、六寸八寸、六寸七寸、尺七及尺八等ノ角材ヲ主トス。間知モ少量採掘ス。

一、販

路

採掘石材ノ六割ハ東京地方ニ向ヒ他ノ四割ハ栃木縣、群馬縣、千葉縣、埼玉縣、神奈川縣、茨城縣等ニ輸出ス然シテ東京ノ需要ハ主トシテ白ニシテソノ施工容易ナルヲ以テ長所トス。

一、用

途

黒ハソノ質稍々硬キヲ以テ地方ノ墓石トナル。ソノ外敷石土臺石、下水用材トシテ建築及土木用ニ供セラレ、間知石ハ鐵道線路用ナリ。

一、石工數及賃銀

石工總數百五六十人、各丁場ニハ相當ノ責任者ヲ置キ切ニツキ四錢ヲ支拂フ。根掘リニ二種アリテ大普請ト稱シテ新ニ採掘スルカ又ハ相當ノ計畫ノ下ニ更ニ採掘ヲ進ムル時ニ之レヲ請負制度ニテ行フモノト小普請トテ定備人夫ニヨリ根掘ヲ行フモノトアリ。コノ定備人夫ノ賃金一日一圓七十錢。

一、山出方法及運賃

丁場ヨリ二十尺位ノ急坂ヲ下シ直チニ軌道ニヨリテ白河驛ニ運出ス。軌道ハ白河石材運輸會社ノ經營ニ係リ長サ約三哩、とろ數十三臺、一臺二噸ヲ載積スベク一日四往復迄ヲ限度トス。軌道運賃、下シ賃ヲ含ミ、切十二錢也。

一、粗石價格

角材	白河驛渡	切	八十五錢
	東京各驛渡	〃	一圓十錢
	白河驛渡	〃	一圓十錢
	間地	〃	一圓十錢
	白河驛渡	〃	一圓十錢
	東京レール渡	〃	五十二三錢
		〃	面一尺四方、控へ一尺五寸

一、產出量 月二千噸

一、東京トノ關係 白河石ノ東京市場ニ相當ノ地位ヲ占ムルハ安山岩ニシテ施工ノ容易、運搬ノ便ニヨルナリ。白河驛東京秋葉原驛間百十六哩。

東北石材會社ト取引關係ヲ有スルモノヲ舉グレバ

隅田川驛前	半田	忠三
大塚驛前	木村	仙吉
四谷區花園町七二	北川	郡次
京橋區木挽町	田口	清吉等

一、他ノ經營者 田中増次郎 丁場四ヶ所ヲ有シ月千噸ヲ採掘ス。

小針善藏 二丁場ヲ有シ月六百噸ヲ採掘ス。

一、備

考

前記白河石材運輸會社ハ各石材當業者ノ採石運搬ニ從事スルモノナリ。尙白河町ノ東方約一里大沼町字久田野及本沼ニモ白河石ト略同様ナル安山岩ヲ採掘ス。質稍々良好ニシテ通常モ石ト稱シ東北本線久田野驛ヨリ發送ス。東北石材會社ノ石工數五十人、產出量月額七千切ニ及ブ。尙運出ニハ久田野驛ヨリ一町、本沼ハ五六町ナレバ馬車ヲ用ヒ至便ナルモノ、如シ。車馬運賃切十六錢東京レール渡普通ノモノ一圓五十錢ナリ。白河町及須賀川町ヲ中心トシテ該地方ハ一般ニ安山岩塊ヨリ成ルモノナレバ埋藏量モ無盡藏ト稱スベク施工容易ナル安山岩ノ供給地トシテ復興事業ニモ相當ノ意味ヲ有スベシ。

### 福島縣石川郡小鹽江村大字江持（江持石）

一、調査年月日 大正十三年九月廿三日



- 一、調査經營者 須賀川驛前 須賀川石材株式會社（代表人 田 畑 定）
- 一、丁場ノ位置及數 石川郡小鹽江村大字江持ニ四丁場、須賀川驛ヨリ二十町。
- 一、丁場附近ノ地理 須賀川町ノ北方ニ位シ阿武隈川ノ右岸ニ沿フテ丁場ヲ開ク、須賀川驛ヨリ約十五分ニシテ丁場ニ至ルモ架橋ナク從ツテ石材ノ運搬ニハ宇廻シ川岸ニ沿ウテ數町廻リ渡橋シ須賀川町ヲ經由シテ驛ニ達ス。距離約廿町ニシテ搬出至便ナリ。
- 一、石 質 江持石ハ一般ニ須賀川驛ヨリ搬出スルヲ以テ須賀川町產出ノ須賀川石ト同名ヲ附スル事アリ。須賀川石トハ同質ニシテ且ツ白河石トモ相似テ安山岩ナルモ、白河石ヨリ石質良ク、一般ニ淡灰色又ハ淡褐色ニシテ他ノ岩石ノ破片ヲ見ル事ナク、白河石ヨリ美觀ヲ有ス。質又硬ク施工稍々難ナリト。須賀川石ハ江持石ニ比シ質稍々劣リ赤筋ヲ有ス。
- 一、坑 區 内 部 表土約十尺ニシテソノ下ハ風化ヲ受ケ、白味ヲ有スル事白河石ニ似タリ。更ニ下層ハ薄桃色ヲ帯ビタル淡褐色ニシテ目下採掘スルハソノ下部ナリ。即坑底ハ採掘スベキ石ヲ以テ成リ。節理ノ間隔約一間ナリ。
- 一、最大採石寸法 長材十二尺、角材二十切
- 一、採 石 種 類 主トシテ建築用材ニシテ一切以上十六切迄、及三尺長サ五六、七八等ナリ。尙佛石ヲ出ス。
- 一、販 路 東京方面ニハ會社ヲ全產出量ノ約四割ヲ出シ他ハ千葉縣（佛石）神奈川縣、茨城縣ナリ。
- 一、用 途 土臺石、帶石、窓臺石、及佛石。
- 一、石工及人夫 石工ノ賃金 切當リ三十錢、月平均一人二百切ヲ採掘ス。人夫ハ切ニツキ二十錢ナリ。
- 一、山出シ方法及運賃 採石ハ軌道ニヨリテ縣道ヲ出シ、馬車ニヨリテ驛ニ搬出ス。一臺十二三切ヲ載積シ切十二三錢ヲ要ス。一日四往復ナリ。

一、產 出 量 月ニ二百五六十噸ナリ。現在ノ設備ニテ四百噸迄採掘能力アリ。

一、粗 石 價 格 上物及中物アリ須賀川驛渡シ

上物切ニツキ一圓十錢 中物一圓ナリ。

東京レール渡切三十五錢ヲ増ス。

一、東京トノ關係 京橋區木挽町五ノ三

池田工業株式會社（代理店）

澁谷驛前

天 野 石 材 店

淺草區上平右衛門町一五

竹 内 勘 兵 衛

等主ナル取引先ナリ。

一、他ノ經營者 須賀川驛前

岩 代 石 材 南 店

東 北 石 材 株 式 會 社（白河町ノ出張所）

一、備 考 須賀川石材株式會社經營丁場トシテハ右ノ外須賀川町大字須賀川ニ二丁場、石川郡泉村瀧峠ニ一丁場

アリ。前者ハ須賀川驛ヨリ三十町須賀川町ノ南端ニ位シ陸羽街道及東北本線ヲハサミテ丁場開カル。白河驛ヨリ須賀川ニ

至ル車中ニテ發見スルハコノ丁場ナリ。運搬ハ國道ニヨルヲ以テ容易ニシテ便利ナリ。切ニツキ須賀川驛マデ十六錢ヲ要

ス。石質江持石ヨリ稍々劣ルト稱ス。

泉村瀧峠丁場ハ須賀川驛ヨリ約一里七町、須賀川町ノ南南東ニ位シ阿武隈川ノ右岸ニテ縣道トノ間ニ丁場アリ。採石後直

チニ縣道ニ達スベク至便ナリ。一日二三回馬車往復シ切十六錢ヲ要ス。

新瀧縣中蒲原郡川東村字馬下（普通ミカゲ）



一、調査年月日 大正十三年九月廿四日

一、調査經營者 川東村字馬下 中村石材店

一、概況 丁場ハ川東村字建石ニ二ヶ所ヲ開キ夫々長サ十町及六町ノ軌道ニヨリテ運出ス。石工ノ賃銀一日三圓又ハ切ニツキ二十五錢(火藥ハ經營者負擔トス)ナリト。運搬人夫一日一圓二十錢ニシテ軌道一回ノ積載能力七切ナリ。販路ハ主トシテ新潟市内務省土木出張所ニシテ其他附近町村ニ限ラル。新潟迄ハ一艘九十切積ミ帆船ヲ以テ阿賀ノ水流ニヨル盤越西線馬下驛ヨリ出ス事ナシ。運賃切三十錢ニシテ一ヶ月約百六十切ニ達ス。採石ハ二十五切、十切、四切、二切等ノ角材ヲ主トス。

阿賀川ヲ隔テ、對岸ノ北蒲原郡安田村字草水附近ノ産出石材ハ紅色長石ヲ含ミ外觀ノ美ナル事本邦ニ類ヲ見ズ。裝飾用石材トシテ優秀ナルモノナリト雖モ、現在産出丁場ハ風化ノ度激シク良材ヲ多數ニ得ベカラズ。馬下産花崗岩ハ石英及黒雲母ニヨリテ稍々青味ヲ帶ビ青石ノ名ヲ有ス。石質強硬ナル事赤井「ミカゲ」以上ナリ。風化甚シカラザルモ需要地ノ關係及石質ニヨリテ採掘事業微々タルモノナリ。  
草水産紅色花崗岩モ阿賀川架橋燒失後馬下方面ニ運出ノ便惡シク專ラ船ニヨリテ新潟方面ニ向フノミナリト。馬下ニ於ケル同業者トシテ相馬福治、國分寺忠次等アリ。

### 群馬縣碓氷郡中秋間村字大平(秋間石、輝石安山岩)

一、調査年月日 大正十三年九月廿六日

一、調査經營者 信越線安中驛前 關東石材株式會社(中山親宗)

一、丁場ノ位置及數 安中驛ヨリ約二里半西北中秋間村大平ニ一丁場ヲ開ク。本丁場ヨリ間道ヲ經テ北方ニ行ク事十數町ニ

シテ里見村神山ニ出ス。即チ里見石ノ產地ナリ。

一、坑區内部 高サ海拔五百二十米突ノ殆ンド山頂ニアリテソノ表土ノ厚サ十尺ソノ下層ハ赤味ヲ帶ビテ風化ヲ受ケタル所ナリ。更ニソノ下層ハ青味ヲ帶ビテ未ダ風化ノ及バサル所ナリ。下層ハ、白河石須賀川石等ノ如ク施工稍々難。

採掘面積約三反歩。

一、最大採石寸法及採石種類 角物六切。長物十尺ヲ最大トス。

角材ノ断面、五寸六寸、五寸八寸、五寸七寸、七寸八寸、長サ各三尺ノモノヲ最モ多ク採掘シ、青材多ク赤材少シ。

一、販路 高崎市、埼玉縣、新潟縣、長岡市等地方使用多量。

一、用途 建築用、佛石、土木用(以前ニ二重橋附近ノ石垣ニ間地石ヲ出シタルコトアリト)

一、石工 石工數八名、月一人ノ採掘能力百切餘ナリト。

一、山出方法及運賃 丁場ヨリ土橋ヲ以テ五町ノ急坂ヲ下シ馬車續ミトシテ安中驛マデ搬出ス。約二里半、運搬ニ大ナル不便ヲ感ズルコトナシ。一日一往復、一回十二三切ヲ載積シ、目下馬車三臺ヲ使用ス。橋ノ賃銀切ニツキ五錢。馬車ノ運賃ハ道路ノ良否ニヨリテ廿四錢乃至三十錢ナリ。

一、粗石價格 安中驛渡 角材 切 壹圓

長物(八尺以上) 壹圓二十錢ヨリ二圓

間知 一ヶ 二十二三錢位

東京レール渡 二十錢増シ

一、產出量 月產二千五百切前後

一、東京トノ關係 關東石材株式會社ノ重役ハ東京市深川區、高橋儀太ニシテ尙外ニ東京附近ニテ取引關係ノアルモノヲ



一、他ノ經營者テシ。

群馬縣碓氷郡里見村字間野（輝石安山岩、通稱里見石）

一、調査年月日 大正十三年九月廿六日

一、調査經營者 碓氷郡里見村神山、上州石材株式會社（代表者 堀口徳太郎）

一、丁場ノ位置及敷 里見村間野烏川ノ上流右岸ニアリテ烏川ヲ挾ミテ湯殿山ト相對ス、一丁場、坑區四町步

一、坑區内部及石質 秋間村ト里見村ノ境界ノ連峰ノ北側ヲ採掘シ秋間石ト反對ノ側ナリ、石質全ク秋間石ト同様ナルモ比較的表面ニ遠キ部分ヲ採掘スルヲ以テ石質亦善良ナリ色調亦揃ヒ赤石殆ンドナク、青石ヲ主トス、間隔約一間ノ板狀節理ヲ有ス、施工秋間石ニ比シテ困難ナルベシ。

一、最大採石寸法 角切竹切、長石十二尺

一、採石種類 角材ハ主ニ二尺角ニシテ墓石、礎石トシテハ五寸六寸、五寸一尺、五寸八寸長サ各々三尺以上ノモノヲ採掘ス。

一、販路高崎市前橋市熊谷地方最モ多シ。

一、用途 墓石、敷石、橋梁用材、基礎工用材

一、石工及人夫數 總數廿七人

一、山出方法及運賃 丁場ハ烏川ノ岸ヨリ三四十尺ノ高所ニテ根據ノ時ノ捨石、砂利ノ斜面ヲ利用シテ滑落セシメ直チニ二

哩半ノ輕便鐵道ニヨリテ之ヲ神山村迄運搬ス目下とろ二臺、一日二往復ナリ一往復ニ三十切ヲ運ビ得ベク、切六錢ヲ處ス神山村ヨリハ三里馬車ニヨリテ高崎市ニ搬出ス道路極メテヨシ尙向後上州電氣鐵道ノ延長敷設ノ計畫アリト。

現今地方輸出ハ高崎驛ヨリ行ヒ信越線兩毛線ニヨル。

一、粗石價格	長三尺	五六	切	七十錢
	長三尺面五十		〃	八十錢
	尺角		〃	八十五錢

但シ會社渡シ、東京「レール」渡切約壹圓二十錢ヲ標準價格トス。

一、產出量 目下一ケ三十切ナルモ六千切迄ノ採掘能力アリ。

一、東京トノ關係 上州石材株式會社ヨリ直チニ需要地ニ供給ス。上州石材株式會社ハ里見石經營者ノ組合ニシテ他ニ競争スベキモノナシ。

一、備考 烏川ノ轉石ヨリ採リ色調黒ク質極メテ硬ク施工亦極メテ困難ニシテ琢磨效果著シキ切石ヲ產出ス、尺角長二尺ヲ最モ多ク出スノ用途ハ墓石ヲ主トス。

群馬縣多野郡多胡村（多胡石）

一、調査年月日 大正十三年九月廿七日

一、調査經營者 鍋島石材興業株式會社（九段坂下組橋際）

一、丁場ノ位置及敷 多胡村旭嶽舊多胡城趾、俗稱多胡山（高海拔四百五十米突）ノ東方山麓也、丁場所有者ハ芝區白金三光町七八大住文次郎ナリ。



丁場ハ石質ニヨリ甲乙丙ノ三ヶ所ニシテ目下甲採掘場ヲ稼行シ一號ヨリ五號迄ノ五丁場アリ。

- 一、地 理 丁場ハ坂路ヲ挟ミノ南ハ甲丁場ニシテ坂路ノ北ニ乙丙ノ丁場アリ丁場ヨリ約一哩(軌道ヲ設ク)ニシテ字東谷ノ縣道ニ至ル東谷ヨリ吉井驛マデ三里弱、道便利ナリ吉井驛ハ上州電氣鐵道ノ驛ニシテ高崎驛ヨリ七哩七十五鎖ナリ東京秋落原吉井驛間約七十三哩也。

- 一、石 質 多胡石ハ所謂秩父古生層ノ最北部ニ生成セル砂岩ニシテ淡黃色ニシテ紅色ヲ帶ビ粗粒ノ岩石ナリ、粟粒大ノ砂ニ粘板岩ノ破片及長石ヲ含ミ、乙及丙ノ二種ハ酸化鐵ノ斑點ヲ有シ大理石ニ似タル模様ヲナス建築用材料ニ裝飾用材トシテ興味アルベシ。

- 一、最大採石寸法 角材二十切、長材二十尺

- 一、採石種類 角材ヲ產出スルモ厚サ一寸乃至八分位ノ煉瓦代用タル板石ヲ主トス板石ノ長サ二尺五寸乃至三尺ヲ主トス。

- 一、販路及用途 東京及横濱方面ヲ主トス使用例トシテハ横濱生糸會社日本橋區米澤町内國通運株式會社等ニシテ目下横濱生糸會社及美術學校建築用材採掘中ナリ。

本石ハ張付石材階段石及彫刻用トシテ雅趣ニトムモノナリ。

- 一、石 工 (根掘人夫ヲ含ム) 二十人 一日 一圓五十錢  
運搬人夫 十五人 一日 一圓二十錢
- 一、山出方法及運賃 目下採掘スルハ甲丁場ノミシテ、火藥ニテ大割ヲナシ後切掘リヲナス。  
採石ハ軌道(インクライン式)一哩ニヨリテ急坂ヲ下リ縣道ヲ出シ馬車積トシテ吉井驛ニ至ル、とろ四臺ニシテ一臺ノ積量四五十切ナリ山出及軌道ニヨル運搬費切三十五錢馬車賃切十五錢ナリ。

- 一、產 出 量 採掘開始後三千切ニ過ギズ。

一、粗石價格	東京レール渡	切ニツキ	甲	一圓五十錢
			乙	一圓八十錢
			丙	二圓三十錢

### 群馬縣新田郡太田町金山(石英斑岩)

- 一、調査年月日 大正十三年九月廿七日
- 一、調査經營者 東北線太田驛前 太田石材商會 成田 定三郎
- 一、丁場ノ位置及數 太田町ノ北方、隣郡山田郡韮川村東長岡字熊野ニアリテ郡境ニ近キ所ニアリ一丁場
- 一、地 理 丁場ハ太田驛ヨリ北方約十四町ノ所金山新田神社ノ南ニ存在シ太田驛藪原驛間ノ東武線ニ平行シテ連五スル最高二百七十米突ノ丘陵ノ南端ナリコノ連丘ニハ到ル所ニ丁場開カレ石材ノ運出ハ何レモ軌道ヲ有シ便ナリ連丘ノ北部藪塚附近ノ産石ハ凝灰岩ナリ。
- 一、坑 區 内 部 本岩石ハ石英斑岩ニシテ極メテ硬シ、岩石中所々ニ青色及白色ノ部分アリテ青色ニ富ムヲ俗ニ青色「ミカゲ」ト稱シ最モ硬シ坑區節理極メテ不規則ニシテ勿論大材ヲ得ズノ色調ヨリスルモ建築用材トシテ不適當ナリ、土木用材ニ適スベク目下割栗及間和ヲ採ルモ割栗ヲ主トス丁場ニハ下水用碎石ヲ多量ニ山積セリ。
- 一、販 路 東武沿線總武沿線等ニ土木用材トシテ供給シ鐵道輸送ヲナス。
- 一、用 途 建築基礎、溝梁、河川ノ護岸、其他スベテ石積工事、碎石ハ下水工用材料ニテ一寸二分及四分ノ二種類ナリ。



- 一、石 工 五人常時ハ農業ニ從事ス 一日 一圓乃至一圓二十錢
- 一、山出方法及運賃 丁場ヨリ急坂一町ハ運搬人及石工ニヨリテ下シ軌道ニ達ス軌道ハ平坦路十町ニシテ停車場ニ達ス、と  
ろ二臺一日七八回往復シ一回ノ運賃十五錢
- 一、粗石 價格 東京淺草驛「レール」渡 一噸 四圓三十錢
- 一、産 出 量 現在月産約一千噸(大正十二年ノ總産出量八千五百噸)
- 一、東京トノ關係 京橋區本港町 秋 山 喜 一  
本所區押上町 藪塚石材商會  
本所區新小梅町 水 谷 庄 次 郎
- 等ソノ取引店ナリ。
- 一、他ノ經營者ナシ。

群馬縣新田郡藪塚村(藪塚石)

- 一、調査年月日 大正十三年九月廿七日
- 一、調査經營者 藪塚驛前 半田石材店 加藤久米吉  
日本石材工業株式會社
- 一、丁場ノ位置及數 丁場ハ藪塚驛ノ東方小丘ノ山腹各所ニ開カレ驛ヨリ十四五町乃至廿町ナリ半田石材店及加藤久米吉ハ  
自己所有ノ丁場各々一二ヶ所ヲ有シ他ハステベ年期借リナリ又兩者經營ノ丁場ハ藪塚採掘地ノ北部ニ集リ日本石材工業株

式會社經營丁場ハ主ニ南ニ位シ軌道ヲ有ス。

半田石材店 經營丁場數

加藤久米吉

二ヶ所

日本石材工業株式會社

五ヶ所(青丁場ト稱ス)

- 一、石 質 丁場ノ表土ハ特ニ褐色ヲ帶ビ、北部丁場ハ一船ニ白石ヲ産シ、青丁場ハ青石ヲ産出ス、坑内ハ大谷石  
ノ如ク鶴嘴ヲ以テ階段掘リヲ行フ石質ハ凝灰岩ニ屬シ大谷石ノ如ク「ミソ」ナク石質中ニ硬キ黑色礦物ノ破片存在シ施工  
大谷石ノ如ク容易ナラズ房州元名石ノ如ク水ニ弱キ缺點ナシ、節理間隔大ナリ。  
尙白石ハ暫ク之レヲ放置スレバ水分ヲ失ヒテ淡灰色トナルモ稍々青味ヲ増シ青石ハ一寸大ノ斑點ヲ多ク有ス。
- 一、最大採石寸法 角材三切、長物三尺(但シ定尺ノモノ、ミヲ採石ス)
- 一、販 路 東京方面ノ需要比較的少ク主トシテ館林附近東武線羽生方面へ販賣サル。
- 一、用 途 建築用材ニシテ土臺石ニ用ヒラル
- 一、石 工 數 三者使用石工全体ニテ約四十人、一人一日ノ採掘數約、九切採掘費平均切二十錢
- 一、山出方法及運賃 採石ハ大谷石ノ如ク長サ三尺、面五寸六寸、及七寸八寸ヲ主トシ、丁場ヨリ卅間ハ人背ニテ小出ヲ行  
ヒ牛車又ハ軌道ニテ驛へ搬出ス。
- 小出シ人夫 一日 一圓五十錢
- 牛車ハ一臺二十四切ヲ載積シ一日六往復ヲナス。
- 軌道(十五町)ノ里賃切ニツヤ一錢二厘、一回五寸六寸モノ二十五本即約廿三切ヲ載積シ一日三往復ス、とろ數七臺目下  
一臺ノミヲ使用ス。



- 一、產 出 量 月平均合計千噸
- 一、東京トノ關係 東京方面ノ取引店ヲアグレバ
  - (イ) 半 田 石 材 店——本所區向島押上町 藪塚石材商會
  - 隅田川驛前 隅田川石材商會
  - 府下板橋町平尾二三四 三橋石材商會
  - 引船驛前本社
- (ロ) 日本石材工業株式會社——

栃木縣下都賀郡岩船村(岩船石、火避石)

- 一、調査年月日 大正十三年九月二十八日
- 一、調査經營者 岩船驛前 川島定四郎
- 一、工場ノ位置及數 岩船驛ヨリ最近二三町ヨリ最遠一哩餘、靜、岩船山ヨリ探掘ス山ハ線路ニ平行シ一號ヨリ十一號迄ノ中四號工場休止シテ合計十工場作業中ナリ。
- 一、鑛物成分 角礫岩ノ種類ニシテ安山岩、砂岩等ノ石片ヲ含ミ、結合劑トシテハ凝灰質砂ナリ探掘ハ火藥ニヨリ大塊ヲ取り更ニ之レヲ小割ス。節理不規則外觀美ナラズ。
- 一、用 途 建築材トシテハ用途極メテ特殊ノ場合ニシテ特ニ耐火度高キ故ヲ以テ倉庫ニ用ヒラル、事アリ、一般ニ割栗、間知、切石、敷石トナル。
- 一、最大採石寸法 三尺角 二十切 長材ハ十二尺
- 目下ノ採石種類ハ割栗及角材ナリ。

一、販 路 埼玉縣、神奈川縣、千葉縣、東京府

- 一、石 工 ところ人夫及土工數 四十人乃至五十人
- ところ人夫賃 一回ノ往復三百二十貫(一噸二分)ヲ定貫ト程シ之ニ二十五錢乃至三十錢ヲ支拂フ、馬車ハ百貫ニツキ十二錢ノ定メナリ。
- 各工場ニハ小頭ヲオキ石工ノ監督並ニ賃銀ノ仕拂ヒニ關係セシム。
- 小頭及石工ハ一日平均二圓五十錢ナリ。
- 一、山出方法及運賃 各工場ヨリ兩毛線岩船驛ヘノ遠近ニヨリ經營者所有ノところ又ハ馬車ニヨリ運搬ス軌道ノ長サ最長一哩ところ甘臺内目下十臺使用、一臺十回往復一臺ノ載積量一噸二分即三百二十貫(定貫)ナリ馬車ノ載積量一回三百貫ヲ普通トシ一日十五回乃至十六回ノ往復ヲナシ卅臺アリ。
- 一、粗石價格 割栗(大) 一噸 一圓六十錢 (岩船驛渡)
- 〃(小) 〃 一圓四十錢
- 東京迄ノ運賃一噸ニツキ二圓ヲ要ス。
- 一、產 出 量 一ヶ月約六千噸ヲ產出シ内三千噸ハ東京府下、千五百噸ハ千葉縣、ソノ餘ハ埼玉縣神奈川縣等各地方ニ出ヅ。
- 又六千噸中三百噸ハ角材ニシテ五千七百噸ハ全部割栗ナリト。

- 一、東京トノ關係 川島定四郎ト取引關係アルモノハ
  - 四ッ谷區大番町 佐藤彌一
  - 巢鴨驛前 隈本一圓



隅田川驛前

半田 忠三

神田區永富町六

橋本組東京支店

一、他ノ經營者

關口 石材店 (岩船驛前)

塚原 石材店 (同 右)

栃木縣河内郡城山村大谷 (大谷石)

一、調査年月日 大正十三年九月二十八日、二十九日

二、調査經營者 宇都宮市 宇都宮石材軌道株式會社

渡邊 陳平

一、丁場ノ位置及數

丁場ハ宇都宮市ノ北方約二里城山村大谷、立岩及國本村寺澤一体ニ在リテ、ソノ數ハ北戸室、西戸室、屏風岩、庵ノ下、入山、辨天山、瓦作山等ヲ始メ百數十ヶ所アリ目下作業中ナルハ約五十ヶ所ナルベシ。

一、地

宇都宮市ヨリ約二里乃至三里、北北東ニ位シ丁場附近一体ハ全部凝灰岩ニヨリ形成サル、宇都宮市ト

ノ間ニ宇都宮石材軌道株式會社經營ノ人車軌道アリテ客車及石材運搬車ヲ通ズ、道路平坦ニシテ廣ク荷馬車ノ便亦ヨシ、最近鐵道省ノ認可ヲ得テ、荒針驛ヲ設ケ、本驛ハ専ラ石材ノ輸出ヲナス、人車軌道モ爲メニ石材搬出ヲナス事稀ナリト又人車軌道ハ宇都宮市ノ西端ナル軌道會社ヲ中心トシテ、日光線鶴田驛、大谷及國本村岩本並ビニ田口方面ノ三條アリテ又ノ中鶴田驛及大谷ニ至ルハ複線ナリ又鶴田驛ハ荒針驛ノ設置以前専ラ石材ノ輸出驛ナリキ。

一、石

質 坑區内部、俗ニ大谷石又ハ虫喰石ト稱シテ浮石質、綠色ノ部分及有機物質ヨリ成ル凝灰岩ニシテ、綠色ノ軟キ部分及有機物質ヨリ分解作用ヲオコス俗ニ「ミソ」ト程ス、是本石材ノ最大缺點ナリト又石質中ニ「チャート」ノ

小片存在ス、地層ハ數十尺ノ表土ヲ以テ蔽ハレソノ下ニ最下等品ナル「被リ」ノ層アリ更ニ其下ニ白目、最下部ニ青目ナル層アリ石材トシテハ白目最モ良好ナルモ量少ク青目ヲ普通トス「被リ」ハ「ミソ」大ニシテ多ク最モ下等ノ質ナリ之等ノ層ハ明瞭ニ識別スル事ヲ得ズ普通ソノ色並ビニ「ミソ」ノ大小及數ニヨリテ分ツ、石層ハ十度位ノ傾斜ヲナシ有機物及空隙ノ存在モソノ傾斜ニ平行ス丁場ノ初メハ試錐式ニ探掘シ内部ノ狀態善良ナルヲ知リテ更ニ之ヲ四方ニ擴張シ遂ニ一丁場ニシテ能ク二百人ノ石工ヲ入ル、ヲ得ルニ至ル。探掘ハ「切込ミ」ノ方法ニヨリ搬出ハ人背又ハ電力「ウインチ」ニヨル。

一、最大採石寸法 角材五十切 (重量ニテ二噸半) 長物十五尺

一、採石種類 目下切出シ採石ノ八割ハ長サ三尺物ニシテ、面五寸六寸及六寸七寸ナリソノ他六寸十寸、五寸十寸、七寸八寸、七寸十寸、尺八寸、尺角等ナリ。

一、販路 東京府下ヲ第一トシ產出量ノ七割ヲ占メ、群馬縣、茨城縣、神奈川縣、埼玉縣、福島縣等ノ地方ナリ遠キハ名古屋及京阪地方ニ及ブ何レモ荒針驛ヨリ積出スモノナリ。

一、用途 建築用トシテ石垣、倉庫、土臺石、爐石等ニシテ、帝國ホテルニ於ケル如ク建築物ノ軒先ニ凝灰岩ヲ使用セルハ建築構造上一新面目ヲ開クモノト稱セラレ、震災ニ於テアマネク其名知ラレタリ、又バラック土臺石トシテ使用セラレシハ顯著ナル事實ナリ。

一、石工及人夫 大ナル採掘場ハ一丁場ニシテヨク百人以上ヲ入レ人夫四十人ヲ使用ス。

石工ノ採掘量ハ尺角十本即チ三十切ニシテ一本ニツキ二十八錢石工監督者ヘノ支拂高ハ一本ニツキ三十三錢也

一、山出方法及運賃 小出シ賃ハ長サ三尺ニシテ尺角一本ニツキ十一錢五厘、一日一人ノ小出シ數二十五本ナリ、尺角長サ三尺モノヲ一駄ト稱シ断面ノ寸法異ナルモノハ皆尺角ニ換算スルモノトス、丁場ヨリ荒針驛迄ノ軌道賃ハ尺角一本ニツキ平均三錢五厘、一回ノ搬出數尺角十二本ニ相當ス然シテ軌道ハ全部宇都宮石材軌道株式會社ノ經營ニシテ丁場ト荒針驛ト



ノ距離各々異ルヲ以テ人夫ニ對スル支拂ハ月給制度ナリト。

會社ハ荒針、大谷、瓦作及申田(入山)ニ軌道事務所ヲオキ監督ヲナス。

一、產出量 一ヶ月六萬切(會社ノ分丈)大谷地方全体ニテハ月二萬噸ナリ。

一、東京トノ關係 會社ト取引關係ヲ有スルハ

加藤 信 一(惠比壽驛) 加藤 廉 吉(澁谷驛)

宇田川 民之助(目白驛) 萩 島 茂 留(新宿驛)

木 村 仙 吉(大塚驛) 隈 本 石 材 店(巢鴨驛)

隅田川石材合資會社(隅田川驛) 青 木 石 材 店(本所區相生町一番地)

一、他ノ經營者 經營者數二十名前後ナルモ年二萬噸ヲ產出スル程度ノモノヲアグレバ

調査經營者ノ外

阪 本 仲 鈴木 源 十 郎

仲 山 留 吉 下野大谷石材株式會社

等ナリ。

一、備 考 目下不況ノタメ丁場附近ニ約三十萬本ノ石ヲオクト云フ目下市場品ハ専ラ大谷附近ノ所謂「ミソ」多

キモノナルモ「ミソ」ハ常ニ大谷石ノ用途範圍ヲ汎害スル事大ナリ然シテ昨今立岩石又ハ寺澤石(國本石)ト稱シ宣傳ヲ

ナスモノアリ、之立岩及國本村ヨリ產出シ「ミソ」ナク外觀大谷石ニ比シ遙ニヨシ、然レドモ荒針驛ニ至ル便宜上大谷ノ

如ク盛大ナルヲ得ズ、近ク大谷石ノ後繼者タルモノナラン。

栃木縣上都賀郡大芦村大字深岩(深岩石鹿沼石)

一、調査年月日 大正十三年九月廿九日

一、調査經營者 鹿沼町久保町 深岩石材株式會社

一、丁場ノ位置及數 鹿沼町ノ西北一里ノ東大芦村大字深岩觀音山附近ニ多數ノ丁場開カレソノ中會社採掘丁場三ヶ所ナ

リ。

深岩石ハ大谷石ニ類似スル凝灰岩ニシテ石色淡黄色ノ浮石ヨリナル白色鮮明ナル石材ニシテ大谷石ノ如キ大ナル穴ナク、

有機質モナク硬サモ優ル、從ツテ施工ニモ稍々難ニシテ採掘ニハ切掘及矢割ノ兩者ヲ用ユ。

一、最大採石寸法 三尺角(二十七切)長材十二尺

目下ノ採石種類トシテ長サ三尺ノモノニシテ一尺角、一尺八寸、一尺七寸、尺六、五寸、三十、五八、五六等ナリ。

一、販 路 東京名古屋及其他栃木縣ノ各地ニ販賣サル。

一、用 途 建築用材、倉庫用材、橋臺、土止め用材

一、石工及人夫 石工五十人 一日一人ノ採石能力十五切 切當リ十三錢

人夫(土拂ヒ人夫)十人 運搬人夫(とろ)六人(切一錢)

一、山出方法及運賃 採掘後輻便軌道十四町ニヨリテ上日向村出張所附近ニ堆積シ需用ニ應ジ隨時荷馬車ヲ以テ運搬ス、道

路極メテヨシ。

軌道賃切ニツキ一錢目下一噸半ヲ積ミ四臺ヲ使用ス。

馬車ハ鹿沼驛マデ六切ニツキ三十八錢ノ割合ニシテ栃木町ヘハ六切ニツキ一圓十錢ヲ要ス。

一、都市ヘノ運搬方法 鹿沼驛ニ積出スカ又ハ栃木驛ヘ搬出ス、目下ノ所搬出ニ不便ナシ、價格ニ於テソノ石質大谷ニ優ル

點ヲ補ヒ得ザルハ一ツニ本石材ノ市場ニ出ザル原因ナリ、將來東武線ノ西鹿沼町迄延長ノ曉ニハ相當ノ隆盛ヲ見ルベシ。



- 一、粗石價格 長サ三尺モノ断面ノ大キサニヨリ鹿沼驛渡シ一本一圓六十六錢ヨリ八十四錢、東京市場ニ於テハ大谷石ト略々同價格マデ競争スト稱ス。
- 一、産出量 一日平均六百切然レドモ深岩石經營者全部ヲ合スレバ一日約二千二百五十切ニ上ルベシト。
- 一、東京トノ關係 大谷石トイフ大敵ノ近クニ存在スル事ナレバ東京ニ於テハ極メテ經營困難ニシテ震災後ノ營業成績微々タルモノナリ、從ツテ東京ニ於テ特別ノ取引關係アルモノナシ。
- 一、他ノ同業者 小川作一 金田德三郎 等外十五人

栃木縣鹽谷郡藤原村大字高德(高德石)

- 一、調査年月日 大正十三年九月廿九日
- 一、調査經營者 目下殆ンド休止ノ状態ナリ。
- 京橋區出雲町十二、日露實業株式會社内、高德石材組合(高田貞三郎)ノ經營ニカゝル。
- 一、丁場ノ位置及數 藤原村及東方船生村ノ境界ノ山脈南ニ盡ル西側ノ露出岩石ヨリ採掘ス丁場ハ大字高德ノ東方下ヶ原ヨリ北五町、籠岩ヨリ約十町ノ所ニ南北ニ並列ス丁場數廿ヶ所、採掘場ハ官有地ニシテ採掘契約面積五萬坪ニ達ス。
- 一、石質及坑區内部 山岳ノ高サ採掘地ヨリ百五十米ニシテ凝灰岩質石英粗面岩ニシテ灰白色ノ「チャート」及黑色ノ「スレート」ヲ含有スルヲ以テ石質硬ク鹿沿ヨリモ施工難ナリ、採掘當時青味ヲ帶ブルモ乾燥スルニ從ツテ白色ヲ増ス。本岩石ハ一大塊ヲナシテ山ヲ形成シ節理ノ間隔極メテ大ナリ採掘ニハ數千切ノ大塊ヲトリ之ヲ矢割ニテ小割シ目下丁場ニ於ケル推積切數二萬切ニ達ス。
- 一、販路及用途 市場品トシテ出デタルハ最近ノ事ニ屬シソノ東京ニ於ケル使用例ハ實業之日本社入口、日本青年會館

ナリ。

建築用材、土木用材、橋梁用材、門柱トシテ適當ナリ裝飾材トシテハ琢磨效果顯ハレズ

- 一、最大採石寸法 角材四十切、長材十二尺
- 一、採石種類 断面尺角、六寸七寸、八寸一尺、長サ各々三尺ヲ普通トス。
- 一、山出方法及運賃 丁場ノ切石ハ直チニ軌道ニテ下ヶ原驛ニ出シ、下ヶ原ヨリ高德ヲヘテ今市驛(省線)ニ出ル
- 丁場ヨリ下ヶ原ノ運賃 噸ニツキ 四十六錢
- 下ヶ原積下シ賃 〃 十五錢
- 下ヶ原今市間 〃 一圓
- 今市驛積下シ 〃 五十錢
- 今市東京間 〃 二圓二十五錢
- 合計 四圓九十六錢ヲ要ス。
- 一、粗石價格 (東京レール渡長サ三尺モノ)
- 六寸七寸 一本ニツキ 二圓十五錢
- 八寸一尺 〃 三圓五十錢
- 尺 角 〃 四圓五錢
- ニシテ切ニツキ一圓三十錢乃至一圓四十錢ニ相當ス。
- 高德石材組合專ラ丁場及經營及販賣ヲナス。



群馬縣勢多郡東村（渡良瀬ミカゲ）

- 一、調査年月日 大正十三年九月卅日
- 一、調査經營者 群馬縣勢多郡東村澤入 桑原留五郎
- 一、丁場及數
- |           |      |      |
|-----------|------|------|
| 東村字草木白濱山  | 五十ヶ所 | 八十町歩 |
| 東村大字澤入字後山 | 五ヶ所  | 十三町歩 |
| 東村字草木字境澤  | 十五ヶ所 | 十七町歩 |
- 一、丁場附近ノ地理 花崗岩採掘場ハ南北ニ流ル、渡良瀬川ノ兩岸一体ノ山丘疊重スル傾斜地一帯ニ開カレ澤入ハソレ等丁場ノ略中心ヲナシ、北ハ原向驛、南ハ神士驛迄ニ及ブ、然シテ渡良瀬川ノ兩岸共通路ヲ有シ採石ヲ運搬シ得ベシ渡良瀬川中ノ轉石ヨリ採石スル事ハ今日殆ンドナシ。
- 一、最大採石寸法 角材三十五六切 長物二十尺
- 一、採石種類 角材及板石ニシテ板石ハ採石量ノ約八割ヲ占ム。
- 一、販路 東京府下、神奈川縣、埼玉縣、千葉縣、等ニシテ東京市ニテハ電氣局用板石大部分ヲ占ム。
- 一、用途 土木用トシテ土止め、橋脚、道路用邊石、電車線路用板石等。
- 一、山出方法及運賃 採石後土樋ヲ以テ馬車「ホーム」ニ集積シ馬車又ハ牛車ヲ以テ神土、澤入、原向ノ各驛へ運搬ス丁場ヨリ馬車「ホーム」間平均五町馬車「ホーム」ヨリ驛マデ平均十五町位ナリ。
- 目下牛馬車數合計廿四五臺ヲ使用シ一回ノ積載量九切乃至十四切一日乃至二往復ヲナス
- 根堀リ費 切 十四錢位 山出貨銀（棧代）平均切七錢

馬車及牛車ニヨル運搬費切十五錢、板石坪當リ一圓五十錢

一、石工及人夫 石工二百二十人 角材ノ採掘賃切三十錢一日一人十切ヲ採掘ス。

板石一面坪四圓三十錢（一人一日七合平均ノ採掘能力ナリ）根堀リ運搬夫合計三百人

一、粗石價格

石代金	角材	切ニツキ	八十五錢
	中板	坪ニツキ	九圓五十錢

ニシテ澤入、神土、原向各驛渡シノ賣込單價

角材一切以上入切迄	切ニツキ	一圓三十錢
-----------	------	-------

板石類（但シ中切普通物）	坪ニツキ	十三圓五十錢
--------------	------	--------

一、産出量 大正十三年度ノ桑原留五郎ノ産出量ハ  
角材 一〇四、〇〇〇切 板石 一二、三〇〇坪ナリト。

尙三驛ヨリノ輸出量合計一ヶ月一千八百噸ナリ。

- 一、東京トノ關係
- |               |               |
|---------------|---------------|
| 荻島石材店（新宿角筈）   | 隅用川石材店（隅田川驛前） |
| 藪塚石材商會（淺草驛前）  | 天野石材店（澁谷驛前）   |
| 京濱石材店（大崎驛前）   | 天野石材店（大崎驛前）   |
| 加増屋石材店（惠比壽驛前） |               |
| 東村大字澤入 堀口甲子郎  | 東村大字草木 刈田瀧次郎  |
| 〃 〃 高橋確次      | 〃 〃 佐谷才次郎     |
- 一、其他ノ經營者



長野縣南佐久郡田口村大字三分(佐久石)(三反田石)

一、調査年月日 大正十三年十月一日

二、調査經營者 三反田驛前(佐久鐵道) 佐久石材株式會社

野島石材店(代表者野島勘七)

一、丁場ノ位置及數 佐久鐵道ノ東京沿線、北ヨリ内山村、平賀村、田口村、青沼村、余地村ニ亘リテ連峰ノ西方山麓隨所

ニ點在ス丁場ハ大体内山丁場平賀丁場、田口丁場、三反田丁場、余地丁場ノ五ツニ區分セラル。

佐久石材株式會社ハ一號ヨリ六號迄ノ六ヶ所、野島石材店ハ三ヶ所三反田丁場ニ於テ採掘ス。

一、丁場附近ノ採石地 之等ノ丁場ヨリ稍々北方ニ離レテ北佐久郡平根村下平尾ナル富士山、岩村田町西方ノ協和村及南佐

久郡大日向村字平川原等ハ何レモ所謂鐵平石ノ產地ニシテ、佐久石採掘前上諏訪町ノ鐵平石ト共ニ當地方ノ採石事業タリ

シモ現在ハ石質及運輸ノ便否上上諏訪地方ニ對抗シ得ズ目下休業スト、佐久石、鐵平石ハ何レモ輝石安山岩ニ屬シ佐久石

ハ恰モ板狀節理ヲ有スル安山岩產出地ノ中央部ニ產出スルノ狀ナリ。

一、坑 區 内 部 腐植土ノ層約三尺内外節理間隔七八尺、風化ノ程度ニヨリ軟石及硬石ノ別アル事須賀川石ニ似テ石質

亦須賀川石トヨク類似ス。

石質相州新小松ヨリ緻密ニシテ施行難ナリト。碑石ニ適シ尙建築用材トシテ琢磨ハ效果アラハル。

一、最大採石及採石種類 角材三十切迄 長材十五尺迄

目下ノ採石ハ佛石、土木及建築用材ニシテ間知ハ屑石利用トシテツクル事アリ、土木及建築用材ノ最モ多キハ長物トシテ

八寸一尺角、長サ五尺乃至六尺細物トシテハ五寸六寸、五寸七寸、六寸七寸、六寸八寸、長サ各々三尺ノモノナリ。然シテ各寸法ノモノニ一等品(黒色ヲオビ風化ノ程度少ク硬キモノ)及二等品(白味ヲオビ風化ノ程度多ク軟キモノ)ノ二種アリ。

一、販 路 東京方面へ產出量ノ約四割新潟縣長岡市方面へ約三割ソノ他ノ三割ハ静岡縣、埼玉縣、及高崎市方面ナリ。

一、用 途 建築物ノ土臺石、腰石及一般石造建築用材、延石、下水用材、墓石ハソノ主ナル用途ナリ。

一、石工及人夫數及賃銀

佐久石材株式會社 石工合計五十人 根掘人夫、車引、とろ引人夫合計四十人

野島石材店 石工 十四人 人夫 十四人 運搬人夫 二人

石工 三圓内外 人夫一圓五十錢 運搬人夫二圓五十錢

一、山 出 方 法 丁場ハスベテ佐久鐵道ヨリ數町乃至三十町以内位ノ所ニ存在スルヲ以テ不便ヲ感ゼズ、佐久石材株式會社ハ廿五町ノ輕便軌道ヲ敷設シ目下とろ六臺中三臺ヲ以テ搬出ス一噸半ヲ載積スベク一日七往復ヲナシテ三反田驛「ホーム」ニ出ス、野島石材店ハとろ二臺、長サ五町ノ軌道ニヨリ一日六往復ヲナス軌道終點及丁場ノ間ハ土樋ヲ以テ山出ヲナス切ニツキ二錢乃至一錢ニ當ル、軌道ニヨル運賃ハ切ニツキ一錢五厘ニ相當スト雖モ軌道保線修繕費ヲ加フンバ切二十錢内外ナリト。

一、組 石 價 格 三反田驛渡(但シ貨車積込料噸當リ六十錢ハコノ中ニ含マズ)  
長物七寸尺角 長五尺乃至六尺 切當リ 一圓二十錢(上物)  
八寸尺角 長五尺乃至六尺 一圓 (下物)



細物五寸七寸	長三尺	切	一圓
五寸六寸	"	"	一圓
六寸七寸	"	"	一圓
六寸八寸	"	"	一圓
			一圓十錢

東京各驛迄ハ一噸ニツキ運賃三圓八十錢、東横濱驛マデハ四圓十錢ヲ要ス。

一、産出量	佐久石材株式會社	一ヶ月	約六千切	一ヶ月	探掘能力	一萬切
	野島石材店	"	"三千切	"	"	五千切

一、東京トノ取引先

佐久石材株式會社	東京代理店	下谷區東黒門町一	興醸社	木内義太郎
野島石材店	石問屋	池袋	笠井石材店	
一、他ノ經營者	羽黒下驛前	吉本石材店		
	三反田驛前	朝日石材店	(野島石材店ト略々同格ナリ)	
	岩村田驛前	信濃石材株式會社		

佐久石經營者ハ佐久石材問屋組合ヲ組織シテ事務所ヲ中込村ニ置ク。

一、佐久石ガ最近東京市場ニ出現シテ稍々ソノ眞價ヲ認メラレタルハソノ石質及運輸ノ關係ナルベシ、佐久石ハ其石質、白河石ヨリモ須賀川石ニ酷似スルモノニシテ、佐久石ノ出現ハヤガテ須賀川石ニ恐慌ヲ來スモノナリ、從來東京方面ニ相當ノ市場ヲ有セル須賀川石經營者ノ憂慮セシハ故ナキニアラザルヲ知ル即チ東京秋葉原驛間ノ距離ハ三反田ノ百十五哩ニ比シ須賀川驛百三十三哩ニテ佐久石稍々有利ニシテ東京各驛渡價格切ニツキ五錢平均廉ナリト主張ス又白河石ニ比スレバソノ敷設後急速ニ進展セルモノナリ。

### 長野縣諏訪郡上諏訪町福澤山(鐵平石)

一、調査年月日 大正十三年十月二日

一、調査經營者 上諏訪町 藤森權之助

一、工場ノ位置 上諏訪驛ヲ距ル事東北廿四町高數百尺ノ所ニ在リテ藤森權之助一個人ノ經營ニ係ル、福澤山工場ノ外ニ二ヶ所アルモ尙、角間新田、四賀村等ノ工場全部ヲ合スル時ハ十數ヶ所ニ上ル。

一、坑區内部ノ状態 産出岩石ハ輝石安山岩ニシテ板狀飾理ヲ有シ普通ニ鐵平石、「ヘケ」石、平石等ト稱スルモノナリ、採掘場ハ高サ三十尺乃至百二十尺ニ及ビ更ニ深キ所ニ至ルニ從ヒ石質良好トナルベシ、板狀飾理ノ外ニ柱狀飾理ヲ有シ容易ク加工採掘シ得、飾理ノ間漸ク三寸ニシテ尺餘ニ及ブモノ極メテ稀ナリ。

一、最大採石寸法及採石種類 普通六尺平方ヲ以テ最大トスルモ巾九尺長サ十二尺原サ四寸位ノモノモ採石セリ目下長サ一尺五寸巾六寸ヨリ長二尺五寸巾一尺五寸ヲ採石ス。

一、販路 京濱地方ヘ六割、京阪地方ヘ四割ソノ他千葉縣ヘモ送り出ス。

一、用途 敷石、地中線蓋石等主ナルモノニシテ地方ニヨリテ瓦、煉瓦等ノ代用トス。

一、石工 監督者ノ下ニ石工廿五名運搬人夫及根掘人夫七十名



石工一日平均二圓八十錢ヨリ三四、人夫運搬人夫ハ平均一圓五十錢

一、山出方法 丁場ト上諏訪町ノ東端ニ無端索道長一哩ヲ架設シ索道終點ヨリ牛馬車ヲ以テ上諏訪驛ニ運搬ス牛馬車ニヨル距離三丁、一日七往復、賃一回七十五錢、索道ノ運搬能力四十噸ナリ。

一、粗石價格 東京「レール」渡一平面坪六圓五十錢乃至七圓(但シ厚一寸)

一、東京トノ關係 代理店 本郷區向陵彌生町三 氏 家 棟

問 屋 淺 草 驛 前 藪塚石材商會

一、備 考 採掘丁場ニハ四馬力碎石機ヲ据エ「コンクリート」用「ガラス」製造シツ、アリ

長野縣西筑摩郡讀書村字三留野(花崗岩)

一、調查年月日 大正十三年十月三日

一、調查經營者 東京市麻布區森元町一丁目廿七番地 戶澤組石材部

名古屋市東區車道東町一八 岸 本 庄 吉

一、丁 場 岐阜縣及長野縣ノ縣境ニ近ク中央線三留野驛ヨリ約五町木曾川中ノ轉石ノ採掘權ヲ得、前記經營者及同業者二三名聯絡ヲトリテ經營ス轉石ノ大サ一ケニシテ能ク四千切ノモノアリ、目下二千切ノ大サト稱スル轉石ヲ採掘シツ、アリ。

一、地 理 三留野驛ハ木曾川ノ右岸ニ位ス、木曾川ノ右岸ニ沿フテ縣道通ジ、石ノ搬出ニハ馬車ヲ以テ三留野驛ニ至ル不便ナラズ由來木曾山脈ハ花崗岩塊ヨリナルモノニシテ川中ノ轉石ノ外隨所ニ採掘所ヲ開クヲ得然レドモ轉石採掘上不便ナルハ夏季洪水屢々アルノ一事ナリ、前記經營者ノ採掘場ハ東ハ三留野ニ始リテ美濃坂本村、釜戸村等數箇所ニアリ。

一、石 質 組織中粒ニ屬シ稻田「ミカゲ」ニ比シ細ク、黒雲母ノ量比較的少ク、石英ノ灰色ハ特ニ目立ツ然レドモ建築用材等トシテ用ユル時ハ美觀ナルベシ。

鑄及黒「ホサ」ノ缺點ナシ又石質極メテ硬キ程度ナラズ、ムシロ稻田ニ比シ稍々軟ク施工困難ナラズ。

一、最大採石及採石種類 角材百切(通常四五切ヲ最大トス)長材二十尺位、二三十切ノ角材大部分ヲ占メ目下名古屋市白木屋吳服店建築用材採掘中、コノ外右岸ノ山麓ヨリ間知ヲ採ル丁場數二ヶ所。

一、販路及用途 一般ニ建築用材及裝飾用材トシテ用ヒ間知ノ需要亦多シ。從來輸送ノ關係上名古屋市ニ主ナル販路ヲ見出シタリ京濱ニ於ケル使用例ヲアグレバ川崎製糖會社、日本銀行北館、正金銀行ノ下廻リ等ナリト。

一、石 工 八人、切ニツキ採掘賃三十七錢乃至三十八錢、一日採掘能力平均ナリ「アカトリ」人夫一日二圓也

一、運出方法 川岸ノ轉石ヨリノ切石ハ之レヲ岸上ノ道路ニ引上ゲテ馬車積又ハ牛車積トシテ三留野驛ニ出ス一日七往復一回ノ載積量馬車十切、牛車十三切ナリ運賃切當リ十五錢

一、產 出 量 角材一ヶ月四千切(能力六千五百切) 間知一ヶ月一萬ケ(四萬ケノ能力アリ)

一、粗石價格 東京「レール」渡 切ニツキ 二圓二十錢

角材五切未満 二圓五十錢  
五切以上 二圓八十錢  
十切以上 三圓十五錢  
十五切以上 〃  
二十切以上 〃  
二十五切以上 〃  
三十切以上 〃  
三十五切以上 〃  
四十切以上 〃  
四十五切以上 〃  
五十切以上 〃  
五十五切以上 〃  
六十切以上 〃  
六十五切以上 〃  
七十切以上 〃  
七十五切以上 〃  
八十切以上 〃  
八十五切以上 〃  
九十切以上 〃  
九十五切以上 〃  
百切以上 〃



二十切以上	三圓五十錢
二十五切以上	四圓〇錢
三十切以上	四圓八十錢
三十五切以上	六十五錢
間知 控一尺五寸	八十五錢
〃 二尺	四十七錢

道路鋪石形石材(長九寸五分)

一、備考 前記名古屋市岸本庄吉等ノ經營ニ依ル丁場ニシテ中央線ノ沿線ニハ岐阜縣下ニ美濃坂本村字丸岩、土岐郡釜戸村等ニシテ丸岩産花崗岩ハ三留野ト全ク石質同ジク、釜戸村ノ丁場ハ釜土驛前ニ開カレ石質亦三留野産ト同一ナルモ細粒ニ屬シ、施工稍々難ニシテ彫刻物ニ適スト、恰モ茨城縣ニ於ケル小「ミカゲ」ト稻田「ミカゲ」ノ關係ノ如シ然シテ細粒ノ釜戸村産ニハ黒「ホサ」ヲ散見スル事アリ、鑄氣稀ナリ、釜戸村ヨリ更ニ西ハ中粒乃至粗粒ノ組織ヲ有スル「ミカゲ」ヲ産出ス。

要之、三留野以西ノ花崗岩ハ施工上及ビ色調ノ美ナル事、多量ノ採石ニモ色調ノ揃フ點及鑄ノ生ゼス事、黒ホサナキ事及産出量ニ於テハ建築用材トシ又裝飾用材トシテ稻田「ミカゲ」ト比肩スベク又釜戸村産細粒「ミカゲ」ハ之ニ相當スル眞壁、樺穂ノ小「ミカゲ」ニ優ルモノト思ハル、モ唯東京横濱地方ヘノ運搬ハ中央線ニヨルヲ以テ京濱地方ニ於テ他産品即チ茨城縣山梨縣産出花崗岩ト競争スルハ相當ノ困難ヲ伴ハザル可ラザルナリ、因ニ三留野飯田町兩驛ノ距離ハ百九十哩ニシテ稻田東京秋葉原兩驛間七十四哩ニ比シテ格段ノ差アルヲ見ルナリ。

神奈川縣足柄下郡江之浦村、岩村、眞鶴村及福浦村(本小松石及新小松石)

一、調査年月日 大正十三年十月五日

一、調査經營者 眞鶴 驛前 相州堅石販賣組合事務所 (大正十三年八月一日組織)

堅石トハ新小松石ノ別稱ナリ、ソノ組合ハ所謂相州六ヶ村ナル  
眞鶴村 吉濱村 岩村 早川村 片浦村江之浦 土肥村  
ノ營業者十二名ヨリ成ル。

一、目下稼行丁場ノ經營者、位置、丁場數、採石種類等ヲ示セバ

村名	石材ノ名稱	經營者	採石種類	丁場數
片浦村江之浦丁場	新小松	青木林太郎	間知及角材目下鶴見製油所用材割栗採掘中	堂下一ヶ所
岩村丁場	本小松	土屋康二	間知、割栗、角材(佛石)	澤尻二ヶ所
眞鶴丁場	新小松	熊本武治	神田橋用材採掘ノ豫定	三ヶ所
福浦丁場	新小松	鈴木平三郎	割栗、間知、角材	一ヶ所

ニシテ從來相州六ヶ村ハ新小松石ノ產地トシテ有名ナリ。

堂下丁場ハ江之浦村ノ中、岩村トノ境界ニ接近シタル所ノ海岸一体ニシテ澤尻ニ至ル間、間知、割栗及角材ヲ出ス、本丁場新小松石ハ質堅硬ニシテ加工困難ナリ。

眞鶴丁場ハ眞鶴半島ノ南北兩面ニ存在シ、間道ヲ經テ丁場ニ至ル。陸路極メテ不便ナリ、採掘後直ニ船ニ載積ス半島ノ北側ニアルヲ琴ヶ濱、南側ニ在ルヲ道梨、麥尻ノ二丁場トス。

福浦村ノ丁場モ眞鶴半島ノ南側ニ存シ「かつらつこ」丁場ト稱ス。



岩村ノ松本小丁場ハ熱海海道ノ西部ニアリ、真鶴驛ヨリ約十町馬車ニヨリテ搬出ス

- 一、坑區内部ノ状態 本小松ハ質新小松ニ比シテ遙カニ緻密ナリ、ソノ産地丁場ハ表土ノ厚サ一丈餘、ソノ下層ハ稍々風化ヲウケタル赤褐ノ部分ニシテ層ノ厚サ約二丈ナリ、最下層ハ青味ヲ帯ビテ風化ヲ受ケズ、節理大ニシテ概ネ垂直ナリ、大材ヲ得ベシ新小松丁場ニ比シテ風化甚シ。

新小松産出丁場ハ表土ノ厚サ二尺餘、風化ヲウケタル赤褐ノ層厚ク、坑底平面上約一丈ヨリ以下ハ青石ヲ産ス、節理概ネ垂直ナリ。

一、最大採石寸法

堂ノ下丁場 七十切 長物十二三尺  
道梨丁場 四十切 長物二十尺

目下採掘角材ハ長四尺巾一尺五寸、厚一尺ノモノ、尺角長二尺、六寸一尺長一尺五寸等主ナルモノナリ、間知ハ面尺四方及一尺五寸四方ノモノ最多クヲ占ム。

一、販路 京濱地方

一、用 途 建築用、土木用、墓石用、新小松ハ彫刻用材ニ適ス。

一、石工及人夫數 目下事業不振ニシテ一丁場平均石工及人夫合計十人。

石工ノ賃銀平均 四圓乃至四圓五十錢

人夫ノ賃銀平均 二圓五十錢(鮮人人夫二圓乃至二圓三十錢)

一、山出方法及運搬方法 岩村ノ本小松丁場ノミ馬車ニヨリ真鶴驛又ハ真鶴港ニ搬出スルモ、新小松石ハ主ニ海岸ニ近キ所ニテ採掘スルヲ以テ、「ハシケ」ニ積込ミ後發動汽船ニヨリテ露岸島ニ輸送ス、真鶴汽船會社ハ發動汽船四十艘帆船十艘ヲ

以テ相州堅石販賣組合ヲ始メ真鶴港ヲ中心トシテ伊豆半島東部沿岸ノ産出石材ノ運送ニ従事ス、發動汽船ノ運搬能力平均一回間知十坪ニシテ天候ニヨリ東京真鶴間ヲ一ヶ月ニ五回乃至七回往復ス。

一、東京トノ關係

石問屋 京橋區東港町一丁目廿六番地 秋山喜一

神奈川縣足柄下郡片浦村字根府川(根府川石)

一、調査年月日 大正十三年十月六日

一、調査經營者 東京市京橋區木挽町三丁目十二番地 神崎清治

一、丁場ノ位置及數 根府川ノ川口ヨリ海岸ニ沿フテ北部、熱海街道ノ崖下ニ位ス。

海岸ノ轉石ヨリ採石シソノ面積一町三段歩、公有地ニシテ縣ノ採掘權許可ヲ得。

一、地勢 大正十二年九月ノ震災ニヨリテ根府川一体ハ地勢ノ變化甚ダシク、從ツテ石材採掘場ニモ變化ヲ來シ

根府川兩岸ノ崩壞ハンノ轉石ノ採掘ヲ不可能ナラシメ「へげ」石ト稱シ板狀節理ヲ有スル安山岩ノ丁場全ク埋没シテ現在根府川假驛ノ所ナリト。

一、石質 海岸ノ轉石一般ニ小ニシテ角材ヲ得ベカラズ、且ツ色調一樣ナラズ、軟ク軟石ニ屬ス、目下殆事業休止中ニテ(但シ九月ハ波ノ關係上休業ヲ例トスト)割栗又ハ間知ヲ採ルニ過ギザルベシ、小割栗ヲ採レリト稱ス。

一、販路 東京

一、運出方法 運賃、及粗石價格 採石ハ之ヲハシケニテ運ビ船ニ積ミテ東京靈岸島ニ運ブ、船ハ真鶴汽船會社

ヨリ毎月ノ契約ニヨリテ廻船スルモノナリ。



船ノ運送賃 一面坪ニツキ 六圓七十五錢  
 ハシケ賃 三 圓  
 丁場ノ採掘費及石代 三圓七十五錢  
 合計靈岸島渡 十三圓五十錢

一、石 工 石工三人 一日三圓五十錢(定備制ニシテ道具火藥等全部經營者ノ負擔トス)人夫四人 一日二圓五十錢

一、東京トノ關係 經營者 神崎清治 販賣ヲ兼營ス。

結尾

以上ハ調査年月日ノ順序ニ依リテ、調査事項ヲ列記シ、且ツ現在並ビニ將來ニ於イテ、京濱地方ノ需要ニ對シテ重要ノ關係ヲ有スト、推察セルモノニ就キテハ、少許ノ參考事實ヲ附言セリ尙著者試驗ノ建築用石材ノ立場ヨリ觀察シ、重要ナル花崗岩、安山岩、凝灰岩、大理石、及砂岩ノ產地、搬出驛ト東京着驛間ノ距離及東京「レール」渡一切ノ平均粗石價格ヲ摘出スレバ別表ノ如シ。

(一) 花崗岩之部

稱呼	產地	搬出驛及着驛	全上距離(哩)	東京レール渡粗石價格(切當リ)
一小ミカゲ	茨城縣眞壁郡 眞壁町 樺穂村	眞壁驛—秋葉原間	六一	一圓五六十錢(但搬出驛渡)
二稻田ミカゲ	茨城縣西茨城郡西山内村稻田	兩引驛—全右間 稻田驛—全右間	六二 六四 七四	二圓五錢

(二) 安山岩之部

種呼	產地	搬出驛及着驛	全上距離(哩)	東京レール渡粗石價格(切當リ)
三常陸ミカゲ	茨城縣西茨城郡北那珂村	羽黑驛—全右間	七九(友部經由) 六八(筑波鐵道經由)	二 圓
四赤井ミカゲ	福島縣石城郡赤井村大字西小川田頭	赤井驛—全右間 小川郷驛—全右間	一三八 一四一	上等品二圓七十錢乃至三圓 下等品二圓三十錢
五渡良瀬ミカゲ	群馬縣勢多郡東村	澤入驛—全右間	一〇三(小山經由)	一圓三十錢(但澤入驛渡)
六普通ミカゲ	長野縣西筑摩郡讀書村大字三留野	三留野驛—飯田町間	二九一(塩尻經由)	二圓二十錢

(三) 凝灰岩之部

種呼	產地	搬出驛及着驛	全上距離(哩)	東京レール渡粗石價格(切當リ)
一白河石	福島縣西白河郡西郷村字相野	白河驛—秋葉原間	一一七	一圓十錢
二江持石	福島縣石川郡小塩江村大字江持	須賀川驛—	一三四	上等品一圓四十五錢 下等品一圓三十五錢
三秋間石	群馬縣碓氷郡中秋間村大平	安中驛—	七一	一圓二十錢
四里見石	群馬縣碓氷郡里見村字間野	高崎驛—	六五	一圓二十錢
五佐久石	長野縣南佐久郡田口村大字三分	三反田驛—	一一六	上等品一圓四十錢 下等品一圓三十錢
六鐵平石	長野縣諏訪郡上諏訪町福澤山	上諏訪驛—飯田町驛間	一二二	坪六圓五十錢乃至七圓
七新小松石	神奈川縣足柄下郡(相州六ヶ村)	眞鶴港—靈岸島間	十時間航程	—

稱呼	產地	搬出驛及着驛	全上距離(哩)	東京レール渡粗石價格(切當リ)
一藪塚石	群馬縣新田郡藪塚町	藪塚驛—淺草驛間	六四	—



一大 谷 石	栃木縣河内郡城山村大谷	荒針驛—秋葉原間	七五	六十錢
三鹿沼石(深岩)	栃木縣上都賀郡大芦村大字深岩	廉沼驛—	七六	六十一錢
四高 德 石	栃木縣鹽谷郡藤原村大字高德	栃木驛—	五六	一圓三十五錢
		下ヶ原驛—	八八	

(四) 大理石及砂岩之部

稱 呼	産 地	搬出驛及着驛	全上距離(哩)	東京レール渡 粗石價格(切當リ)
一 寒 水 石	茨城縣久慈郡世矢村	大田驛—秋葉原間	八七	四 圓
二 石 灰 岩	福島縣田村郡大越村	大越驛—	一六〇	噸六圓五十錢乃至七圓
三 多 胡 石	群馬縣多野郡多胡村	吉井驛—	七三	一圓五十錢

尙石材ノ市場ニ於ケル實際ノ状態ニ就キテハ、從來ノ慣習、一般需要者ノ夫々ノ考慮並ビニ石質及價格等ノ事狀ヲ考ヘザルベカラザルモノナレバ、短時日關ノ調査ヲ以テ充分各種石材ノ適否優劣ヲ的確ニ定メ難ク試驗結果ヲ俟テ後ノ機會ニ讓ルヲ以テ至當ノ事ナリト信ズ唯比較的多數ノ産地ヲ短時日ニ調査セル結果トシテ得タル二三ノ參考事實ヲ次ニ述ブベシ。

一、石材産地ト需要地(東京)トノ距離

今日一般ニ京濱地方ニ供給セラルベキ石材ノ産地ト需要地ノ距離ハ百哩以内ヲ以テ、標準ノ範圍トナス説アリ、是恐ラク從來ノ事情及經濟的關係ニヨリテ、自然ノ決定セルモノナラン。前表ニ依ルニ、今日多量ニ東京方面ニ輸送セラル、石材ニツキテハ略々其說當レルガ如ク、六十哩乃至百二十哩ノ範圍ニ存在スルヲ見ル、表中、大理石、赤井「ミカゲ」等

ノ裝飾用材及ビ長野縣三留野以西ノ御影石ハ別トシテ、秋間石及里見石ハ搬出驛及東京着驛間ノ距離ノ近キニ係ラズ、殆ド東京方面ニ輸出ヲ見サルハ採掘地及搬出驛ノ間ノ輸送機關ノ不備ニヨルヲ、大ナル原因トスルモノナルベシ。即チ茲ニ石材ト岩石ノ區別アリ、如何ニ質堅硬ニシテ且ツ美麗ナルモノト雖ドモ、採掘ノ困難、運送上ノ缺陷ノタメニ、多大ノ經費ヲ要スルガ如キ場合ハ、石材特ニ構造用石材ト稱シ難ク單ニ岩石タルニ過ギザルナリ。

二、稻田「ミカゲ」ト中央本線沿線ノ三留野驛以西ノ花崗岩

次ギニ、一般構造用材トシテノ石材ノ場合ハ單ニソノ價格ニヨリテ、凡ソ石材トシテノ價值ハ決定セラルベキモノナランモ、ソノ色彩ノ佳良ニシテ、裝飾用材乃至外部建築用材タリ得ル場合ハ、單ニ價格ノミヲ以テ律スベキモノニ非ラズ、今日モ尙中國各地方ノ花崗岩ノ、遠ク京濱地方ニモ販路ヲ有スルハソノ顯著ナル例ト見テ可ナルベシ、此ノ意味ニ於テ調査地中、中央本線ノ沿線ニテ長野縣三留野驛以西ノ中粒及細粒ノ花崗岩産地名古屋市ト僅々五六十哩ノ距離ナルヲ以テ現在尙名古屋市附近ノ重要ナル石材ノ一ナリト稱ス、然シ亦將來京濱地方ニモ相當ノ聲價ヲ増加スルモノト想像セラルル點アリ、今日京濱地方ノ主要ナル建築用花崗岩ハ稻田「ミカゲ」ナル事言フヲ俟タズ、ソノ稻田「ミカゲ」ノ今日ノ隆盛ヲ來シタル點ヲ見ルニ運搬ノ便ト施工ノ容易ト色彩ノ可良ナルタメニシテ石材トシテノ條件ヲ具備セルモノト言フベキナリ今稻田「ミカゲ」ト中央本線沿線ノ花崗岩トヲ比較スルニ施工ノ容易ナル事ハ稻田「ミカゲ」ト大差ナク、色彩、黒「ホサ」及錆ノ點ニ於テ、寧ロ稻田「ミカゲ」ニ優ルモノアルガ如シ唯々鐵路運搬ハ中央線ニヨルヲ以テ、前者ニ比シテ約三倍前後ノ遠距離ニアリ從ツテ價格ニモ差異ヲ生ズ且ツ途中鹽山「ミカゲ」ノ産地ヲ通過スルヲ以テ、極メテ不利ノ點アリ。東京方面ニ相當ノ勢力範圍ヲ獲得スルハ尙困難ナリ、但シ、モシソノ石質及色彩ノ點ヨリ外部建築用材トシテアル點マデ價格及運搬ノ便否ヲ考ヘザル時ハ京濱地方ノ建築及土木用材ノ一供給地トシテ見逃スベカラザル所トナルベシ。



## 二、江持石、須賀川石及比佐久石

石質ニ於イテ全ジク輝石安山岩ニ屬シ、色彩又類似シ、京濱地方ニ相當ノ販路ヲ有スルモノニ、江持石、須賀川石及佐久石アリ、前二者ハ福島縣須賀川驛ヨリ搬出セラレ、佐久石ハ長野縣佐久鐵道ノ沿線近キ所ニ採掘セラレ、何レモ搬出驛マデノ便利ヨシ、唯々佐久石ハ山出シニ軌道ヲ應用シ、地勢ノ關係ニ依ル事ナルベキモ江持石、須賀川石ノ専ラ馬車ニ依ルニ比シテ經營上ニ有利ナル條件ヲ有ス、更ニ江持石、須賀川石ハ以前ヨリ京濱地方ニ相當ノ販路ヲ有シタルモ佐久鐵道ノ十年前以前ニ敷設セラレテヨリ、須賀川驛ニ於ケル搬出量ハ從來ノ如キ盛大ナラザルハ須賀川驛ノ百三十六哩ニ反シテ三反田驛ノ百十六哩ナル差ヲ有スル鐵道運搬ノ關係ニヨルベシ。

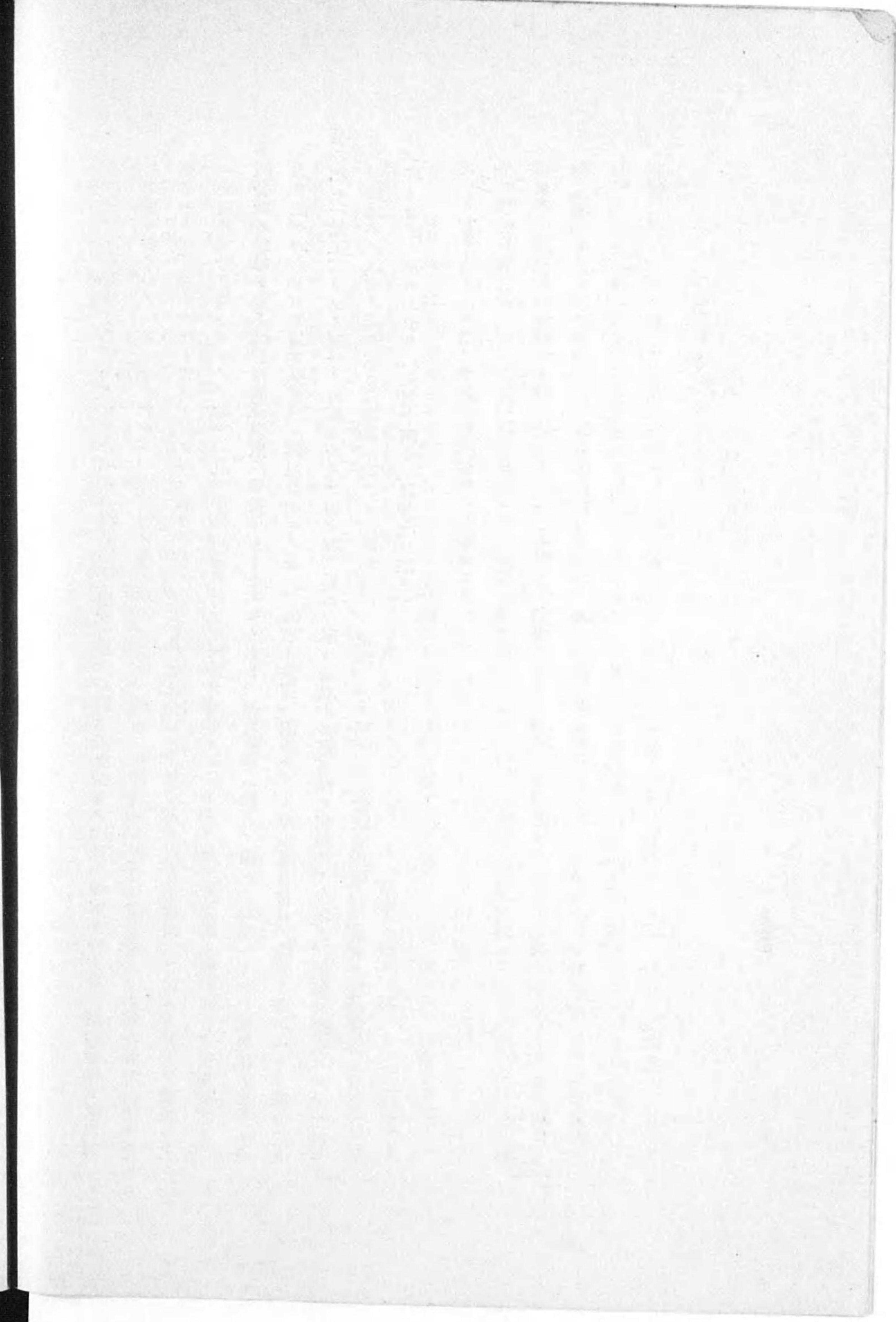
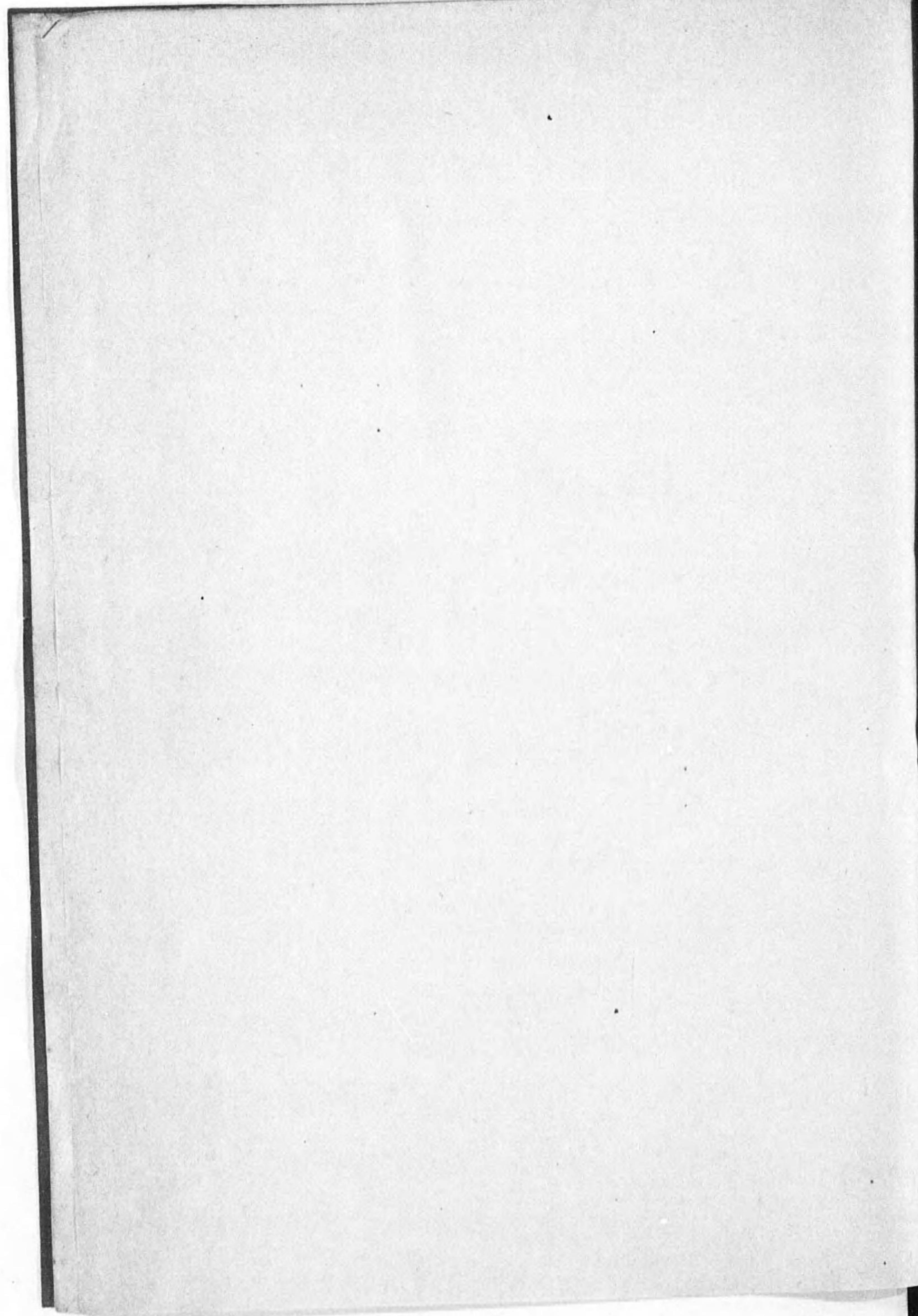
又ソノ色彩及石質等ヨリ見ルモ亦佐久石ガ江持石須賀川石ニ決シテ樂觀ヲ許サル所ナルベシ、次ギニ、白河石モ等シク輝石安山岩ニ屬ス從來須賀川石江持石ヨルハ施工ノ容易價格ノ低廉ナル安山岩トシテ、相當ノ販路ヲ有ス、コノ點ニ於イテ、須賀川石江持石及佐久石ト稍々趣ヲ異ニシ他日佐久石ノ須賀川石等ヲ凌駕スル事アルモ白河石ハ依然トシテ從來ノ如キ販路ヲ有スベキヲ思フモノナリ

## 四、新小松及本小松石ニ就イテ

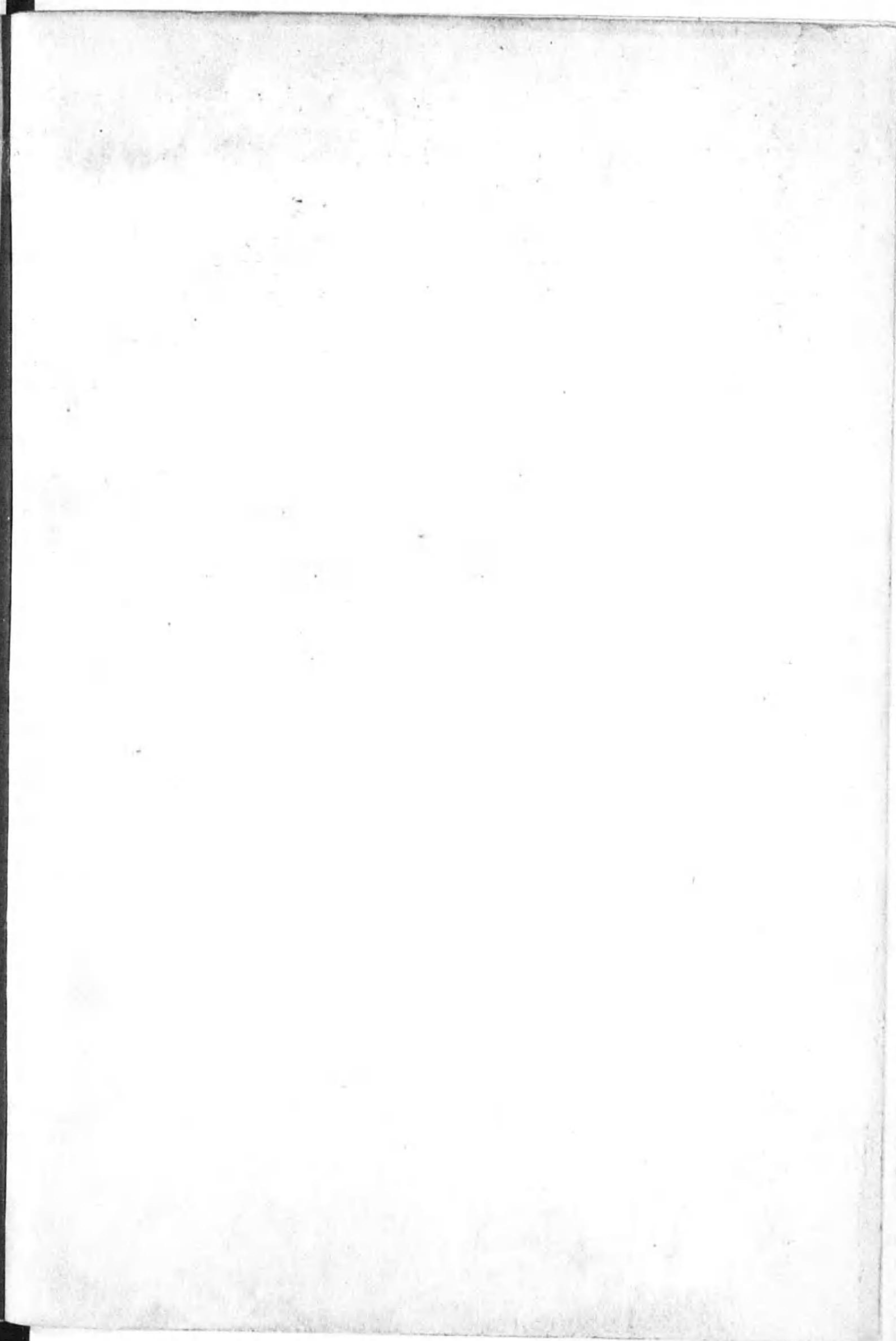
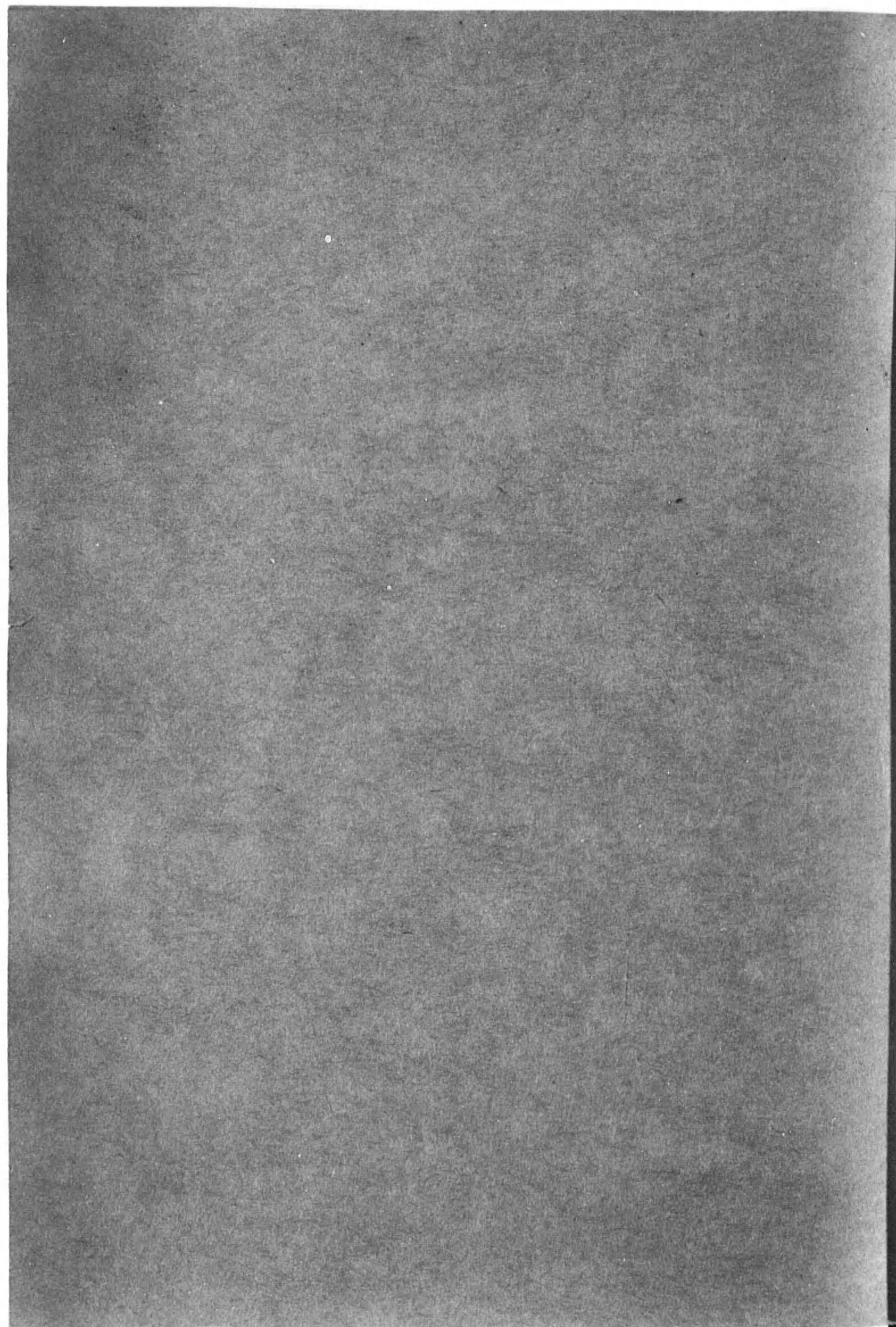
新小松石及本小松石、即所謂相州堅石ノ京濱地方ニ於ケル歴史ハ極メテ古ク明治卅三年稻田驛ノ設置ニヨリ、稻田「ミカゲ」ノ販路漸ク廣マルニ至ルマデ殆ド唯一ノ工用材料タルノ觀ヲ呈シタリ、勿論一般石材ノ販路ハ價格及色彩ニヨリテ決定モラルベキコトハ、前記ノ二三ノ例ニヨリテモ窺知シ得ベキ所ナルモ相州堅石ノ產地ハ最近迄ハ鐵道ノ便ナク採掘地ハ海岸ニ近キ所ニ開カル、ヲ以テ専ラ舟便ニヨリタリ、然モノノ經營法ハ從來ノ形式ニヨル所多ク他ノ採掘地方ト趣ヲ異

ニス、一方京濱地方ヲ中心トシテ各地ノ石材ノ中央市場ニ於ケル競争追々甚シク、且ツ採掘經營方針ガ漸時變化シテ以前ハ中繼者ノ手ヲヘタルモノナルガ、採掘者ノ覺ル所ニヨリテ、所謂「生産者ヨリ直チニ消費者ヘ」ノ經營方針トナリツツアルノ狀顯著ナルモノアリ、此ノ時ニ當リテ彼ノ大震災ノ大破壊作用ハ堅石ノ產地ナル相州六ヶ村ニモ甚大ノ破壊ト共ニ建設的氣分ヲ與ヘシモノノ如ク、且ツ中央市場ニ於ケル販路ヲ獲得スルタメニ、六ヶ村合同ノ販賣組合ノ出現トナリ、經營者ノ連絡ヲ計リ他方採掘及販賣ヲ兼營セントスルモノナリ、調査當時ハ即ソノ極メテ初期ニシテ、罹災地ノ復興ニ全力ヲ注グ時ナリシヲ以テ採掘地ハ休止セルモノ多ク、將來ノ豫測ハ困難ナリト雖モ蓋シ昔日ノ隆盛ヲ來スベキヤ明カナリ要スルニ一般工業トソノ經營ノ方面ニ於イテ稍々趣ヲ異ニシ單ニ資本ノ多寡運搬ノ便否ノミヲ以テ、價值ヲ決定スルハ早計ニシテ、尙幾多ノ詳細ノ調査並ニ實驗室ニ於ケル試驗結果ヲモ參照スルノ要アリ即當試驗所報告ニ載スル實驗報告ニヨリテ完成セン事ヲ希望スルモノナリ（大正十四年三月廿七日記ス）











14.5  
219



終

